# 沖永良部台風

(昭和52年9月,台風第9号)

災害誌

鹿 児 島 県

		-	

#### はじめに

台風銀座といわれる本県の奄美群島地方には、これまで多くの台風が来襲し、大なり小なり、被害を受けてきました。

なかでも、昭和52年9月9日の台風第9号(沖永良部台風)は大型の非常に強い台風で最大瞬間風速604メートルを記録し、そのあと風速計の支柱が傾き、風速観測は不可能になり、また最低気圧は907.3ミリバールとわが国観測史上最低の値を記録するなど稀に見る猛烈な台風でした。

このため、県の防災行政無線、警察の無線もアンテナの倒壊などによって通信が不能となり、また電々公社の通信設備も破損が甚しく通信網は完全にマヒし、情報の収集、伝達は非常に困難を極めました。

さらにこれら災害の復旧にあたっては台風通過後の海上がしけたため船舶による資機材 の輸送が不能となり、航空機による輸送に頼らざるを得ないという状況でした。

県は9月10日午前5時災害対策本部を設置し、自衛隊の偵察機による状況把握につとめるとともに、壊滅的な被害を受けた沖永良部島への応急対策をたてました。

破壊された家屋、倒壊した電柱、散乱した物件による道路の不通、更に停電、断水と幾多の悪条件が重なる中で、自衛隊をはじめ防災関係の各機関の皆様方が総力を挙げて復旧作業に従事された結果、すみやかな回復ができましたことは大へん喜ばしいことでありました。

このような大規模な災害に対処するためには,官民一体となった協力と援助が必要不可 欠であります。

災害対策本部の総務対策部長として今回の災害対策の指揮に当りましたが、災害復旧活動に従事され、また献身的な協力と全面的な援助を惜しまれなかった各機関の皆様方に対し誌上をかりまして心から感謝の意を表しますとともに、今後の御協力を切にお願いするものであります。

ここに今回の災害について諸資料をとりまとめた冊子を刊行いたしますが,今後の災害 対策の上でいささかでもお役にたてば幸いです。

最後に本誌の作成に当りまして資料を提供していただきました鹿児島地方気象台をはじ め関係各機関の皆様に厚くお礼を申し上げます。

昭和 53 年 8 月

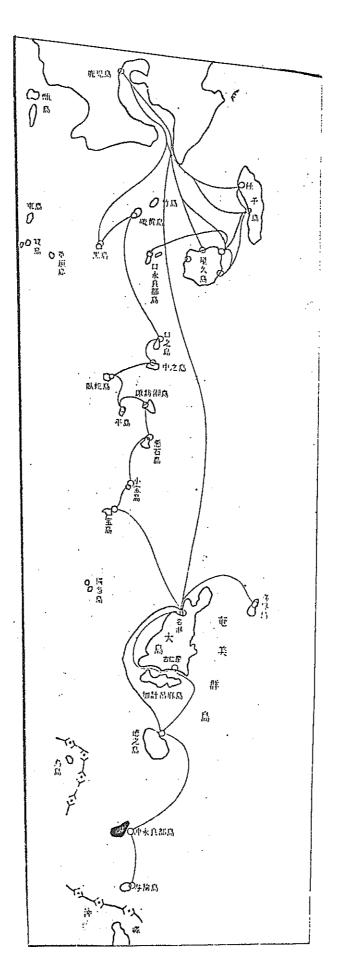
鹿児島県総務部長

今 吉 弘

# 目 次

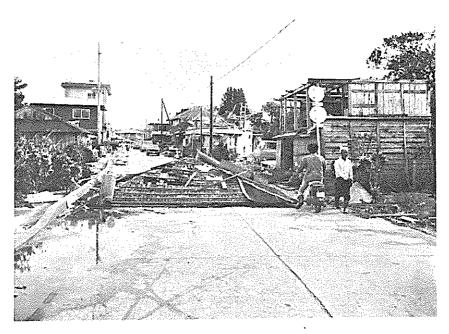
		9
		9
	12	
3 気象官署のとった	2.措置	8
4 台風情報	2 2	2
第2 被害状況調		4
	3	
2 大島郡内市町村-	-般関係破害	8
3 災害市町村別被智	<b>手概要</b> 41	0
第3 県災害対策本部の流	F動 4:	2
	4 :	
	J 4 :	
3 民生労働対策部の	)活動4 8	8
4 衛生対策部の活動	<u>j</u>	2
	<b>J</b> 5	
6 水産商工対策部の	)活動5	9
	<u> </u>	
	<b>h</b> 6	
	· 7	
	<u>J</u>	
11 県災対本部大島	を部の活動7	3
第4 町災害対策本部の流	<b>- 5</b>	6
1 概 况	7	6
2 町災害対策本部の	)活動7	6
(1) 和泊町災害対策	安本部措置概要 7	6
(2) 知名町災害対策	存本部措置概要7	9
第5 部外機関の活動	8	6
1 自 衛 隊	8	6
2 日本電信電話公社	± 鹿児島電気通信部9	1
3 日本専売公社庭り	P.岛地方局9	3
4 九州電力株式会社	<b>土鹿児島支店</b> 9	4
第6 県からの要望	10	2
	1 0	
	10	
	10	
	小中学生の作文から )	

ا ص





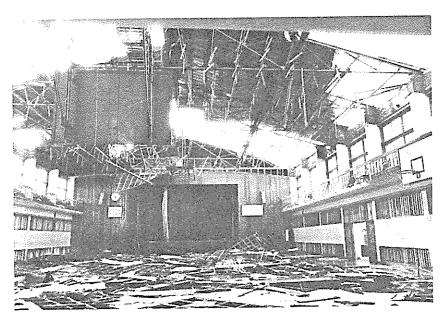
ほとんどの屋根が吹き飛ばされた住宅地帯



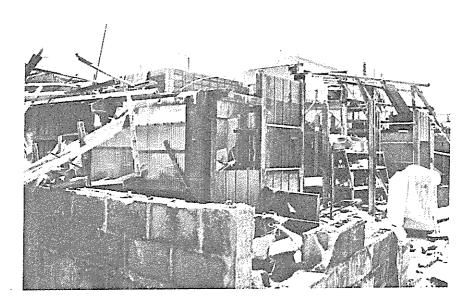
吹き飛ばされ道路を占拠した屋根



柱むきだしの住家の惨状



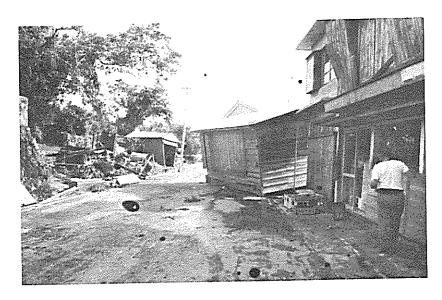
屋根を吹き飛ばされた和泊中体育館



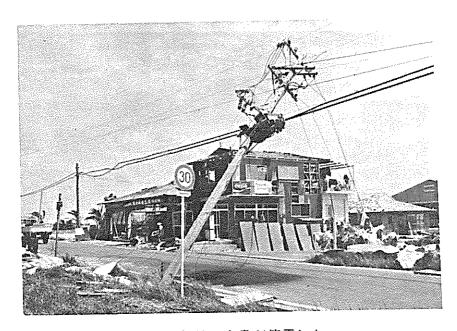
がれきの山と化した住家



倒壊した和泊町公民館を視察する鎌田知事一行



強風は家を動かした



電柱の損壊で全島が停電した

# 第1 気象の概況

#### 1 概 況

#### (1) 気象経過

9月2日にカロリン諸島付近に発生した台風第9号は、ゆっくり西に移動し6日にはフイリッピン諸島の東海上で北北西に向きを変えしだいに発達した。

台風はルソン島の東を引き続き北北西に進み、8日9時には台湾の南東海上で中心気圧905ミリバール、最大風速55メートルの大型の非常に強い台風となった。

夜半ごろ宮古島の南東海上で、一時向きを北東にかえ転向するかにみえたが、再び北に向かって進みはじめた。9日20時ごろ沖縄の東およそ100キロの海上を経て奄美諸島に属する沖永良部諸島に向かった。

てのころから台風はしだいに速度を早め、9日の23時少し前沖永良部島を通過して東シナ海にはいった。台風の通過に際し沖永良部測候所では22時10分に東南東の最大風速39.4メートル、22時16分に東北東の最大瞬間風速60.4メートルを記録したが猛烈な風のため風速計の支柱が傾きそれ以後風に関する観測はできなくなった。最低気圧は22時50分に907.3ミリバールを記録し、日本観測史上最低の値となった。総降水量は179ミリに達し、9日22時30分から23時30分までの1時間に55ミリの強い雨が降った。なお、同島および与論島では多数の家屋が倒壊し、負傷者も多く、さとうきびなど農作物の被害もかなりの額にのぼった。

このころから日本の東方にある太平洋 高気圧が急速に勢力を強めて西に張りだしたため、台風は北北西から北西に向きをかえ奄美大島の西およそ 100 キロの海上を経て、毎時  $45\sim50$  キロとさらに速度を早め、しだいに衰えながら九州本土から速去かった。 10 日昼ころには鹿児島の西およそ 400 キロの海上を西北西ないし西に進み、 11 日昼ころには揚子江の河口付近に上陸してその後弱い熱帯低気圧に衰えた。

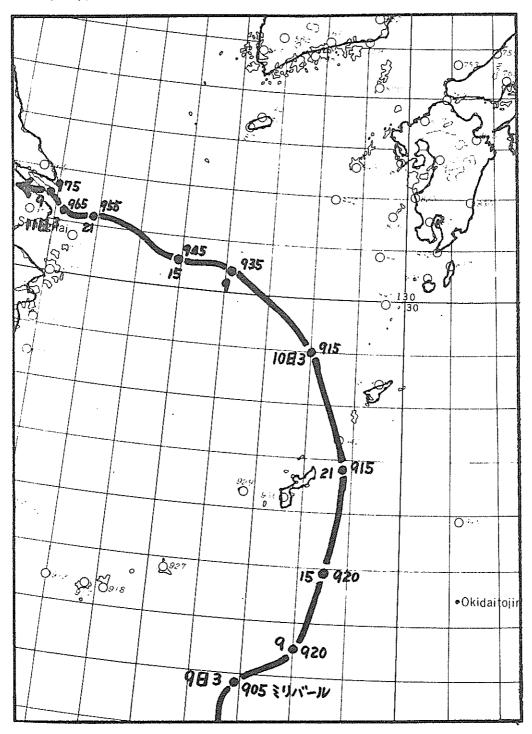
九州本土では、薩摩半島の枕崎市で10日07時に最大瞬間風速34.2メートルを観測したが、 台風が離れて通ったため本土付近での風による被害は少なかった。しかし、台風の周囲の強いバンド状の雨雲が種子島、屋久島地方と大隅半島南部にかかり、8日の降り始めから10日までの雨量は屋久島で260ミリ、9日02時10分から03時10分までの1時間に70ミリの強い雨が降った。

#### (2) 今回の台風の特徴

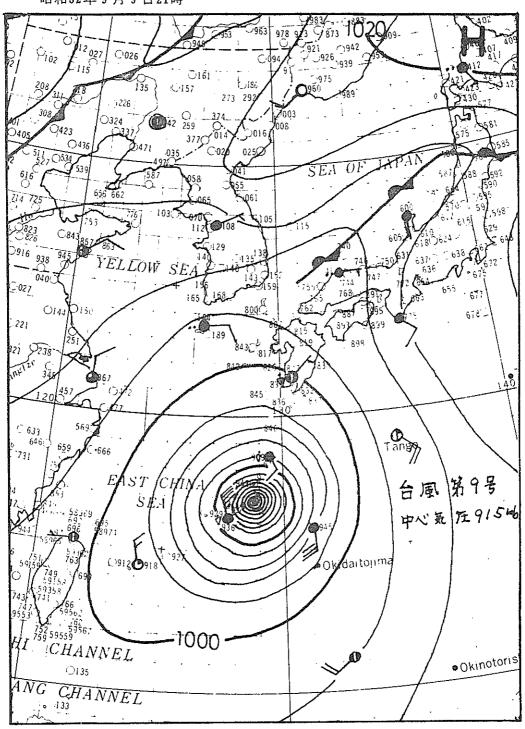
- ア 9月に発生した大型の非常に強い台風であったにかかわらず、太平洋高気圧の変動の影響を 強く受け時季はずれの経路をとり進路予想が困難であった。(9月以降に九州の西海上を西進 して中国大陸に上陸した台風は過去に類例がない。)
- イ 台風の北上にともない、台風の東側で南よりの暖湿な空気が流れてみ日本列島に沿って停滞 していた前線の活動が活発となり、台風からかなり離れた四国から関東地方にかけての日本の 太平洋側にも大雨が降った。
- ウ 台風が通過した沖永良部諸島では多大の被害が発生し、沖永良部測候所では日本観測史上最低の気圧907.3ミリバールを観測した。

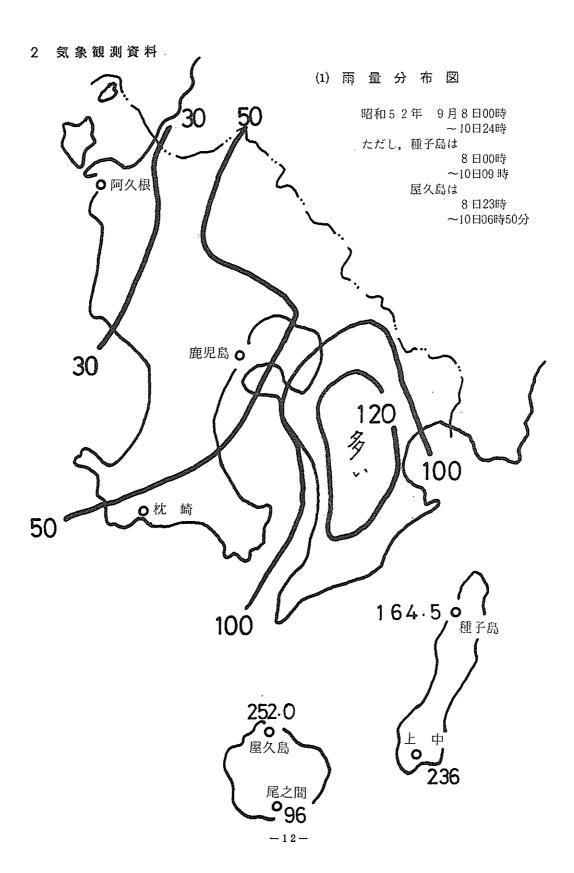
# (3) 台風経路図及び地上天気図

# ア台風経路図

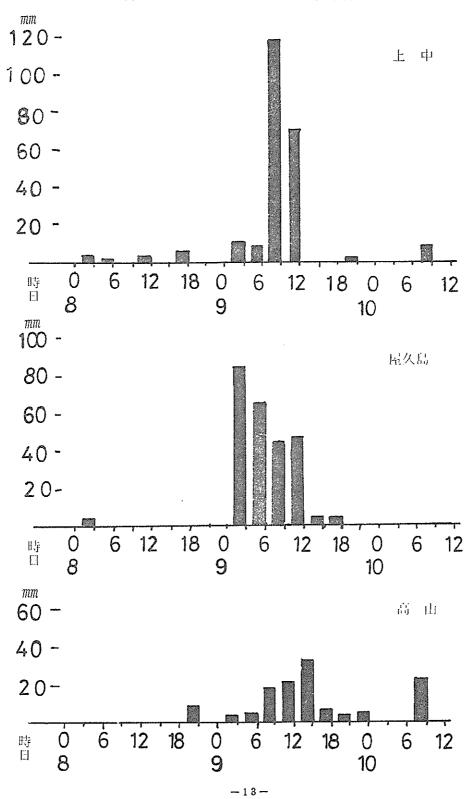


イ 地 上 天 気 図 昭和52年9月9日21時





# (2) 雨 盘 変 化 図 (3 時 間)



# (3) 気象官署観測表

# 冲永良部

日時	気 圧	風向	風 速	雨 趾	天 気
8.03	0 0 3.1	NNE	8.9	0.5	
0 6		ΝE	3.8	0.5	
0 9	0 0 3.3	NNE	4.9	0.5	OD
1 2		ΝE	5.5	_	
15	00 1.0	ENE	5.3		0
18		NNE	5.1	_	
21	0 0 0.5	ENE	7.3	1.0	0
2 4		E	7.6	6.0	
9.03	9 9 6.5	E	6.3	3 5.0	0
0.6		ESE	8.2	1.5	
0 9	9 9 4.1	SSE	6.6	7. 0	0
12		ESE	8.8	0.0	
15	9 9 8.3	ΝE	1 2.7	0.0	<b>Ø</b>
16	986.7	ΝE	1 2.6	8.5	0
17	983.7	ESE	1 3.6	8.0	<b>9</b>
18	9 8 1.9	ΝE	1 9.6	1 1.0	<b>®</b>
19	980.1	ΝE	1 8.4	5.0	0
2 0	9 7 6.3	ΝE	2 1.4	4.0	<b>©</b>
2 1	9 6 9.0	ENE	2 4.0	4.0	0
2 2	946.6	ENE	3 5.6	8.0	
2 3	9 1 6.4	測器破損	貞欠測	2 8.0	•
2 4	964.7	"		5 3.0	<b>Ø</b>
1 0.0 1	974.8	. 11		0.5	0
0 2	9 7 9.4	"		1.0	0
0.3	984.3	"		0.0	0
04	986.6	"		0.5	0
0.5	9 8 8.5	"		0.0	0

# 名 瀬

9.03	9 9.7 4		0. 1	4.0	<b>©</b>
0.6	9 9 6.2	NNW	0.7	2010	<b>©</b>
0 9	9 9 6.2	SE	1.8	2 1.5	0
12	9 9 4.8	SE	3.1	5.5	
1 5	9 9 2.2	SE	4.9	3.5	0

		_					_				_
日	時	気	Œ	風	向	風	速	雨	量	天	烎
	18	989	9.7	S	E		3.2		0.0	0	)
	19	988	3.5	S	E		3.7		0.0	0	)
	20	987	7.2	ES	SE		4.3		0.0	(C	)
	2 1	98	4.8	S	E		4.4		0.0		)
	22	98	2.6	S	E		9.1		1.5		)
	23	980	0. 1	S	E	1	1.9		3.5		)
	2 4	978	3.6	S	E	1	2.6		6.5	•	)
10	).0 I	978	8.4	S	E		6.7		1.5	0	)
	02	979	9.5	S	E	1	2.4		1.5	0	)
	0.8	988	3.4	SS	SE	1	0.8		2.5		)
	0 4	986	6.2		3		8.8		0.5	•	)
	0 5	988	3.7	9	3		8.4		1.0	(	)
	0 6	9 9	1.1	Ş	3		5.2		3.0	0	)
	0 9	99	5.6	٤	3		6.0		1.5	©	)
	12	998	8.6		5		7.2		0.0	1	)
	1 5	998	8.5	5	5		9.1		2.0	1	)
	18	0.0	1.3	,	3	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	4.3		3.5	•	)
·											

# 屋久島

9.03.	0 0 0.9	WNW	3.3	8 1.5	
06		WNW	4.3	07.0	
0.9	0 0 1.4	N W	7. 0	4 4.0	0
12		WNW	4.6	47.5	
15	9 9 7.0	N W	1.9	5.5	0
18		SSE	3.8	5.0	
2 1	9 9 7.9	SE	7. 1	0.5	0
2 4		S E	1 1.7	0.0	
1 0.0 2	9 94.7	SE	1 3.0	0.0	0
03	9 9 4.2	SE	1 5.4	0.0	0
0 4	9 9 4.3	SE	1 2.5	0.0	0
0.5	994.7	S E	1 2.9	0.0	0
0 6	9 9 5.4	SE	1 1.3	0.5	9
07	9 9 6.3	SSE	10.0	0.0	0
08	9 9 7. 0	SSE	1 0.7	_	0
0.9	9 9 8.4	SSE	9.7	_	0

Ξ	時	炱	E	風	向	瓜	速	酮	骶	天	戾
10	.12			SS	E		9. 0				
	15	0.0	1.6	SS	SE.		6.6		0.0	0	)
	18			SS	SE		8.4		0.5		
	2 1	00	6.0	SS	E		5.2		-	I	)
	2 4			SS	SΕ		4.3		_		

日	時	気	圧	風	向	風	速	雨	旗	天	気
1	0.18	0 0	3.7	S	Е		6.7			D	)
Г	2 1	0 0	6.9	E	SE		6.2			0	)
	2 4	0 0	7.8	E	SE		4.9			0	

# 種 子 島

9.0 3	0 0 0.6	ΝE	3. 1	1 3.0	R
06	0 0 0.1	N	7. 0	3 1.0	0
0.9	999.5	Ŋ	1 0.2	3 7. 5	R
12	998.4	NNE	8.5	2 8.5	0
15	9 9 7.6	ENE	2.0	4 7.0	0
18	9 9 8.4	ESE	5.6	2.5	•
2 1	999.4	E	7.5	0.0	<b>D</b>
2 4	998.0	Е	10.2	_	Ф
1 0.0 3	997.1	ESE	9.7		0
0.6	9 9 7. 7	ESE	9.5		0
0 9	0 0 0.2	SE	8.1	2.0	0
12	0 0 2.2	SE	8.4		0
15	0 0 2.4	SE	9.0		Ф
18	0 0 3.4	SE	5.2		0
2 1	007.2	SE	4.8		Φ
2 4	008.2	SE	3.4	0.0	Ф

# 枕 崎

9.09	0 0 1.6	N W	0.5	14.5	
12		WNW	1.3		
15	9 9 7.7	NNE	4.9	2 5.5	
18		ENE	6.1		
2 1	9 9 8.8	ENE	6.0	7. 0	0
2 4		Е	1 2.2		
1 0.0 3	9 9 5.6	ESE	1 0.2	_	
0.6		ESE	1 7. 9		
0 9	9 9 8.6	ESE	1 6.1	1 0.5	0
12		SE	1 3.3		
15	0 0 1.3	SE	1 2.6	0.0	0
18		SE	9.3		
2 1	0 0 5.9	ESE	1 0.7	_	Φ
2 4		ESE	9.8		

# 鹿 児 島

9.09	0 0 1.6	W	0, 5	4.5	
1 2	0 0 0.4	NNE	2.9	1 0.0	_
15	9 9 9.3	NNE	0.9	1 4.5	0
18	9 9 9.6	ΝE	4.5	4.0	0
2 1	0 0 0.0	ΝE	1.9	5.5	0
2 4	9 9 9.3	E	2.7	1.5	0
1 0.0 3	9 9 8.0	E	6.8	0.5	
0.6	9 9 8.5	ESE	1 0.3	0.0	0
0 9	0 0 0.8	S E	9. 7	0.0	0
1 2	0 0 1.8	SE	7. 7	0.5	0
15	0 0 2.4	S E	6.4		0

# 阿久根

9.09	0 0 1.3	ENE	2.5	1.0	0
12		NNE	8.0	2.0	
1 5	9 9 9.6	ΝE	4.2	7. 5	0
18		ΝE	4.0	2.0	
21	0 0 0.2	ΝE	3.7	0.0	0
2 4		ENE	4.3	0.5	
1 0.0 3	9 9 8.1	E	6.6		
06		E SE	6.7		
0 9	9 9 8.6	ESE	7. 2	0.0	0
12		SE	3.6	0.5	
15	0 0 1.2	SE	5.1	0.5	0
18		SE	3.3		
21	0 0 5.7	S SE	3.9		1
24		SE	2.3		
	·				

# (4) 極 値 表

⟨ 要	[素]	最低気	圧(海面)	}	设大师	0. 速	段	大瞬間	引風速	最大	時間雨量	最大日南	ត <u>ត</u> ្រ	総	લાં દિ
官	8	mb	起時日時分	風向			風向		起 時日時分	mm	日時分 ()日時分	mm.	日24時限界	nm	日 時 分 日 時 分
神良	永部				394	9.2210	en e	6 0.4	92216	6 1.0	9.2220 \$ 9.23.20	168.0	9	177.0	8.1820 \$ 10.0510
名	襭	978.2	10.0040	SE	152	9.2340	SE	3 6.3	9.2340	25.0	9.05.4 0 { 9.0 6.4 0	7 0.0	9	97.0	8.1947 \$ 10.1946
屋々	久島	994.1	10.0310	s e	15.4	10.0300	SE	25.3	10.0420	7 0.0	9.0 3.1 0 \$ 9.0 4 1 0	251.0	9	2 52.0	82300 { 10.0650
種-	子島	996.9	10.0250	NNE	134	9.1130	ese	22.1	1 0.0 7 0 0	3 1.0	9.1 220 \( \) 9.1 32 0	1 5 9 . 5	9	1 64.5	8.0000 \$ 10.0900
枕	飾	9 9 5.1	10.0330	ESE	183	10.0530	ESE	34.2	10.0700	1 0.0	10.0730	4 9.0	9	5 9.5	9.0 0 5 0 \$ 1 0.09 0 5
鹿	児島	998.1	9.1600	. 8	5.9	9.2 200	SE	2 0.7	9.0 9 0 0	6.5	9.1 3 3 0 \$ 9.1 4 8 0	4 3.5	9	44.5	9.0 1 2 8 \$ 1 0.1 0 1 4
阿	久根	997.2	10.0440	ESH	9.4	1 0.0 7 3 0	ESE	2 2.7	10.0630	5.0	9.1345 { 9.1445	14.0	9	14.5	9.0 50 0 { 10.110 0

## (5) 日 雨 显 表

地域気象観測網(日界24時)

				2000 A 100 100 1	Deine (Dar 2 an)
地点	TI_	8 E	9 🛱	10日	āt
大	П	1	2 9	2 8	5 8
紫尾	Ш		1 7	14	3 1
宮 之	城		2 2	2 7	4 9
中	甑		2 3	17	4 0
Ίl	内		<b>3</b> 0	2	3 2
從	辺		3 6	1.4	5 0
入 来	峠		4 1	6	4 7
東 市	来		2 9	2	3 1
権現	ァ 尾		3 7	2	3 9
吉ヶ牙	川 府	6	7 6	×	×
志 布	志	5	8 1	7	9 3
最	λ		5 2	2	5 4
崗	山	9	9 7	2 5	131
距	宿		6 6	3	6 9
前与流	志 岳		1 0 4	1 6	120
内之	W.	5	107	12	124
租 子	島	3	160	2	1 6 5
Ŀ	中	1 4	2 1 4	8	2 3 6
屋久	lij.	8	2 5 1	ı	2 6 0
尾之	闿	1 6	7 5	5	9 6
名	瀬	8	7 0	1 9	9 7
古仁	屋	×	6 7	×	×
神 永	良部	1 0	×	×	×
出	水		1 3	16	2 9
牧 之	原		9 6	1 3	1 0 9
矢 止	岳		2 6	2 0	4 6
鹿	屋		9 4	2 5	119
間	幹	1 1	7 1	4 2	124

# 3 気象官署のとつた措置

# (1) 注意報警報の発表

台風の接近に伴ない,下表のとおり注意報・警報を発表し注意を促した。

官署	種 別	発 表 時 刻	解除時刻
	波浪注意報	9月8日17時50分	
	大雨洪水強風波浪注意報	9 日 1 4時 2 5分	切りかえ
鹿児島	波浪警報大雨洪水強風高潮注意報	21時20分	"
地方	暴風雨洪水波浪高潮警報	2 3時 1 5分	"
気象台	波浪警報大雨洪水強風注意報	10日11時20分	"
	<b>始風波浪注意報</b>	15時45分	"
	波浪注意報	21時30分	"
	波浪注意報	9月7日15時35分	
	大雨洪水強風波浪注意報	8日17時10分	りのかえ
名瀬	波浪警報大雨洪水遊風波浪注意報	9日10時00分	"
	暴風雨波浪高潮洪水警報	16時45分	"
測候所	波浪警報強風注意報	10日 6時30分	"
:	<b>始風波浪注意報</b>	1 2時 1 0分	"
	波浪注意報	2 1時 3 0 分	"
	被浪注意報	9月8日18時00分	
	大雨洪水雷雨波浪注意報	9日 3時10分	切りかえ
種子島	大雨洪水警報雷雨波浪注意報	3時50分	"
	大雨洪水警報強風波浪注意報	9時 10分	"
測候所	暴風 兩波浪洪水警報高潮注意報	2 1 時 2 5分	"
	<b>強風波浪注意報</b>	10日11時30分	"
	波浪注意報	21時50分	"

## (2) 台風情報の発表 (別掲)

	九州南 部地方		鹿児島地 方気象台					
号	日時分	号	日時分 号 日時分					
1	8. 17:30	6	9. 23:30 11 10. 6:00					
2	9. 5:40	7	1 0. 1:40 1 2 1 0. 8:10					
3	9. 11:35	8	10. 2:50 13 10. 11:30					
4	9. 17:20	9	10. 4:30 14 10. 14:45					
5	9. 20:30	1 0	10. 5:00					

	奄美地方			名社	類測候所
号	日 時 分	号	日 時 分	号	日 時 分
1	8. 8:40	7	9. 19:50	1 3	10. 1:30
2	8. 13:50	8	9. 21:20	1 4	10. 2:10
3	8. 19:45	9	9. 22:20	1 5	1 0. 2 : 4 5
4	9. 7:50	1 0	9. 23:05	16	1 0. 4:45
5	9. 13:15	1 1	10. 0:05	17	10.6:10
6	9. 16:30	1 2	10. 0:30		

	種子島屋久島地		種子島測候所					
号	日 時 分	号	日	時 分	号	日	時 分	
1	9. 11:20	2	1 0.	4:30	3	1 0.	7:30	

# (3) 梅上警報の発表 (九州南方海上と日向灘)

種 別	В	時 分	種 別	日	時 分	種 別	日	時 分
風警報	8	8:50	台風警報	9	8:10	台風警報	1 0	2:10
並風警報	8	14:20	"	9	11:55	"	10	5:30
"	8	17:50	"	9	13:50	11	1 0	8:00
暴風警報	8	22:50	"	9	16:50	暴風警報	10	10:50
"	9	1:55	"	9	20:20	11	1 0	14:30
台風警報	9	5:50	"	9	23:00	強風警報	1 0	17:45
				!		"	10	23:20
						風警報	11	6:00
						"	1 1	18:00

#### (4) 鉄道気象通報

予 報 区	答	文	発	麦	採	ţ	梦	3)
カコ1の1.2.3	テケロ		9.	1	4	:	2	5
カコ1の1.2.3	テケイ・テク	ィヘ・テケカ		2	1	:	2	0
カコ1の1.2.3	テケニ・テク	アカ		2	3	:	1	5
カコ1の1.2.3	テケイ・テ・	ケヘ	1 0.	1	1	:	3	0
カコ1の1.2.3	テケイ			l	5	:	5	0
カコ1の1.2.3	テケン			2	l	:	3	0

なお,内容は次のとおりである。

#### 0 予報区

カコ1の1,2,3……県下の国鉄全路線

#### 0詧 文

テケロ・・・・風が強くなる。

テケイ・・・風が著しく強くなる。

テケヘ・・・大雨が降る。

テケカ・・・海岸では大波または高潮のおそれがある。

テケン・・・・警戒をとく。

#### (5) その他

#### ア 台風説明会

E	3	· 時	刻	場	所	対	象	者	
9	)	14:00-	15:00	鹿児島地方	気象台	防災担当機関	,報	道関係 5	0名
9	)	14:00-	15:00	種子島測候	所	防災担 当機関	2 5	名	

#### ィ 放 送

9月9日から9月10日にかけてテレビ(TV), ラシオ(R)により台風進路予想,大雨状況の説明等を放送し、一般の注意を促した。

NHKTV

12回

MBC(南日本放送)R

9 🗊

MBCTV

15回

鹿児島地方気象台

日	時 刻	種 別	日	時 刻	種 別	В	時 刻	種 別
9	11:55	MBCTV	1 0	2:30	MBCTV,R	1 0	7:00	MBCR
	18:00	мвсту		8:00	MBCTV,R		7:01	NHKTV
	21:55	мвсту		3:30	NHKTV		7:15	NHKTV
	22:45	MBC R		4:30	NHKTV		7:36	NHKTV
	22:55	мвсту		4;30	MBCTV.R		7:45	мвсту
10	0:00	MBC R		5:00	мвсти		8:30	инктv
	0:45	мвсту		5:30	мвсту		10:00	NHKTV
	1:30	MBCTV,R		5:30	NHKTV		11:54	мвсту
	1:30	NHKTV		6:00	NHKTV		12:00	MBCR
	2:00	MBCTV, R		6:10	NHKTV			
	2:30	NHKTV		6:30	MBCTV			

#### 4 台風情報

九州南部地方

9月8日17時30分発表 台 風 情 報 第 1 号

1 観 測 時 刻 8日15時00分現在

2 方 向 距 雄 沖繩の南南西およそ550キロ

台 風 3 中 心 位 置 北緯21°25′東径126°55′

第 4 進 行 方 向 北北西

。 5 進 行 速 度 毎時20キロ 号

の 6 中 心 気 圧 905ミリバール

状 7 最 大 風 速 5 5 メートル

8 暴風雨半径等 中心から 東200 キロ以内は風速25メートル以上

9 そ の 他

大型の非常に強い台風は沖繩と石垣島の間にむかっています。台風第9号は8日15時には沖繩の南南西およそ550kmの北緯21°25′東径126°55′にあって1時間におよぞ20kmの速さで北北西に進んでいます。中心の気圧は905mb,中心付近の最大風速は55m/ѕес 中心から東側半径200km以内,西側半径120km以内では風速25m/ѕес以上で,中心の東側1000km、西側600km以内では風速15m/ѕес以上の強い風がふいています。台風は今後しばらくは北北西に進み,明日の午後には沖繩と石垣島の間をとおり,東シナ海にはいる公算が大きくなりました。台風の規模が大きいため奄美近海はすでに風速15m以上の強風域にはいっており海上は時化てうねりが高くなっています。台風の北上にともなって奄美近海は東よりの風がさらに強くなり明日の午後には暴風圏にはいって,大時化となるおそれがありますので海上・陸上とも十分警戒してください。種子島・屋久島地方及び九州南部地方の本土でも今夜半すぎには風速15m以上の強風域にはいるでしょう。海上は波・うねりとも高くなりましょう。各方面とも今後の情報に注意してください。

九州南方海上と日向灘に海上風警報, 奄美地方に大雨洪水強風被浪注意報, 宮崎地方に波浪注意報がでています。

追加; 鹿児島地方 17:50 波浪注意報

#### 9月9日05時40分発表

#### 台風情報第2号

1 観測時刻9日03時00分現在

2 方 向 距 離 宮古島の南東およそ250キロ

台 風 3 中 心 位 置 北緯22°55′東径126°55′

第 4 進 行 方 向 北

5 進 行 速 度 毎時15キロ

号 の 6 中 心 気 圧 905ミリバール

状 7 最 大 風 速 5 5 メートル

8 暴風雨半径等 中心から 東200 キロ以内は風速25メートル以上

9 そ の 他

況

大型の非常に強い台風第9号は沖繩付近に向って北上を続けています。

台風第9号は9日03:00には宮古島の南東およそ250kmの海上,北緯22°50′東径126°55′にあって1時間におよそ15kmの速さで北に進んでいます。中心の気圧は905mb中心付近の最大風速は55m/sec,中心の東側200km,西側120km以内では風速25m/sec以上,中心の東側1000km,西側600km以内では風速15m/secの強い風が吹いています。

台風はこのまま北上をつづけ明朝03時には沖繩のすぐ東の海上北緯26°00′ 東径125°00′ を結ぶ線上に達する見込みです。奄美地方では今夜, 聚風閥に入るおそれがつよくなってきましたので厳重に警戒してください。本土でも次第に風がつよまります。明日は風雨とも強くなりましょう。

九州 南部地方は全般に雷を伴った強い雨が降るおそれがありますので注意してください。 海上は 奄美地方ではうねりを伴った強い雨が降るおそれがありますので注意してください。 海上は奄美地 方ではうねりを伴って大時化となり今夜から明日にかけては猛烈に時化る見込みです。 本土でもし だいに時化ますので警戒してください。

現在奄美地方に大雨洪水強風波浪注意報,種子島地方に大雨洪水警報,雷雨波浪注意報,鹿児島 地方と宮崎地方に波浪注意報が,九州南方海上と日向灘に海上台風警報が出ています。

#### 9月9日11時35分発表

台風情報第 3 号

- 1 観測時刻9日09時00分現在
- . 2 方 向 距 離 沖繩の南およそ300キロ
- 台 3 中 心 位 置 北森 2 3° 3 0′ 東径 1 2 8° 0 0′
- 第 4 進 行 方 向 北 東
- 9 5 進 行 速 度 毎時15キロ
- 号
- の 6 中 心 気 圧 920ミリバール
- 状 7 最 大 風 速 45メートル
- 況 8 暴風雨 半径 等 中心から 南120 キロ以内は風速25メートル以上
  - 9 その他 " 東1000 " 15 " 西 600

大型の非常に強い台風 9号は向きを北東に変え、沖繩の東海上に向かっています。台風 9号は9日 午前9:00には沖繩の南およそ300キロの北緯23°36′東径128°00′にあって1時間に およそ15kmの早さで北東に進んでいます。中心の気圧は、920mb中心付近の最大風速は45m 中心の東側200km西側120km以内では、風速25m以上、中心の東側 1,000km西側600km以 内では風速 15m以上の強い風がふいています。台風は、今後しばらく北東に進み、明朝には、沖縄 の東海上を経て奄美地方の南海上に接近する見込みです。台風がやや北よりに進みますと、奄美地方 の南部では、明朝には、暴風雨圏に入る恐れがあります。台風の規模が大きいため、九州の南海上は すでに風速15m以上の強風圏に入っており、しけてうねりが高くなっています。 奄美地方南部の近 海では、今夜から大しけとなり明日の午前4:00頃の満潮時には高潮のおこる恐れもありますので レーダー観測によりますと、九州の南海上には高さ 10 kmを越す厚い雨雲 十分警戒して下さい。 が停滞しており、種子・屋久ではかなり強い雨がふり続いています。昨夜のふり始めから、今日午前 11:00までに、屋久では241㎜種子島の上中では213㎜種子島では、今日午前10:00ま でに93㎜の大雨となっています。がけ崩れ、山崩れ、河川のはんらんなど水害にも厳重な警戒を続 現在九州南方布上と日向灘に海上台風警報、奄美地方に波浪・大雨・洪水・強風注 意報、種子、屋久に大雨洪水警報・強風波浪注意報、鹿児島に波浪注意報が宮崎に大雨・洪水強風波 浪注意報がでています。

## 9月9日17時30分発表

#### 台風情報第 4 号

1 観 測 時 刻 9日15時00分現在

2 方 向 距 囃 那覇の南東およそ170キロ

風 3 中 心 位 置 北緯24°55′東径128°30′

第 4 進 行 方 向 北

台

況

9 5 進 行 速 度 毎時20キロ

の 6 中心気圧 920ミリバール

状 7 最 大 風 速 45メートル

8 暴風雨半径等 中心から 東200 キロ以内は風速25メートル以上

9 そ の 他

台風第9号は9日の15:00には、那覇の南東約170kmの北緯24°55′東径128°30′ にあって 1時間におよそ20kmの速さで北に進んでいます。中心の気圧は920mb,中心付近の 最大風速は 4 5 m/sec, 中心の東側 2 0 0 km以内, 西側 1 2 0 km以内では風速 2 5 m/sec 以上 中心の東側 8 0 0 kmと西側 6 0 0 km以内では、風速 1 5 m / sec 以上の強い風がふいています。台 風は引き続き北に進み,今夜半すぎ沖繩のすぐ東海上を通って明日は奄美地方にかなり接近する見 込みです。台風の規模が大きいため九州の南征上ではすでに風速 i 5 m/ sec 以上の強風域に入っ ており,奄美地方南部の沖永良部島では,雨を伴い平均風速 15m前後の東よりの強い風がふきつ づいています。奄美地方の南部では今夜から、奄美地方の北部でも明早朝には暴風圏に入る公算が 大きくなりました。このため奄美近海では間もなく大時化となりましょう。なお明朝04:00頃 と 17:00頃の満潮時には髙潮のおこるおそれがありますので厳重に警戒してください。レーダ 一観測によりますと九州の南海上は、台風をとり囲むバンド状の厚い雨雲がかかり、所々で高さ 10 Maをこえています。特に種子島と屋久島では大雨となっており、昨夜降り始めから、今日 1 6 :00 までに屋久島で259㎜,種子島で162㎜,上中で221㎜に達しました。台風の北上に伴って, この強い雨の区域も北に広がり始めており大隅半島の内ノ浦では今日の午後2時から3時迄の1時 間に26㎜の歯い雨が降り,降り始めから16:00迄に96㎜に達しました。各方面とも崖崩れ や土石流,河川の増水や氾濫などの水害にも厳重に警戒してください。現在九州南方海上と日向灘 に海上台風警報,奄美地方に暴風雨高潮波浪洪水警報,種子・屋久地方に大雨洪水警報,強風波浪 注意報, 鹿児島地方と宮崎地方に大雨洪水強風波浪注意報がでています。次は午後8:30頃です。

# 9月9日20時30分発表

台風情報第5号

1 観 測 時 刻 9日18時00分現在

2 方 向 距 雄 那覇の東南東およそ120キロ

風 8 中心位置 北森25°50′東径128°50′

第 4 進 行 方 向 北

台

9 5 進 行 速 度 毎時30キロ

号

の 6 中 心 気 圧 920ミリバール

状 7 最 大 風 速 45メートル

況 8 暴風雨 半 径 等 中心から 西 1 2 0 キロ以内は風速 2 5 メートル以上

9 そ の 他

大型の非常に強い台風9号は,明朝早く奄美大島にかなり接近して通過し,九州南部地方にむかう 見込みです。台風第9号は、9日18:00には那綱の東南東およそ120kmの北緯25°50′東 径128°50′にあって速度を早め1時間におよそ30kmの速さで北に進んでいます。中心の気圧 は920mb中心付近の最大風速は45m,中心の東側200㎞と西側120㎞以内では風速25 m以上,中心の東側800㎞西側600㎞以内では風速15m以上の強い風がふいています。台風 は速度を速めて北に進み今夜半前沖繩の東海上を通過して明朝早く奄美地方にかなり接近する見込 みです。台風の規模が大きい為,九州の南海上は風速 15 m以上の強風域にはいっており沖永良部 地方ではすでに暴風雨圏にはいって,東よりの強い風がふきはじめています。 19:30に沖永良 部測候所で最大瞬間風速東D風 3 1.2 m, 19:50に平均最大風速東の風 2 4.0 mを観測しまし た。徳之島・奄美大島本島でも間もなく暴風雨圏にはいりましょう。奄美大島近海では猛烈に時化 明朝04:00頃は,満潮時に重なって海岸地方では高潮のおこるおそれがあり,陸上ではさらに 風雨が始まり重大な災害のおこるおそれがあります。なお台風がこのまま進みますと明日の夕方に は、九州南部にかなり接近する見込みです。今後の台風情報に十分注意してください。午後6時の レーダー観測によりますと、台風をとりまく高さ10㎞以上の雨雲が九州南部地方の本土から奄美 地方にかけておおっており、降り始めてから今日の 19:00までの子報では屋久島で 250 mm, 内ノ浦 105㎜, 甫与志岳 100㎜となっています。各地方とも崖崩れや, 土石流, 河川の増水や 氾濫などの水害にも敵重に警戒してください。 現在九州 南方海上と日向礁に海上台風警報,奄美地 方に暴風雨高潮波浪洪水警報、種子・屋久地方に大雨洪水警報、強風波浪注意報、鹿児島地方と宮 畸地方に大雨洪水強風波浪注意報が発表されています。次は午後11:30。宮崎地方は,大雨洪\* 水注 意報と波浪警報になりました。(20:50)

#### 9月9日23時30分発表

台風情報第6号

1 観測時刻9日21時00分現在

2 方 向 距 離 那覇の東北東およそ130キロ

風 3 中 心 位 置 北緯26°50′東径128°50′

第 4 進 行 方 向 北

号

况

台

5 進 行 速 度 毎時30キロ

の 6 中 心 気 圧 920ミリバール

状 7 最 大 風 速 45メートル

9 そ の 他

大型の非常につよい台風第9号は間もなく奄美大島本島を直げきし、明朝09:00頃には種子島近海に達し、最悪の場合は、明日の昼前に鹿児島県南部に上陸するおそれがあります。台風第9号は21:00には、那覇の東北東およそ130kmの北緯26°50′東経128°50′にあって一時間におよそ30kmの速さで北に進んでいます。中心気圧920mb,中心付近の最大風速45m/sec中心の東側200kmと西側120km以内25m/sec以上,中心の東側800km西側600km以内15m/sec以上の強い風がふいています。台風は引きつづき北進しておりまもなく奄美大島本島を通過し明日の午前9:00頃には種子島近海に達し昼前に本土南部に上陸する可能性が強くなりました。台風の中心が沖永良部島のすぐ近くを通ったため、沖永良部測候所では21:50に東北東の風平均32m/sec,22:15に最大瞬間風速60.4m/secを観測しました。奄美地方は暴風雨となって海上は猛烈に時化ており重大な災害が予想されるので、陸上・海上とも敞重に警戒してください。種子・屋久地方は夜明け前から、九州南部地方の本土は明朝から暴風雨間にはいるおそれがあるので今後の台風情報に注意してください。

奄美地方→暴風雨高潮波浪洪水繁報

種子・屋久地方→暴風雨波浪洪水警報 高潮注意報

鹿児島・宮崎地方→暴風雨波浪洪水注意報 高潮警報

# 9月10日01時40分発表 台 風 情 報 第 7 号

1 観 測 時 刻 10日00時00分現在

2 方 向 距 離 名瀬の西およそ 60 キロ

第 4 進 行 方 向 北

9 5 進 行 速 度 毎時3 5キロ

号。他们处及私们。

の 6 中心 気 圧 910ミリバール

状 7 最 大 風 速 4.5メートル

況 8 梨風 雨 半 径 等 中心から 西 1 2 0 キロ以内は風速 2 5 メートル以上

9 そ の 他

大型の非常に強い台風第9号は奄美大島本島の西海上60kmの海上を北上しています。台風第9号は10日00:00には名瀬の南西およそ120kmの北緯27°50′東径128°30′にあって1時間におよそ85kmの速さで北に進んでいます。中心気圧910mb,中心付近の最大風速は45m中心東側200km以内と西側120km以内では風速25m以上,中心の東側800km西側600km以内では風速15m以上の強風がふいています。台風はひきつづき北にすすんでおり今日昼頃には種子島の北80kmの北緯31°00′東径131°00′,女島近海の北緯32°00′東径128°30′を結ぶ線上の間に達する見込みで最悪の場合九州南部に上陸するおそれがあります。奄美大島地方は現在暴風雨圏に入っており,名瀬測候所では9日23:30に南東の風最大瞬間風速36.3mを記録した。種子・屋久地方は今日の明け方から,九州南部の本土では今日の朝から暴風圏にはいり雨風ともつよまって重大な災害が予想されるので陸上・海上とも厳重に警戒して今日の05:90は,満潮となっており,海岸地方は高潮にも十分注意してください。

奄美地方 暴風雨高潮波浪洪水警報

種子島・屋久島地方 暴風雨波浪洪水警報

高潮注意報

鹿児島·宮崎地方 暴風雨波浪洪水高潮警報

9月10日02時50分発表 台 風 情 報 第 8 号

1 觀 測 時 刻 10日

2 方 向 距 雕 名嶽の西北西およそ130キロ台

風 3 中心位置北称28°35′東径128°10′

第 4 進 行 方 向 北北西

9 \_ 5 進 行 速 度 毎時 3 5 キロ

の 6 中心 気圧 910ミリバール

状 7 最 大 風 谏 45メートル

201

台

8 暴風雨 半径 等 中心から 西120 キロ以内は風速25メートル以上

9 そ の 他

大型の非常に強い台風第9号は、進路をやや西寄りに変え名瀬の西北西およそ130kmの海上を北北西に進んでいます。台風9号は10日02:00には北緯28°35′東径128°10′で1時間におよそ35kmの速さで北北西に進んでいます。中心気圧910mb,中心付近最大風速45m/sec,中心の東側200km,西側120kmでは25m以上の風がふいています。

9月10日04時30分発表 台 風 情 報 第 9 号

1 観 測 時 刻 10日03時00分現在

2 方 向 距 離 名瀬の西北西およそ170キロ

風 3 中 心 位 置 北韓29°00′東径128°00′

第 4 進 行 方 向 北北西

以下は第7号と同じです。

9 号 5 進 行 速 度 毎時4 5キロ

の 6 中 心 気 圧 915ミリバール

状 7 最 大 風 送 (中心付近) 45メートル

8 暴風雨 半径等 中心から キロ以内は風速 メートル以上

9 そ の 他

今日昼頃枕崎の西海上に近づく見込みです。

#### 9月9日05時00分発表

台風情報第10号

1 観 測 時 刻 10日04時00分現在

2 方 向 距 離 名顧の北西およそ 2 7 0 キロ

風 8 中心位置

台

台

第 4 進 行 方 向 北北西

5 進 行 速 度 毎時 4 5 キロ 号

の 6 中心 気 圧 915ミリバール

状 7 最 大 風 速 4 5 メートル

8 暴風雨半 径 等 中心から 恵120 キロ以内は風速25メートル以上

9 そ の 他

#### 9月9日06時00分発表

台風情報第11号

1 観 測 時 刻 10日05時00分現在

2 方 向 距 離 名瀬の北西およそ270キロ

風 3 中 心 位 置 北緯29°40′東径127°05′

第 4 進 行 方 向 北西

9 5 進 行 速 度 毎時45キロ

の 6 中心 気 圧 915ミリバール

状 7 最 大 風 速 45メートル

8 暴風雨半径等 中心から 斑200 キロ以内は風速25メートル以上

9 そ の 他

台風第9号は10日午前5時には名額の北西およそ270kmの北緯29°40′東径127°05′にあって1時間におよそ45kmの速さで北西に進んでいます。中心の気圧は915mb中心付近の最大風速は45m中心の東側200km,西側120km以内では風速25m以上中心の東側800km西側600km以内では15m以上の強い風が吹いています。

#### 9月10日08時10分発表

台風情報第 1 2 号

1 観測時刻10日06時00分現在

2 方 向 距 離 枕崎市の南西およそ 350キロ

風 3 中 心 位 置 北緯29°55′ 東径127°00′

第 4 進 行 方 向 北北西

台

9 5 進 行 速 度 毎時4 5キロ

の 6 中 心 気 圧 915ミリバール

状 7 最 大 風 速 (中心付近) 4 5 メートル

8 暴風雨半径等 中心から 恵200 キロ以内は風速25メートル以上

9 そ の 他

大型で非常に強い台風第9号はひきつづき北北西に進んでいます。台風第9号は10日06:00 には枕崎の南西およそ350kmの北緯29°55′ 東径127°00′ にあって一時間におよそ45km の速さで進んでいます。

中心の東側 8 0 0 Km西側 6 0 0 Km以内では、1 5 m以上の強い風が吹いています。台風はしばらく 北北西に進み、今日の昼頃女島付近で向きをかえ夕方には九州北部の西海上に近づく見込みです。九 州の南西海上は暴風雨となっており、草垣島では東よりの風平均 2 7 ~ 2 8 m の強い風がふいていま す。沿岸の海上では今日の日中から今夜いっぱい猛烈に時化るので厳重に警戒してください。

奄美本島·······波浪警報·強風注意報

高潮注意報

鹿児島・宮崎地方・・・・・・暴風雨波浪高潮洪水警報

# 9月10日11時30分発表 台風情報第13号

1 観 測 時 刻 10日09時00分現在

2 方 向 距 離 福江の南西およそ300キロ台

風 3 中 心 位 置 北緯30°50′東径126°20分

第 4 進 行 方 向 北北西

。 5 進 行 速 度 毎時50キロ

の 6 中 心 気 圧 935ミリバール

状 7 最 大 風 速 (中心付近) 4 5 メートル

8 暴風雨半径等 中心から 西120 キロ以内は風速25メートル以上

9 そ の 他

#### 福江の南西300km

況

台風はこのまま北上をつづけ今夜21:00には、長崎県の対馬付近の北緯34°00′東径129°00′と南朝鮮のすぐ西の海上北緯35°00′東径126°00′の間をとおったあと、北東にむきをかえ日本海へ入る見込みです。鹿児島県本土は暴風圏にははいりませんでしたが風速15m/sec以上11時現在枕崎では平均風速14m草垣島では平均風速で21mの強い雨がふいています。台風ははなれてとおっていますので九州南部地方は雨の止んでいる所もありますが、所によっては台風の外側の厚い雨雲におおわれ強い雨雲がふっています。11:00には、宮崎県のえびのは、1時間10㎜宮之城では1時間13㎜、大隅半島の高峠では、1時間7㎜の強い雨を観測しました。強風や大雨の災害に引きつづき往意してください。

#### 9月10日14時45分発表

台風情報第14号

1 観 測 時 刻 10日00時00分現在

2 方 向 距 雕 済州島の南南西およそ230キロ台

風 3 中心位置北緯81°42′東径125°25′

第 4 進 行 方 向 北北西

9 5 進 行 速 度 毎時50キロ 号

の 6 中 心 気 圧 940ミリバール

状 7 最 大 風 速 45メートル

8 暴風 雨半径等 中心から 東200 キロ以内は風速25メートル以上

9 そ の 他 〃 東7 0 0 〃 1.5 〃 西 5 0 0 〃 1.5 〃

大型の非常に強い台風第 9 号は東シナ海を北上し、九州南部地方から遠ざかっています。 1 1 日 0 0 : 0 0 には済州島の南南西 2 8 0  $\rm Km$ の北緯 3  $\rm 1^{\circ}4$  2  $^{\prime}$  ,東径 1 2  $\rm 5^{\circ}2$  5  $^{\prime}$  台風はこのまま北上をつづけ済州島の西方海上を北上をつづけ今夜黄海にはいり朝鮮半島にむかって進む見込みです。

これで台風情報を打切ります。

# 第2 被害状况調

総 額 19,615,539千円

1 総 括

一般関係 被害

X		分	被害数	単 位	被害額(千円)
人	重 傷	者	1 5	人	
的	軽 傷	者	1 2 3	"	
被	り災	人員	9, 4 9 0	"	
害	合	計	9, 6 2 8	//	
		棟 数	1, 3 4 8	棟	
	全 壞	世帯数	1, 3 4 2	世帯	5, 3 1 3, 9 3 0
		人員	4,205	<u> </u>	
		棟 数	1, 5 4 2	棋	
住	半 壞	世帯数	1,5 4 1	世帯	2, 8 6 0, 3 5 2
12.		人員	5, 2 8 0	人	
家		棟 数	1,741	棟	
, av	一部破損	世帯数	1,7 3 9	世帯	1,514,808
の	140000	人一員	5,778	人	
		棟 数	2	棟	
被	床上浸水	世帯数	2	世帯	5 6 1
L.		人員	5	Λ	
害		棟 数	7	棟	
1	床下浸水	世帯数	7	世帯	3 8 0
		人员	2 4	<u> </u>	
		棟 数	4,640	棟	
	合 計	世帯数	4,631	世帯	9,690,031
		人員	1 5, 2 9 2	<u> </u>	
非被	全	墩	676	棟	7 3 5.7 3 4
住	半		521	"	3 2 7, 0 3 9
家	一 部	破 損	4 0 4	"	171,142
の害	合	計	1,601	"	1, 2 3 3, 9 1 5
公の	全	嵏	. 13	"	3 7, 9 0 0
共被	*	壊	1 1	"	1 4, 1 6 8
建建	一 部	破 損	2 6	"	17, 304
物害	合	計	5 0	"	6 9, 3 7 2

箱生 関係の被害13,288(千円)農作物の被害

区	,,,	分	被害数	単 位	被害額 (千円)
水		稲	296	ヘクタール	3 4, 1 5 1
計	L	, 4	1 3 6	<i>"</i>	6,706
果		樹	3 6 0	<i>"</i>	1 3 1, 6 3 5
	柔	1	7 3 2	"	1 2, 5 4 0
P	đ	(4)	6 5	"	1 8, 2 5 0
t	とう	きび	1 1,0 9 8	"	1,065,907
た	ដ	٤ ٤	7 3	ト ン	9 4, 9 0 0
落	花	生	6.0	ヘクタール	1 1,7 6 0
餇	料	作目	9 9	"	9,0 0 0
花		卉			2 9, 1 2 3
合		計			1, 4 1 3, 9 7 2

#### 排地関係の被害

区		分			害	ž	Ý.	単 位		被害額(千円)			)		
農地	田.	流失均	2没			3	4	簡	所		3	5.	0	0	0
農	頭	首	I				2		"		6	3,	0	0	0
菜	水		路			8	9		"	1	4	2,	0	0	0
用	堤	ځ	う				ì		"		1	0,	0	0	0
施	道		路			7	1		"	1	l	4,	0	0	0
股	そ	の	他				1		″		1	0,	0	0	0
合			H	nd de la company	l	9	8		"	3	7	4,	0	0	0

#### 家畜等の被害

区			5	}	被	害		数	単	位	被害犯	(千	円)
大		家		畜				2	頭		]	8, 6	8 3
小		家		畜		7, 7	0	0	"		Ì	0, 0	
そ	Ø	他	産	物								2, 1	4 5
合				計							ı	0, 8	2 8

# 農畜舎等施設被害 合 計 I,631,761(千円)

#### 水産関係の被害

×	<b>S</b> 分				被	害	数	単	位	被害額(千円)	
漁	船		破	扣		1	2	1	ţţ	1,4 4 0	
施	設	そ	の	他			1			500	
合				計						1,940	

#### 商集関係の被害

D	<u> </u>		5	<del>}</del>	被害額(千円)						
店				舗	1, 5	3	9, 9	7	5		
そ	Ø	他	施	設	6	7	6,7	5	9		
商				品	1, 1	2	7. 4	2	7		
合				<del>*</del>	3, 3	4	4, 1	6	1		

#### 山林関係の被害

区	分	被害数	単 位	被害額(千円)
At the felt off	崩壞地	5	箇 所	8 0, 0 0 0
林地被害	防風林	6	"	3 5.4 0 0
施設等関係	林 道	7	"	6, 5 0 0
林産物関係	林産物	4,400	m³	28,500
合	計			1 5 0, 4 0 0

#### 学校関係の被害

区		分	被 害 数	単 位	被害額(千円)
茚	等	学 校	5	校	2 5.8 2 0
中	学	校	9	"	4 9, 1 0 7
小	学	校	2 0	"	2 9, 9 6 6
そ	Ø	他	2 1	"	6 0,7 6 2
合		äŀ	5 5	"	165,619

土木関係の被害

	区		分		被	害	数	単		位	被害額(千円)
			河	Л		5	1	箇		所	3 0 6, 2 5 9
		県	砂	紡			1		"		1,500
	建	エ	道	路		3	7		"		5 9, 8 7 6
	設	îlt.	施	岸			ì		"		20,000
	省		小	計		9	0		"		387,635
国	所	क्त	河	Щ		4	9		"		2 0 9, 6 3 4
庫	管	町村	道	路		3	8		"		6 0,4 1 6
負		小小	小	āt		8	7		"		270,050
担	運	県	I	4			6		"		4 8, 5 0 0
対	運輸省港湾	市間	订村.	工事			6		"		8 2, 0 0 0
象	港湾	小		計		1	2		"		1 3 0, 5 0 0
	農	県	I	北			3		"		. 43,500
	農林省	市	订村.	工事			4		"		6 3, 0 0 0
	漁港	小		計			7		"		1 0 6, 5 0 0
合	<u> </u>	.>		計		1 9	6		"		8 9 4, 6 8 5

電気通信関係の被害 合 計 400,000(千円)

電力関係の被害

	X.	5	}	被害額(千円)
発	T	設	備	6 9, 8 0 9
そ	の化	也設	備	4,5 0 0
M	信	設	備	1,000
配	電	殻	備	1 8 7, 6 7 7
送	TL.	設	備	3,500
建	築	設	備	5,081
合			計	2 2 1,5 6 7

# 2 大島郡内市町村一般関係被害

			۷	人四		, m m)					<u>-</u>	· 中 400	t-f	瀬戸内	uar /	住 用	村	竜 郷	[II]
被:	多区分	}			市町		名	選	<u>th</u>	大和	ניין	宇検	<u> 173   </u>	WW.r.	) <sup>[1</sup> ]	<u>                                     </u>	13	- C - 2-4-	
$\wedge$	死			10	者	1													
的	行_	万	<u>不</u>	明	者	2													
彼	負傷		lî _		傷	3				<u></u>				~				****	
害			圣		傷	-4													
	ļ		合		計	5											1		
	_	棟		帯	数 数	7					-+						1		
	全城	世		, H1	負	8											1		
	锲	人		害	額	9											530		
	<u> </u>	棟			数	1 0											1		
	半	世		帯	数	1 1	•										1		
住	腹	1		114	負	1 2				,							2		
	1,500	被		害	額	1 3											150		
ļ		排		<del></del>	数	1 4		-3111	1								5		
	部	世		帯	数	1 5			1								5		
家	破	一人			負	16			6								9		
Ì	損	被		害	額	1 7			100								160		
	床	棟			数	18				.,									
51°	上	111		帯	数	19													
被	一段				具	2 0													
	水	被		害	額	2 1				47.1.									
	床				_数_	2 2													
審	. 下	世		帯	数	2 3													
=====================================	校				<u> </u>	2 4													
	水	被		害	額	2 5											7	****	
	١.	棋		416	数_	2 6			<u>1</u>								7		
	合			帯	数	2 8			6								12		
	計			害	<u>負</u> 額	2 9	<del> </del>		100					****			840		
<u> </u>	((( 11)4	被批析		11+		3 0	-										2		
_	災者			1 2 +2		3 1											3		
<del>  "</del>	JC EI	全			<u>. ()</u> 数	3 2	-												
1		型型	_			3 3	ľ												
	公				数	3 4													
١	ii:	ł	<del></del>			3 5													
訓	建建		- 部	棟	数	3 6	1												
١.,	Astr	1	損		喜 額	3 7													
自	E		ķ		数	3 8													
ير ا	,	i.	初		額	3 9													
箩	X 公	· fi	<u> </u>	Ų.	数	4 0			1									ļ	<del></del>
17	- 44	, ,	į į	皮 害	額	4 1	<u> </u>		200			ļ							
1/	2   建		<u> </u>		数	4 2	<u>  </u>		1								1		
5	W   W   B	) Li	技	皮 往		4 3	┦—		500			ļ					200		
1	列列	ŀ i ⁻	- 部		数	4 4	<u> </u>		2								210		
1	$\sigma$	> [₹	皮担		書 額	4 5	-		60	ļ		-		<del> </del>			3	<del> </del>	
	到 物	E		東	数	4 6	-		4	<u> </u>		<del> </del>				<u> </u>	410		
<b> </b>	- 1	1	[ ]		新額	4 7	9/	6	760	0.6	17.00	9.4	21:30	9/9	23:00	9/9	22:00		17:0
				の設			13/	3 40	10.00	9/10	17:00	9/10	12:00	9/10	11:00	9/10			
	ok et	1647 15					13/	10	12.00	ay I U	11.00	19 10	14.00	-, .,		17			
				動延 動延			+		14	<del>                                     </del>		+		<del>                                     </del>					
				置簡								1		<u> </u>					
1	近天E //	小グ	型型	图 3	<u>小 数</u>	8 4	_			-		<del>                                     </del>			***				
L	汉坦山	八九	T ux	Д≟. "	ws 1/1	<u>'</u>				<u> </u>									

(.e. we)		2\$C 551	m-r	#+ 0 Mr	天城町	伊仙町	和泊町	知名町	与 論 町	総計
笠 利	[ [0]	喜 界	. [11]	徳之島町	入级町	13, 1113	4h (th)	W 4 -3	J 1816 3	1,0,
							7	8		15
							96	25	2	123
							103	33	2	138
								725	2 2	1348
				5	11	12	572		22	1,842
				5	11	12	566	725	63	4205
				11	27	24	1,868	2,211		5,313,930
				4,400	2 20 0 0	11,100	2,288,000	2,9 0 00 0 0	87,900	1,542
				33	51	17	6 6 5	691		
				33	51	18	664	691	83	1,54 1
				8 1	194	7 2	2,308	2,243	3 80	5,280
				7,670	25.500	4,250	1,3 3 0,0 0 0	1,382,000		2,86 0,35 2
				7	50	56	879	576	167	1,741
				7	50	56	879	57 6	165	1,739
				21	150	156	2,948	1,788	700	5778
				420	5,000	5,805	879000	576000	48,323	1514,808
							3		1	4
							3		1	4
							11		4	15
							300		60	360
				45	112	85	2,119	1,992	274	4,635
	1.700			4.5	112	86	2,1 1 2	1,992	271	4,626
				113	37 1	252	7.135	6.242	1,147	15,278
	-,			1 2,4 9 0	52,500	21,155	4,497,300	4,858,000	247,065	9,689,450
				38	62	30	1,230	1,416	105	2,883
				92	221	9 6	4,176	4,454	443	9,485
							4	9		13
				*****			1 0,0 0 0	27,900		3 7,9 0 0
				1			3	5	2	11
				400			45 00	7,768	1500	14,168
				1			13	7	4	2.5
				20			12800	1,734	1,750	16,304
				2			20	21	6	4 9
				420			27,300	37,402	3250	68,372
		<del> </del>	3	420	2 0	16	237	35 9	36	67 (
				620	14,000	5,064	592,500	107,700	15050	735.734
<u> </u>		<u> </u>	600	6 6	37	18	171	270	15	5 2
					11,100	1,380	25 65 00	54,000	2,699	3 2 7,0 3 9
			200	460	21	1,000	182	169	25	4 04
				3		-	14 5,6 0 0	16,900	7,107	171,14
		ļ		215	1050	3 4	590	798	76	1,60
			5	13	78		9 94,600		24,856	
			800	1,295	26.150	6,444	0.40 19:00			
9/9	17:00	9/9	17:00	9/9 19:00	9/9 17:00	06.61 8/8	9/9 18:00	3/3 10:00	9/11 17:00	
9/10	12:00	9/10	12:00	9/10 17:00	9/10 13:20	9/10 17:30	10/4 17:00	10/0 14.00	J 11 11.00	1.
<u> </u>								<del> </del>	3	12
		<u> </u>	10		30	16	70	<u> </u>	3	12
	***	<u> </u>				<del> </del>	3	<del>                                     </del>		
Ι "								<u> </u>	L	<u> </u>

## 3 災害市町村別破害概要

名瀬市 0 0 0	家     被       要求     床上浸水       1     0       0     0	被害額	棟 数	家の被害 被害 額
名瀬市 0 0 0 0	1 0	100		
7.1 HR 112	0 0		4	
l				760
大和村 0 0 0 0			0	0
字 検 村 0 0 0 0	0 0	0	0	0
瀬戸内町 0 0 0 0	0 0	0	0	0
住 川 村 0 0 0 1	6 0	840	3	410
<b>電 郷 町 0 0 0 0</b>	0 0	0	0	0
笠利町 0 0 0 0	0 0	0	0	0
哲界町 0 0 0 0 0	0 0	0	5	800
徳之 島 町 0 0 0 5	40 0	1 2,4 9 0	15	1,7 1 5
天 城 町 0 0 0 11	101 0	5 2,5 0 0	78	26.150
伊 仙町 0 0 12	73 0	2 1,1 5 5	3 4	6.444
和 泊 町 0 103 103 572 1,	544 3	4,4 97,3 0 0	610	1,0 2 1,9 0 0
知名町 0 33 33 725 1,	267 0	4,8 5 8,0 0 0	8 1,9	216,002
与論町 0 2 2 22	251 1	247,065	8 2	2 8,1 0 6
小計 0 138 138 1,348 3,	283 4	9.6 8 9.4 5 0	1,650	1,3 0 2,2 8 7
西之表市 0 0 0 0	0 0	0	0	0
中種子町 0 0 0 0	0 0	0	0	0
南種子町 0 0 0 0	0 5	581	1	1,000
屋 久 町 0 0 0 0	0 0	0	0	0
上屋久町 0 0 0 0	0 0	0	Ð	0
小計 0 0 0 0	0 5	581	1	1,000
鹿児島支部 0 0 0 0	0 0	0	0	0
小計 0 0 0	0 0	0	0	0
姶良支部 0 0 0 0	0 0	0	0	0
小計 0 0 0	0 0	0	0	0
<b>曾於支部 0 0 0 0</b>	0 0	0	0	0
小計 0 0 0 0	0 0	0	0	0
肝風支部 0 0 0 0	0 0	0	0	0
小計 0 0 0 0	0 0	0	0	0
	2 8 3 9	9,690,031	1,651	1,3 0 3,2 8 7

県有建物・船舶・鉄道・電気通信・電力関係の被害額は・別掲とする。

(千円)

ā†	学校関係 の被害額	土木 関係 の彼害額	山林関係の彼害額	水産・商 工業関係 の被害額	耕地関係の被害額	農業関係 の被害額	衛生関係 の被害額
3,9 5 0	0	0	0	0	0	3,0 9 0	0
2 3 4	0	0	0	150	0	84	0
187,390	0	187,000	0	0	0	890	0
1 2 8,9 6 7	1,200	50,500	0	6 6,5 0 0	0	10,767	0
4,463	0	0	0	0	0	3,213	0
5.5 1 2	0	0	0	300	0	5,212	0
1 6,8 6 2	270	0	0	0	0	1 5,5 9 2	0
51,342	0	0	0	0	0	50,542	0
171,856	423	0	0	2,7 0 0	0	154,528	0
1 9 1,0 5 6	2,882	0	0	4,600	0	104,924	0
246,073	1,4 2 1	3 3,0 0 0	3,900	1,250	0	178,903	0
8,8 3 5,3 7 2	94,083	51,000	15.000	2,079,630	3 0,0 0 0	1,0 4 6,4 5 9	0
7,568,460	6 2, 9 8 4	2 0,0 0 0	3 8,5 0 0	1,1 0 9,3 0 5	3 0,0 0 0	1,2 2 3,3 8 1	1 0,2 8 8
676.915	2,356	25,000	6,5 0 0	188,166	1 3,0 00	163,722	3,0 0 0
1 8,0 8 8,4 5 2	16 5.6 1 9	3 6 6,5 0 0	63,900	3,4 5 2,6 0 1	7 3,0 0 0	2,961,807	1 3,2 8 8
	0	]	900	0	1 6,0 0 0	}	0
	0		0	0	1 6,0 0 0		0
	0	101,050	17,000	0	3 9, 0 0 0	8 0,7 7 0	0
	0		4 9,0 0 0	0	0		0
	0		17,600	· 0	0	J	0
3 3 8,9 0 1	0	J	84,500	0	7 1,0 0 0		0
	່າ	0	2,000	0	1	1	0
2,000		0	2,000	0			0
		78,171	0	0	2 30,000	1 3,984	0
78,171		7 8,1 7 1	0	0			0
	243,984	88,260	0	0			0
8 8,2 6 0		8 8,2 6 0	0	0			0
		15 4,2 0 4	0	0			0
154,204	<u>J</u>	154,204	0	0		J	0
18,993,972	165,619	788,185	150,400	3,452,601	374,000	3,0 5 6,5 6 1	1 3,2 8 8

# 第3 県災害対策本部の活動

#### 1 概 況

台風第9号の接近に伴い関係各課は運絡員を待機させ情報の収集等警戒に努めた。しかし、9日夜半には沖永良部島の通信施設の障害のため通信連絡に支障が生じ、情報の収集は困難をきわめた。

かろうじて一部残った現地の電話、大島支庁の電話、あるいは警察電話により得られた 情報で、現地のすさまじい状況が推察された。

9月10日午前5時, 鹿児島県災害対策本部を設置し, 直ちに各対策部による応急復旧活動を開始した。

#### (参考) 災対本部設置時の被害状況

設置前に消防防災課で把握した被害は次のとおりである。

① 人的被害

重傷5人 軽傷21人

② 住家被害

1.0 0 0 戸以上

③ 停電状況

④ その他

道路は電柱,電線,建物等の破損物によりほとんど通行不能(沖永良部島)

#### 2 総務対策部の活動

#### 1 災害対策措置概要

日 時	対	策	備	考
5 2.9.9. 1 4 1 0 0	台風第 9 号接近に伴い	MONG POPULATION OF THE PROPERTY OF THE POPULATION OF THE POPULATIO	1	吉永主事出席
	会		台風情報第1	号 9/8 17:30発表)

E	時	対策	備 考
	17:00	県災害対策本部大島支部設置	9/9 22:15 ENE 6 0.4m
			を記録(沖永良部測候所)
9,10	05:00	県災害対策本部設置	
	08:30	県災害対策本部連絡 貝会議開催	総務対策部長から連絡事項指
			示伝達
	09:00	被災地の優深のため自衛隊派遣要請	陸上自衛隊第 1 2 普通科連 隊
			経由 陸上自衛隊第1混成団
			(第101飛行隊) H u ー
			ı B
	10:00	県災 害対策本部会議招集	庁議室 各対策部長出席
		災害状況報告	<ul><li>○沖永良部島(知名町,和泊</li></ul>
		災害調査団派遣決定	<b>all.</b> )
		災害対策について協議	民生労働部次長(郡山信夫)
		以上に 基づき直 ちに救援活動開始	を団長としてほか9名
			先発 団長ほか2 9/10
			15:20 (東亜国内航空)
			残り 7 9/10 15:15
			(自衛隊ヘリ)
			○徳之島
			農政部次長(塚田吉夫)を
			団長としてほか 2名 9/11
			08:45(東亜国内航空)
			o 与論島
			農政部技監(岡 正)を団
			長としてほか 3名 沖永良
			部島から船便で直行
	11:00	大島郡和泊町、知名町に対し災害救助法の	適用
		を決定	
	12:00	県内市町村災害対策本部設置状況	3市14町6村 計23
	12:30	自衛隊派遣要請,知名町における人命教助	のた 陸上自衛隊第12普通科連隊
		めと応急復旧	経由
			陸上自衛隊第1混成団60人
			ほか必要資機材
			指揮官 第1混成団長 陸将
			補 徳久宗治
	14:45	台風情報14号で打切(本土への影響なし	.) 台風は九州本土西海上を北上,

E	時	対		策	備	考
				黄	貴海から朝	月鮮半島へ
52.9.10	14:50	自衛隊派遣要請,	県災害調査団の沖	永良部島ま	正上自衛隊	¢鹿屋教育航空群 HSS
		での輸送			-22機	
	16:00	県災害対策本部会	: 諡	月月	广議室	
			対策状況について	報告	亨電状況	電話不通状況 その他
		生鮮食料品,災	害応急復旧資機材	の輸送内容	Ģ.	
		について説明		İ		
	18:00	大島郡与論町に対	し災害救助法の適	用を決定		
		,			<b>抗空自衛</b>	该南西航空混成团 防衛
				į	邪 鉢迫	3佐 9/11 08:30 以降
				1	C — 1 , I	M u — 2 運航
				ř	中永良郡	空港の使用について関係
				ŧ	幾関と調	整
	19:15	   現地調査団から観	皮害 状況 及び不足物	資等につい		
		て連絡あり				
	20:00	   復旧用木材等に~	ついて手配方を要請	j;		
9.11	08:50	1	<b>是(知事鎌田要人)</b>	i	9/11 08:	:50 鹿児島発
		察に出発			9/11 11:	10 沖永 良郡着
					9/12 113	:35 神永良部発
					9/12 13	:50
	10:00	   現地調査団から <sup>2</sup>	不足物資の輸送要請	水目		
	11:00	関係本部連絡員	召集 同上について	C総務対策部		
		長(総務部長今)				
	12:00		伊仙町、徳之島町の	こ対し,災害		
		救助法の適用を				
	15:00	1	て広報課を通じ報道	直機関に発表		
	19:15	1	査結果について副		庁護室	
		事山口秀治)に				
52.9.	12 08:30	1	報告及び要望書の	作成について)		
	09:00	1	機関へ報告及び連続	1	国土庁,	消防庁,自衛隊,気象
			•		東京事務	新
	12:00	被害状況につい	て報道機関へ発表			
	13:00				陸上自衛	j隊第1混成団(第12j
					隊経由)	
	13:30	南西航空施設隊	增負派遣要請		南西航空	是混成団(防衛部鉢迫3
	14:00		資材等の運送につ	いて関係者と		

日 時	対 策	<b>f</b> fi	考
	調整		
19:00	自衛隊派遣要請(ミネラルウオーターの	中部航空方面隊 防衛部	(野村 3 佐)
	空輸)		
19:30	要望書の取りまとめ		
529.13 08:30	庁議・彼害状況及び救援内容の説明、輸		
	送障害打 開策檢 討		
11:00	災害対策本部長記者会見		
12:00	自衛隊機による救援物資,復旧資材の空		1
	輸調整		
13:30	災害対策本部長関係方面へ要望のため上	国土庁,大蔵省,厚生省	1. 農林省, 通 商
	京	産業省,建設省,自治	ដ
52.9.14 10:30	県議会災害対策協議会に報告		
12:40	国土庁政務次官災害地視察のため来県	佐藤守良国土政務次官(	まか2
	(14日~15日)	空港で副知事が概況説明	明し. 現地へ
14:00	災害復旧用車幅輸送対策について協議	県,電々公社,九州電	カ
14:30	自衛隊派遣再要請(車両輸送)	中部航空方面隊 防衛	部(野村3佐)
17:00	住宅復旧のため技術者の確保について協	社会課,職業安定課,	<b>微菜訓練課,建築</b>
	談	課,消防防災課	
52.9.15 9:00	自衛隊機により、車両、発電機、防疫用		
	薬剤及び衣料品を空輸		
9:15	荷役状況、電燈、電話復旧状況等を調査		
52.9.16 10:00	定例県議会開会,知事災害に関し提案理	(県議会沖永良部災害	調查団出発)上園
	由で説明	吉留,坂井,原,肥後	, 小堀, 各派代表
]		議員	
9.17. 11:00	災害対策本部連絡員会議開催	各対策部の措置内容の	とりまとめ等
11:30	参議院災害対策特別委員会来県の連絡		
9.18 (日)			•
9.19 12:45	被害額並びに参議院災対特委日程等につ		
	いて報道機関に発表		
9.20 (~21)	参議院災害対策特別委員会災害現地視察	9/20 12:40 着 9/21 15:10 発 村田委	B 6.123, e 1
	のため来県	9/21 15.10 発 村田安	貝叉はか 3 八
15:25		A-199811111 0 26 中京報	
9.20~10.4	県立鹿屋・宮之城職業訓練校訓練生20	住宅復旧の労力応援	
	名派遣		
9.2 5~1 0.3	都城東高等学校生徒災害復旧奉仕隊 2 0	"	
	名派遺		

日 時	対	策	oiti	考
1 0.1~11	.10 建設大学校産業開発青	年隊 5 0 名派遣	住宅復旧の労力応払	å
9.30 12:0	00 県災害対策本部解散			

# (2) 現地派遣調査団・派遣職員活動調

日時	調查団名簿	構 成 員 職 名	行動・内容・日程	調査結果
5 2,9.1 0	県災害調査団	団長 民生労働部次長	0 5 2.9. 1 0	
s	(沖永良部班)	郡山信夫	1 便 東亜国内航空 15:20	
9.12		団具	出発 3名	
		社会課主事 西村信孝	2 便 鹿屋教育航空群へリ	
		農政技監 岡 正	コプター15:15 出発	
		農産蚕糸課糖菜係長	7名	
		萩 典宏	<b>冲永良部島災害状況調查</b>	
		道路維持課長 山下辰治		
		河川課土木技師 徳田 豊		
		港湾課防災係長 富永直太郎		
		住宅課長藤川和孝	,	
		住宅融資係長中原中		
		消防防災課課長補佐		
		平山五郎		
	(徳之島班)	団長 農政部次長 塚田吉夫		
		団員	東亜国内航空 08:45 出発	
		社会課主事 馬場英俊	1	
		住宅課技術主幹 上村隼人	徳之島災害状況調査	
	(与論班)	団長 農政技監 岡 正		
		団負	クインコーラル 1 号 12:00	
		社会課主事 西村信孝	ì	
		港湾課防災係長 富永直太郎		
5 2.9.1 6	<b>県議会調査団</b>	副議長 上園辰己	5 2.9.16 10:00 鹿児島智	1
		議 員 吉留 元	港発	
		〃 坂井重雄	神永良部島災害状況調査	§
		〃 原 光延	<u>.</u>	
		〃 肥後正典		
	ļ	〃 小堀清直		
5 2.9.2 0		1		
Ş	特別委員会	理 事 上條勝久		<u> </u>

日時	調査団名簿	構 成 員 職 名	行動・内容・日程	調査結果
9. 2 1		委 員 宮之原貞光	参議院災害対策特別委員会災	
		〃 内田 善利	害現地調査日程	
		〃 柳澤 錬造	9月20日(火) 12:40鹿児	
		〃 渡辺 武	島空港着(全日空623便)	
		(随行者)	9月21日 (水) 15:10鹿児	
		参議員事務局調查員	島空港発(全日空 6 2 8 便)	
		<b>加越秀昌</b>	調査コース	
		// 参事 辻 守行	9月20日 (水)1250~14:10· (概況説明(含昼食)空港ビル)	·
		(同行者)	1	
		国土庁防災企画課企画官	東亜 593 便(14:20発)	
	i.	上川 博	16:00若 16:10 若	
		農林省畑作振興課課長補佐	- 沖永良部空港 - 国頭- 16:05発(5分)16:30 発	
		仙波弘男	さとうきび畑 16:45 着	
		運輸省防災課長 寺尾 建	→ 和泊町役場→	-
		建設省住宅建設課長国吉忠	(15分) 17:45 発 説明)	
		建設省住宅総務課公庫係長	18:10着 	
		美多賀鼻秀暉	(25分) 099793-2026	
		鹿児島県副知事 山口秀治	9月21日(水)	
		鹿児島県社会課長	08:35着	
		松崎盛道	宿舎発 — 知名町役場- 08:30 発 (5 分) 0 9: 3 5発	
		鹿児島県土木技監	(説明)	
		山田和郎	09:40着 → 知名漁港 → →	
		鹿児島県大島支庁建築課長	(5分) 09:50発 (10分)	
		小原恢勇	10:00着 10:40 着	
		鹿児 島県消防防 災課 課長補	→田 皆 ── 玉 城一	•
		佐 平山五郎	10:20 発 (2 0分 10:50 発 (住家) (住家)	
		鹿児島県秘書課係長	(住家) (住家)	
		佐多嘉孝	11:05着	
			→ 伊延港 → → (15分) 11:15 発 (10分)	
,				
			11:25 着 東亜 542 便 →沖永良部空港	
			11:35 発 (35分)	
			東亜 12:10 着 564便 13:50 着	
			12:10 看 564便 13:50 有 一	
			12:35発(75分) 15:10 発	
		-47-	(昼食)	<u> </u>

日時 調査団名簿	構 成 員 職 名	行動・内容・日程	調査結果
5 2.9.2 5 自由民主党調查		神永良部着 16:00 神永良部島災害状況調在	

# 3 民生労働対策部の活動

日時	対	策	Wi Wi	考
5 2.9.1 0	(災害救助法の適用) 1. 大島郡和泊町及び知名町に 適用した。	こ対し11時から災害救助法を		
	2. 大島郡与論町・天城町・伊 17時から県単の法外援護で 助法の適用に切り替えた。)	≧適用した。(あとで,災害救		
	3. 与論町・1 8時から災害	<b>対助法を適用した。</b>		
5 2.9.1 1		行令第1条第1項第 3 号後段に 厚生省と協議のうえ1 2時から		

#### 台風第9号(沖永良部台風)による風水害に対してとった措置

	11 12	W 37 0 17 CT 1 75C	\$ C C C C C C C	の風水量に刈し			
	和 泊 町	知 名 町	与 論 町	徳之島町	天 城 町	伊 仙 町	備考
避難所の設置	場所:老人いこいの家 月:人月:人月:人 日:員日:員 別:45 14:14 19:12 10:45 15:12 20:12 11:45 16:12 21:12 12:13 17:12 13:14 18:12	月日 カ所数 人員 9/9 14 498 10 3 64 11 3 48 12 3 48					
応急 仮設住宅の設 置	200戸 6坪114戸 8坪 82 10坪 4	176戸 6坪122戸 8坪 51 10坪 3	4戸 6坪 I 8坪 3	4戸 6坪3 8坪1	3戸 6坪3	11戸 6坪8 8坪3	計898戸 全康1349世帯 1349×03=404> 398←般基準内)
炊出しその他によ る食品の給与	9/10~9/11 場所 老人いこいの家 (45人+45人)	/.					
飲料水の供給	9/10~9/15 (延3,141人)	9/10~9/17 (延1 6.037人)					
被服・寝具その他 生活必需品の給与	1233世帯 全壊566 半壊667	14 18世帯 全壊733 半壊685	105世帯 全壊22 半壊83	38世帯 全壊 5 半壊83	6 2 世帯 全壊 1 1 半壊 5 1	30世帯 全壊12 半壊18	
医 療	8 2 人	55人					
助 症		1人					
災害にかかった住 宅の応急 修理	202戸	172戸	1 2戸	7戸	1 5戸	1 2戸	計420戸 半壊1537世帯 1537×0.3=461>420 (一般基準内)
学用品の給与	中198人	人中230人) ○教科書(小206 人中103人)	学用品①62人 中39人)	学用品小4人 中4人)	学用品(小2 8人 中17人)	○学用品(小18人 中7人) ○教科書(小2人)	
輸送	教援物資の輸送	救援物資の輸送					
人    夫		飲料水供給のため の人夫					
災害救助法適用年	9/10 11:00	但 し、応急仮設 住宅 176戸のうち 1 戸は対象外となった 176-1=175	9/10 18:00	9/1 12:00	9/11 12:00	9/11 12:00	
	(1号適用)	9/10 11:00(1号適用)	(1号適用)	( 3 号後段適用 )	(2号適用)	(2号適用)	

日時	対	策	備考	<b>5</b>
	(日赤関係救援物資)			
5 2, 9, 1 1	毛布1435枚、日用品494個,バスタ	オル300枚		
	内訳 徳之島 毛布201枚 日用品4	8 個		
	与論島 毛布134枚 日用品8	6個		
	大島支庁 毛布100枚 日用品	150個		
	神永良部島 毛布1000枚 日	用品360個 バスタオル300個		
9.12	毛布 3 6 0 枚, 日用品 6 2 6 個, 見舞品 1	140個(沖永良部島)		
9.1.3	毛布 2 6 4 0 枚			
	ミネラルウオーター4 6 0 0 本(115個	])自衛隊機で神水良部島へ運ぶ。		
	(運賃等の減免措置)			
5 2, 9, 1 2	1 災害時の罹災者に送られる救援物資に対	する運賃の減免について国鉄と協		
·	議済			
9. 1 4	一	こついて、14日から向う1月間無		
	料で取扱うことを決定した。			
	( 寛志家による見舞品 )			
5 2,9.12	1 C 6 TT 1F1	シート 2 0 0 枚		
	福岡県遠賀郡後藤食品KK	つけもの10タル(4 斗入)		
	加治木町 岩下醸造	正油の味 1 0 0 ケース ( 1 ケース		
		6本入)		
	鹿児島市卸本町 鹿児島花王製品販売KK	ワンダフル(中)100箱(1		
		箱10コ入)		
	京都府 個人	· 缶詰 1 0 0 コ .		
9.1	東京都隅田区本所 ライオン歯磨KK	歯ブラシ2000ケ,練歯磨	博多から	
		2000ケ,蚊取線香2,000ケ	送利	泊
	,		知名	ς 5 τ
9, 1	4 東京都千代田区日本橋国分株式会社	つぶつぶみかんジュース50ケー	各10	
		ス(1ケース30虧入)	取犯	文店 3 色
			一市秀	FRI
			小杉	
9. 1	京都市中央区 藤原産業株式会社	食料品7ケ(250)タオル1ケ		
		(120枚)		
	福岡県糸島郡前原町 小柳博子	雑貨(衣類5ヶ)		
	東京都杉並区 中七製作所	並(波)トタン10t(約5,000		
		枚)		
	鹿児島市下福元町 山住哲郎	雑貨 2 ケ		
	串木野市元町 平地幸子	11 15		

日時	対策	備	考
	出水市武本 小水流汀 雑貨1ケ		
	佐賀県武雄市 黒田文子 // 1ケ		
	(県立職業訓練生の派遣)		
5 2. 9. 2 0	大島郡和泊町からの要請により、沖永良部台風により被災した家屋等の災害		
	復旧工事のため,鹿屋専修職業訓練校及び宮之城専修職業訓練校から,建築		
	科の訓練生を派遣する。		
	1 派遣人員 20名		
	鹿屋 訓練生8名 指導員1名		
	宮之城 訓練生10名 指導員1名		
	2 派遣期間		
	昭和52年9月20日から10月4日まで15日間		
	(資金申込)		
	災害援護資金		
	297件 2億2838万円		
	(和泊町230件 知名町67件)		

## 4 衛生対策部の活動

日特	対 策	備考
	(負傷者等への対策)	
5 2. 9. 1 0	徳之島保健所長に対し,被害の状況把握と報告を指示	
	また,必要により負傷者対策・伝染病子防対策等を指示	
9.10	重傷者 15名のうち7名については,沖繩・鹿児島・名瀬	重傷者内訳
9. 1 2	へ搬送入院,他の軽傷者については,現地の診療所等で対	和泊町7名(うち2名
	応	は鹿児島、1名は名瀬へ
9. 1 2	徳之島保健所長,公衆衛生課職員(14日)を沖永良部島	搬送)
	に派遣,現場における対策を検討	知名町8名(うち4名
1 0. 6	被災者の昭和 5 2 年度中における保健所使用料及び営業関	は沖繩へ搬送)
	係各種手数料等について減免措置(52.9.10より52.	災害救助法適用市町村
	1 2.9まで)	
	(伝染病予防対策)	
5 2. 9. 1 2	沖永良部島を伝染病予防法による地域指定と決定	
	徳之島保健所長に消毒及び清潔方法・そ族昆虫の駆除を指	·
	示。	
9.14	公衆衛生課職員、徳之島保健所長により現場指導を実施	
9. 1 5	消毒薬品 10缶を空輸,消毒班構成により消毒を実施。	※伝染病患者の発生はな
	17日には全戸消毒完了	L <sub>o</sub>
	(食品衛生対策)	
5 2. 9. 1 1	徳之島保健所に対し,食品衛生対策に万全を期すよう指示。	
9. 1 3	徳之島保健所職員による食品衛生関係施設の監視指導開始。	
9. 1 4	名瀬保健所職員を 1 名応援派遣	
9. 1 8	全施 設の調査指導を完了・・・・件数 6 1 9 件	※食中 毒患者の発生はな
	(と畜場被災対策)	Lo
5 2. 9. 1 6	沖永良部と畜場の被災により食肉の確保に不安があったの	
	で九電に対し,特別の配慮を要請。18時30分,停電解	国の災害復旧補助分の交
	決し, ボイラーテスト完了。	付により復旧。
9. 1 7	午前8:30より正常業務開始・・・・当日と殺頭数 豚25頭	被害額 3,068千円
	(環境衛生助成対策)	
5 2.9.1 2	被災者に対し、環境衛生金融公庫災害貸付制度の周知徹底	
	をはかったほか,国民金融公邱鹿児島支店に対して早期融	
	資の実現方を強く要請。	

日時	対策	備	考
	( 上水道対策 )		
5 2. 9. 1 2	知名,和泊町に対し,災害状況の確認と給水の早期実		
	施について指示。		
	○電力会社への早期送電の要請		
	o 給水装置の点検及び補修		
	○断水地域への給水車による給水の開始		
	上記 対策を実施		
9. 1 6	全面給水実施		
9. 1 7	災害時に対応するため,新発電施設の設置について 和	新設発電施	設等の内容
	泊・知名両町と検討,この事業を昭和52年度起債対象	和(発電	施設(2カ所)
	とするよう地方課へ説明。	泊	2 9,4 7 0 年円
	(廃棄物対策)	町し送水	管布設41,530 +m
5 2.9.1 2	家屋の全半壊並びに損傷による廃材等の廃棄物につい		施設(4ヵ所)
	て,関係町に対し早急に収集処分を指示。	名   町	4 0,0 0 0 千円
9. 2 0	廃棄物の処理を完了		

#### (2) 現地派 遺調査団・派遺職員活動調

日	時	調査団名等	構成員職名	行動内容・日程	調査結果
E 5 2.9.		調查団名等	構成員職名 徳之島 は 一様 一様 一様 一様 一様 一様 一様 一様 一様 一様 一様 一様 一様	行動内容・日程 1 徳之島発神永良部着 2 和泊・知名両町役場においての報告状況の聴取及び対策に伝療機関等の被害状況調査(物語の調査・知経町) 4 負傷者の調査・知経ののの機送について重要を設め、変にのの機送について、変にのの機送について、変にのの機送について、変にのの機送について、変にのの機送について、変にのの機送について、変にのの機送について、変にのの機送について、変にのの機送について、変にの機送について、変にの機送について、変にの機送について、変にの機送について、変にの機送について、変にの機送について、変にの機送について、変にの機送について、変に、変に、変に、変に、変に、変に、変に、変に、変に、変に、変に、変に、変に、	民間診療所 2カ所(知名 町)一部破損 重傷者 15名
9. 1	4		公衆衛生課技術	名町) 徳之島保健所職員と合流,統	1 災害防疫経費所要額

El	時	調査団名等	構成員職名	行動・内容・日程	備考
			補佐 中園 明	一行動開始	知名町 2,565,000円
			主在 末吉嘉明		和泊町 2,5 4 3,0 0 0 円
			名颇保健所		2 隔離病舎,と 部場被害
			   獣医務技師		額
			安庭貞弘		隔離病舎
					被害額 6,253,176円
					大蔵省 3,842,000円 在 定
					と 番場
					被害額 3,700,000円 大蔵省 637,000円 在 定
				1 和泊町役場において災害	a. Æ
				防疫実施計画打合せ	
				2 沖永良部伝染病棟,と畜	   沖永良部伝染病棟半褜
				場の被害状況調査	〃 と畜場一部破損
				8 知名町区長会に出席	
				防疫作業に協力依頼,防	
				疫薬剤の積込状況について	,
				打合せ照会	
			energy of the contract of the	4 南日本牛乳沖永良部営業	被害一部破損
				所調査	
	9.15			1 知名町役場において災害	
				防疫実施計画打合せ	
				2 粗大ごみ埋立地・ごみ処	被害微小
				理センターの被害 状況調査	
				3 和泊町役場で消毒実施状	
				況聴取(消毒班2箇班,市	4
				街地薬剤散布 )	
				4 神戸丸に積載された防疫	
				用薬剤の陸揚数量確認・両	
				町配布	
				両町は当該薬品を各家庭	
				に配布(9月16日午前中	
				終了)	
	9.16			1 知名町田皆地区薬剤散布	
			1	実施状況調査(消毒班1班)	

日	時	調査団名等	構成員職名	行動・内容・日程	調査結果
	·····			2 和泊町役場薬剤啟布状況	
				確認	
				8 沖永良部と畜場に対する	17日,午前8:30よ
				電力復旧工事を沖永良部九	り正常業務
				電営業所に依頼	,
				4 知名町役場に消毒用薬品	
				の配布使用状況確認	
				5 環衛営築施設の被害状況	環境衛生金融公庫災害贷
				調査資料の整理等	付資金について説明
					∫和泊町 16日
					知名町 15日
9	9.17			1 知名町・和泊町に対し,	
				伝染病発生等があったら徳	
				之島保健所知名町駐在の仮	
				屋園技師と役場と連絡をと	·
				りながら,ただちに県に報	
				告するよう依頼	
				2 公衆衛生課中國技術補佐	
				が現在までの状況を本課に	
				報告	

### 5 農政対策部の活動

日時	対 策	備	考
	(農作物等被害対策)		
5 2.9.1 0	支庁・農林事務所および農業改良普及所等を通じて被害農		-
	作物の事後対策について技術指導をすすめた。		
9.1 0 ~1 3	現地に調査団を派遣し、被害実態のは握と指導にあたった。		
9.1 3	農林省・日本専売公社に対し、農業被害対策について陳情		
~1 4	した。		
	(要望事項)	· 農政 部単独	虫で行った
	(1) 自作農維持資金の災害枠の確保及び貸付限度引き上げ	陳情先	
	について	九州農政制	<b>局,日本</b> 専売
	(2) 主務大臣指定施設災害復旧資金の融資枠の確保及び貸	公社鹿児	岛地方局

日 時	対策	備	考
9.16	対 策  付限度額の引き上げについて  (3) 葉たばこ災害補償金の早期支払い(専売公社への要望)について (4) さとうきび共済制度の早期実施について (5) 災害査定の早期実施と災害復旧工事の促進について 被災農家等に対する金融措置を決定し、関係市町村、農協 に対し自作農維持資金等の資金需要調査及び既貸付金の償還 猶予等条件級和について,文書で指示すると同時に、現地へ 県及び出先機関の職員を派遣して、金融相談、資金需要調査 を進めた。  (主な金融措置の内容)  (1) 自作農維持資金の借受農家に対し、さらに金利負担の 軽減をはかるため、県単資金により利子補給をする。  (2) 自作農維持資金の貸付対象とならない農家に対しては 農業振興資金の貸付対象とする。	( 参 素 ○ 自作農維持 11月30日 ( 貸 付 次 5 平 前 受 耳	考) 持資金(52年 現在) 定済 50件 31,150+m L中 70件
	(3) 農業施設の建設、農機具の取得、果樹等の植栽、家畜の購入等、農業経営維持のために必要な資金については農林漁業金融公庫資金(過疎資金)を優先的に実施する。 (4) 早急に資金を必要とする被害農家に対しては、制度資金が融資されるまでの間、つなぎ融資を行う。また災害を受けた施設の造成については農業近代化資金の特別枠を設置する。	○過疎資金 国への枠割 ○つなぎ融別 30日現 (貸付枠) 2億	意45百万円 在(52年11月 在) 8億円
5 2.1 1.8 ~1 0 1 1.1 0 ~1 7 1 1.2 4 ~1 2.1 5 2.9. 9 ~9.1 0	共同利用施設災害復旧事業の査定実施・・・家畜市場等 8件 農地・農業用施設災害復旧事業の査定実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		

日	時	対:	策	徘	考
		10日	1,800Kg(さといも20Kg, わらび12Kg, ば		
			れいしょ200Kg, ふき100Kg, かぼちゃ100		
			Kg, とうが 180Kg, 玉ネギ80Kg, 切干大根		
			10 Kg,人参 15 0 Kg,甘しょ 3 3 0 Kg,ごぼう		
			1 3 2 Kg,加工品3 4 9 Kg)		
	9.10	鹿児島卸売市場の	)大島関係仲卸業者9社 及び海運業者に対して,		
		沖永良部• 与論向日	けの野菜の緊急輸送について協力を要請するとと		
		もに,11日鹿児島	h 港発第1船による積出し状況を調査した。この結		
		果, 沖永良部島向日	野菜の積出し状況は、下表のとおりで、通常の		
		30%増であった。			
		9月11日 9月	12日 9月13日 9月14日 1日平均		
		2,860t 4,2	3 9 t 3,0 9 9 t 3,8 2 3 t 3,5 0 5 t		:
	9.13	家財類の整理のた	こめのビニール100本(1本40Kg)を現地に		
		空輸した。			
	9.13	沖永良部12日差	〒の第1船によって入荷した野菜の価格高騰の原		
		因調査を実施した。			
		☆高騰原因は、鹿児			
		日で休市)の入れ	<b>苛が雨によって滅少したことによるもので,翌日</b>		
		以降は順調な入れ			
	9.1 6	**	見地のと畜場の復旧 が先決であることから・九電		
		等の協力を得て、	慶先復旧をはかり、9月17日から通常ベースの		
		精肉供給が可能と	なった。		

### (2) 現地派遣調查団·派遣職員活動調

日 時	調査団名等	構成員職名	行動内容・日程	調 査 結 果
5 2.9.10	神永良部台	農政技監	9.10	1. 気象概況
~9.12	風災害調査	岡 正	沖 永 良部着	(沖永良部測候所)
	団	農産蚕糸課糖業	9.11	最大風速 39.4 m/sec
		係長	災害調査	最大瞬間風速 60.4 m/sec(9/9
		萩 典宏	(午前 知名町	2 2時 1 5分 ENE )
			午後 和泊町	降雨量 178.5㎜(降り始め 9/8
			9.12	18.20~降り止め 9/10
			災害調査	00時10分)
			与論町	最大雨量 55mm(9/9 22時30分~

		in derive se see	排 母 民 郷 カ	<b>安卧内家,口积</b>	調査結果
<u>E</u>	時	調査団名等	構成員職名	行動内容・日程	2 3 時 3 0 分 )
			·		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
					2 農業関係被害状況
					(1) 農作物の被害
					さとうきび、果樹・たばこを中心に大
					きな被害となった。
					さとうきびは、ほとんどが倒伏し、茎
					葉の裂損もかなりみられた。果樹は・バ
					ナナ等の熱帯果樹や柑橘類の落果が大き
					410
					たばこは、貯蔵中の建物の破かいによ
					り、乾燥づみの薬たばこが風雨にさらさ
				Annual State of State	れた。
					(2) 農業施設の被害
					畜舎,農菜用倉庫等の個人施設や家畜
				W	市場、集出荷所等の共同利用施設が強風
					によって全・半かいし甚大な被害となっ
					to .
					(3) 耕地災害
					水路、農道、水田の土砂流入等の被害
					があったが、雨量が比較的少なかったた
					め大事にはいたらなかった。
					(参考) 沖永良部の被害金額
					農作物 685百万円
					家 畜 8
					農業施設 1,627
					耕 地 60
					計 2,330
					参沖永良部の被害は県全体の被害の 6 7. 9
					%を占めた。
					(県全体=3,431百万円)
					(派主体 - 0,4 0 1日ガログ

#### 6 水産商工対策部の活動

日 時	対策	備	考
	( 水産被害対策 )		·
5 2.9.1 0.1 1 : 0 0	災害報告第1報を受ける。		
	波浪のおさまり次第現場を調査し、詳細を調査するよ指示		
9.1 3	水産庁防災海岸課へ災害報告(電話)		
9. 1. 3	水産庁防災海岸線へ早期査定を要請		
9.19	水 産庁防災 海岸課へ災害報告(文書)		
1 0.1 8~2 2	災害査定 19日現地調査		
	台風第9号(沖永良部台風)による知名漁港災害について		
	〔災害復旧計画 〕		
	9月9~10日にかけて沖永良部島上空を通過した台風		
	第9号により知名漁港のー7.5 M岸壁が被災した。		
	1. 被災状況		
	- 7.5 M 岸壁 1 1 5.0 M のう 5 先端部から 1 7.5 M が		
	被災し, 岸壁 1 7.5 M コンクリート舗装 ( 厚 0.5 M )		
	3 9 7.0 m²および取付部のセルラープロック7個が放乱		
	した。		
	2. 復日計画		
	岸壁,舗装コンクリートは原形復旧を行なうが,セル		
	ラーブロック 6個については、中語コンクリートとし舗		
	装 コンクリートの中間に隔壁工を 1 ケ所追加計上し再被		
	災を防ぐ。		
	3. 措 置		
	1 2月補正予算に計上し、5 2年度完成を行なう。		
	(商工関係被害対策)		
5 2.9. 9	o台風 9 号による災害発生		
9.10	<ul><li>災害を受けた各町に商工災害について早急には握し、報告</li></ul>		
	するよう電話により依頼。		;
9.11	0トタン等復旧物資について鹿児島市内卸業者に対し在庫量		
	と入荷状況、災害地向け出荷価格について協力を要請。		
	<ul><li>の知名商工会からドライアイス2トンを送るよう緊急要請が</li></ul>		
	あり・業者(共進組)へ手配。		
9.12	○ 激甚災害指定を想定,関係資料について検討。		
	○商工災害のは握と金融相談所設置のため与論島、沖永良部		

<u>-</u>	時	対 策	備考
,		島へ職員派遣を決める。	
		○大島支庁より,公共用観光施設の被害状況の報告を受け	r,
		主な被害である園地の樹木の倒伏について早急な措置を	<b>全指</b>
		į	
		(参考) 公共用観光施設の被害状況とその対策	-
		市町村 地 区 金額(+++) 被害内容 対 策	
		伊仙町 犬田布岬 100 樹木の倒伏 再植栽不能	
		知名町 田 皆 郷 6.635 樹木の倒伏 る範囲内で再植栽	
		// 屋子母 10 パースハウ スのガラス 町で修理 の破損	
		与論町 茶 花 200 グラスボー トの破損 町で修理	
		ਜ਼ <del>ੋ</del> † 6.9 4 5	
		旅館については中小企業サイドで融資等に対応した	0
	9.13	o 与論 ,和伯 ,知名において各町 および商工会の担当者	と被
		書調査等について協議。	
	9. 1 4	o和泊町において,金融関係者が一堂に集まり,「災害	<b>資金</b>
		融資打合せ会」を開催。	
	9. 1 5	○ 与論,和泊.知名各町 商工会に「商工災害金融相談所	J &
		設置(9/27まで)。	
	9.19	○福岡通産局(通産大臣あて)へ災害既況(激甚災害指	定の 11.7 激甚災害指
		ための資料)を報告	定告示
	1 0. 5	o同確定報告書を提出。	(与論,和泊,知名町)

# 2) 現地派遊調查団·派遊職員活動調

	日時	調査団名等	構成員職名	行動内容・日程	調査	結 果
-	5 2.9. 1 3	中小企業金	中小企業指導課	9/13~9/27	1. 中小企業	者の被災額
	~27	融相談所設	課長	(17日以降2人)		(刊)
		置及び被害	松山菊男	被災中小企業者に対し	和泊町	2,0 8 8,8 4 0
		状況調査団	(与論・沖	融資あっせんを行う中	知名町	1,0 6 2,5 6 0
			永良部 )	小企業金融相談所を3	<b>与論</b> 町	187.470
			金融係長	ケ町(和泊・知名・与	徳之島町	2,7 0 0
			岩切哲郎	論)に設置するととも	伊仙町	750

E	時	調査団名等	構成員職名	行動内容・日程	調査結果
			( 沖永良部)	にこれが広報を町役場	天城町 4,600
		***************************************	主事	に依頼, 災害にかかる	計 3,3 4 6.9 2 0
			松園耕造	金融相談を行った。	2. 災害融資申込状況
			( " )	9/14 災害資金融資	<sup>52.10</sup> ⁄13 現在
			"	打合会開催(於和泊	件 金額(千円)
			神宮司知文	町)	和 (中小公庫 15 819,000
			( " )	出席者	泊
			商工振興課	[ 県中小企業指導課	小 計148 851,150
			主事	国民金融公邱鹿児	  知(中小公庫 24 533,400
			野田五十六	島支店	名
			( " )	中小企業金融公庫	
			大島支庁	鹿児岛支店	小 計 128 1,258,900
			商工水産課	塵見島銀行和泊支	与 中小公庫 1 10,000 論 {
			主事	店	町 金 41 128800
			藤元龍男	奄美大島僧用金庫	小 計 42 138,800
			(与論)	和泊支店	3 (中小公庫 40 862400
			主事	<b>布美群岛振興開発</b>	ケ   国 金 278 1,386,450
			時田光一	基金沖永良部支店	1
			( 沖永良	和泊町商工会	D 81 010 2/21020
			邪 )		
			and the state of t		
				(結果)	
				1. 政府系金融機関に	
				災害復旧資金の貸付	
				枠の確保及び現地で	
				の融資促進	
				2. 被災中小企業者に	
				係る既往貸付金の条	
				件緩和	
		***************************************		9/15 「激甚災害指	
				定に伴う末端金利等	
				について」公文書発	

B	時	調査団名等	構成員職名	行動内容・日程	調	查	結	果
				送				
		;		激基指定された場合を予想				
				して,利子補給,末端金利				
				の説明をした。				

### 7 林務対策部の活動

日 時	対 策	備考
5 2, 9, 1 0	災害復旧用木材(応急仮設住宅用備蓄材)について社会課と協議するとと	林産課
	もに県木材事業協同組合連合会に対し放出の体制をとるよう指示。	
9. 1 0	鹿児島市内木材店に対し、復旧用木材の出荷を要請。特に価格の値上げ防	
~11	止について協力を要請。	
9. 1 1	応急仮設住宅はプレハブ住宅に決定。応急仮設住宅用備蓄材の放出は不要	
	である旨を県木材事業協同組合連合会に連絡。	
9. 1 2	大島支庁に対し現地調査に職員派遣を依頼(林務課 技術補佐 元井政太	
	郎派遣 )	
9.15	国有林備蕃材払下げについて熊本営林局及び鹿児島営林署と協議,対策の	
	検討	
9. 1 6	台風9号による森林の災害状況について大島支庁林務課より連絡を受ける	造林課
	とともに,森林保険事故に係るものは早急にその損害調査書を出すよう指	
	示した。	
9. 1 8	林産課技術主査貞野定夫,大島支庁林務課林業技師亀沢絡を現地調査のた	
~ 2 0	め派遣	,
	国有林備密材払下げについて和泊・知名町・当局を協議させるとともに現	
	地木材店における木材価格の調査,当地の需要の見とおし等について調査	
	させる。	
9. 2 1	熊本営林局・鹿児島営林署に対し、国有林備蓄材の払下げを和泊、知名両	
	町は受けない旨を連絡	
9. 1 1	鹿児島市内木材店の出荷状況を常時調査	
~25		
L		<u> </u>

#### 

日 時	調查団名等	構成員職名	行動内容・日程	調 査 結 果
9.12~		大島支庁林務課	9.12 和泊,知名町	1. 需要の見込みはたたない
1 3		技術補佐	における復旧用木材	が島内木材店に対し, 需要
		元井政太郎	の需要及び価格につ	に対応するためその都度鹿
			いて調査	児島市内木材店に発注する
	į			よう指導
				2. 木材価格は両町商工会の
				指導により値上りはみられ
				ない。
9.18~	;	林務部 林確課	9. 1 8	1. 国有林備蓄材について両
20		技術主在	和泊町当局と国有	町町当局と協議した結果
		貞野定夫	林備蓄材の払下げの	(1) 国有林材は素材備 蕃のた
		大島支庁林 務課	対応について協議す	め製品として現地送付まで
		技師	るとともに町内木材	は、長期間を要すること
		龟沢 絡	店の価格の調査, 需	(2) 払下材の事務処理の対応
			要の見込等調査	等を考慮し,払下げを受け
			9. 1 9	ないことの結論を得る。
			知名町当局と国有	2. 台風後の天候不良のため
			林備蓄材の払下げの	木材輸送が計画どおり進ま
			対応について協議す	なかったが9月22~23
			るとともに町村木材	日までの到着当で応急復旧
			店の価格調査,需要	資材は見とおしつく。
			の見込等について調	8. 木材小売価格の値上りは
			查	ない。
				特に 町商工会の指導に
				より徹底されている。調査
				結果は次のとおり。
				台風前 台風後
			4.42	タルキ (4.5cm×4.5×4 m)1本
-		Arriverson		490円 484円
				トタン材
				(2.4 <i>cm</i> ×3×4 m) 1本
				195 195
MA.				ヌキ (1.8cm×10.5×4m)1本
				490 484

日	時	調査団名等	構成員職名	行動内容・日程	調査結果
					柱
					(1 2cm×1 2cm×3m)1本
					3,7 5 0 3,7 5 0
					板類についても値 上げは見られた
					V10

# 8 土木対策部の活動

EI	時	対	策	備	芳
5 2.	9.10	大島支庁への被災状況の確認、報告受理			
		現地からの要請により加根又本店等に対し	災害に伴う資材の値上がり抑制や		
		資材の円滑な発送方について協力を依頼。			
		現地調査のため道路維持課長山下辰治・住	宅課長藤川和孝ほか8名を沖永良		
		部,与論島へ派遣	•		
9	. 1 1	現地調査のため住宅課技術主幹上村隼人を	徳之島へ派遣		
9	. 1 2	- DID OF (Trade Hold)			
			破損物の撤去作業を開始		
g	). 1 3	建設省住宅建設課長谷川専門官住宅災害調	査のため来鹿, 14日まで和泊,		
		知名両町を調査・指導			
		住宅被災者のため知名町,和泊町に住宅棋	談所を開設		
		災害公営住宅建設事業及び住宅金融公庫災	[害復興住宅貸付事業について、激		
		基法の適用及び標準建設費基準の弾力的通			
;	9.20	建設省住宅建設課沼生補佐,大蔵省係官の	)立会で、和泊・知名町の住宅滅失		
		戸数を査定			
		災害復興住宅資金貸付制度の説明会を知名	名町 で開始		
	9.2 0	科学技術庁研究調整局生活科学技術課丹器	台と,建設省建築研究所第三研究部		
	~23	構造研究室,室田室長外1名による,被害			
		断			
	9.22	災害復興住宅資金借入れに必要な認定事	<b>多を行う。</b>		
		鉄筋コンクリート造り住宅の建設を奨励す	<b>片るため防災モデル住宅標準設計研</b>		
		究委員会(会長住宅課長)を設立。県防り			
		定			
	9. 2 9	防災モデル住宅標準設計を入札			

日 時	対策	備	考
10.6	災害確定報告書を国に提出		
10.12	建設省住宅建築課篠原係長大蔵省係官の立会で、14日まで和泊町、知名町		
	天城町の既設公営住宅復旧計画の査定		
1 0.1 7	知名町において、台風に強いすまい造り講習会開催		
~18			
10.19	和舶町において台風に強いすまい造り講習会開催		
10.21	政令第298号により災害復興住宅資金貸付金の引上げなる。		
	政令300号により激基災害の指定なる。		
11.16	防災モデル住宅標準設計図完成する。		
1 1.2 4	設計原図を和泊町ほか 5町に配布し、住民に周知させて耐火構造住宅を奨励		
	する。		
5 3.1.2 6	補始金物使用現地指導(和泊,知名)		
~2 8			

#### (2) 今災害の特色と今後の課題

昭和 5 2 年 9 月 9 日に奄美群島を襲った台風 9 号は、沖永良部島で 9 0 7.3 ミリバールと 日本観測史上最低気圧を記録し、最大瞬間風速 6 0 メートルを超える大型のものであった。 これにもかかわらず降雨量が少なく、かつ進行速度が 4 5~50 km/hと速かったため道路、 珠湾、河川等の公共土木施設に及ぼした被害は予想外に軽微であった。

しかしながら家屋には、多大の被害が発生し、直撃を受けた沖永良部島では、比較的老朽化した木造住宅が多かったこともあって、全島 5.200余世帯の約79%にあたる4.100余世帯が破損倒壊すると云う甚大な被害をもたらしたのである。

ア このような多くの被害を被った原因として、次のようなことが挙げられる。

- (オ) 木造の建物が多かったこと。
- (f) 建築基準法施行令に定められた土台方式が極めて少なく、大半が東立構法のものであったこと。
- (ウ) 主要な構造部材の緊結金物が殆んど使用されていなかったこと。
- (3) 主要な耐力壁が少なく、斜材が入っていなかったこと。
- (オ) アルミサッシの開口部に雨戸が設けられてなかったため飛来物により硝子が壊され建 物の内部から小屋組部分が吹き上げられたこと。
- (カ) 屋根が鉄板苺となっているのが多く、またタルキの緊結が不十分であったこと。
- (F) 屋根葺材の取付け方が母屋や野小輝に直接釘打ちされており又釘の長さが短かいため 有効に働いていなかったこと。
- (ク) 従来からあった防風林が伐採されていたことも被害をまねいた一因をなした。

#### イ 今後の教訓

(ア) 今後は、出来得るだけ耐火構造を採用すること。木造建築物は建築基準法施行令の基

準に合った建築とすること。

- (1) 木造建築にあたっては、特に次の点に配慮を要する。
  - ① 継手,仕口部分を金物で補強し、剛性のある建物とする。
  - ② 軒先の出は短かめにし、タルキと桁は鎹や板金物などで緊結すること。
  - ③ 開口部には、雨戸を設け、戸狭みの補強木を準備しておくこと。
  - ④ 建物の四隅には必らず耐力壁を設け、有効な壁筋違いを入れること。
  - ⑤ 屋根下地材を設け、屋根荘材は下地と充分に緊結すること。
  - ⑥ その他県が示している『台風に強いすまい』のパンフレットに倣って施行すること。 以上のことを今後の教訓として設計・施行にあたることにより災害の未然防止に努める ことが肝要である。

#### ウ 港湾施設の今後の課題

今後は船舶の接岸がより安全となるよう、沖永良部島の主要港である和泊港の外かく施設等の整備を進めていくとともに、今回の台風で災害等にかんがみ、緊急時に補完し得るような裏港的港湾として伊延港を54年度から着工し、早期に完成を図るものとする。

#### 3) 現地派遣調查団·派遣職員活動調

日	時	調査団名等	構成員職名	行動内容・日程	调	在	結	果
5 2	.9.10	災害調査団	道路維持課長	沖永良部島災害調查				
	~11		山下辰治	(富永係長は与論島まで)		•		
			港湾課防災係長					
			富永直太郎					
			河川課土木技師					
			徳田 豊					
	9.10	災害 調査団	住宅課長	神永良部島(和泊町,知名町)				
	~12		藤川和孝	災害調査				
			融資係長	(中原係長与論町まで)				
			中原 中					
	9.11	災害調査団	団長 農政部次長	徳之島(徳之島町,伊仙町,				
	~12		塚田吉夫	天城町 ) 災害調査				
			住宅課技術主幹					
			上村华人					
	9.12		大島支庁建築課	住宅相談所(和泊町、知名町)				
			技術補佐	開設準備				
			山下茂昭					
	9.13	住宅災害調	建設省住宅局住	9/13和咱町 9/14知名				
	<b>~1</b> 4	查団	宅建設課専門官	町,災害調査,指導				
			長谷川義明					

<u> </u>		I	·	
日時	調查団名等	構成員職名	行動内容・日程	調 査 結 果
		住宅課建築技師		
		山下孝志		
9,13~		大島支庁建築技	住宅相談所相談員として派遣	
25		師 松坂清美		
9.16		住宅課建築技師	住宅相談所相談員として派遣	
~19		佐々木高文		
9.19	住宅金融公	住宅金融公庫旗	9/19公庫,県,町,各金融	-
~2 6	車 喉本支	本支所個人住宅	機関の合同打合せ	
	所災害調査	課長 漆原康行	9/20災害調査及び災害復興	
	及び貸付説	建設課長	「住宅資金貸付説明会	
	明会	渡部三郎	22 (和泊町,知名町 計9	
		住宅課建築技師	会場において)	
		山下孝志	9/28 災害調查,指導 与論	
			24 町	
			9/25 "	
			26 和泊町, 知名町	
9.2 0	住宅減失戸	査定官 建設省		
~21	数查定团	住宅建設課長補	和泊町,知名町調査	和泊町全壊566戸→
		佐 阳生哲男		559戸 98.8%
		   立会官 南九州		知名町全襲 72 5戸→
		財務局主計第1		685戸 94.5%
		課長 江藤八龍	;	その他全壊51戸 →
		立合者 県土木		149戸
		部住宅課技術補		合計全獎 1,3 4 2戸 →
		佐 山口 勇		1,293戸 96.4%
10.12	既設 公営住	査定官 建設省	沖永良部島 和泊町,知名町	和泊町申請54戸
~14	宅復旧計画	住宅建設課推進	調査	14,416 ₹₱→8,215 ₹₱
	査定団	係長 篠原正積	徳之島,天城町調査	知名町申請24戸
		立合宮 南九州		7,090∓4,822∓4
		財務局主計第一		天城町申請 12戸
		   課監査官		3,479∓ฅ→2,934∓ฅ
		厚地俊宏		
		立合者 県土木		
,		部住宅課課長補		
L		<u> </u>	<u> </u>	

日 時	調査団名等	構成 員職名	行動内容・日程	調	査	結	果
		佐 鳩野武則					
		県土木部住宅課					
		技術主幹					
		大堂和弘					
1 1.24~		住宅課技術補佐	鹿児島県防災モデル住宅標準				
26		山口 勇	設計図、計算書、見積書を各				
		住宅課融資係長	町に配布,及び災害復旧指導				
		中原中	(配布先 与論町,和泊町,				
			知名町,天城町,徳之島町,				
			伊仙町 計6町)				

認定書の発行		り災証明書の発行件数	災害復興住宅資金(農協等調べ)			災害復興住宅資金(熊本支所調べ)・		自己資金復旧状況		防災モデル住宅建設希望	E							
	件 数	11 件 数	新 築 耐 火	T	補修	新築耐火		補修	耐火	木造	補修	設希望	全壞	半	一部損 床			
和泊町	292	601	102	(5 6 (1 1)	1 3 6 (6 1)	77	3 4	111	0	8	$\begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 \\ (1 & 2 & 3) \end{pmatrix}$	15	572	665	879	0	3	2,1 1 9
知名町	223	836	4 0	42	94 (25)	3 0	15	78	2 0	40	$\begin{pmatrix} 1 & 5 & 0 \\ 1 & 5 & 0 \end{pmatrix}$	5	7 2 5	690	576	0	0	1,991
その他							3	3		,								
計	515	1,4 3 7	142	98 (11)	2,3 0 (8 6)	107	5 2	192	2 0	48	273 (273)	2 0	1,297	1,855	1,4 5 5	0	3	4,110

注 ( )数字その内完成件数を示す。

# 9 教育対策部の活動 (1) 災害対策措置概要

(1) 災日 時	害対策指直機要 対 策	備考
5 2.9.1 0	社会教育施設の被害状況を文部省へ報告	社会教育課
		1
9.12	復旧について技術指導	振興課
~14	国庫負担事業計画等災害復旧費国庫負担法による諸手続きの事	
	務指導	
	復旧設計書の作成	
9.1 5	学校給食用被害物質の補給完了	保健体育課
9.1 7	義務制の被害教科書(4,010冊,857,156円)を第1便	学校教育課
~1 0.1	(9月17日), 第2便(9月20日)発送。その後教科書の	
	内容などのための返品および冊数不足について10月1日補給	
	して,すべてを完了した。	
9.28	高校用は9月20日発送。	
~30	学校共済組合員の被害者,83件について概算払いを行う。	厚生課(公立共済)
9. 2 9	体育施設の被害についての報告書を文部省体育局に送付。	保健体育課
10.12	和泊中屋内運動場の屋根改修工事について,再度現地調査のう	振興課
~13	え,技術指導をする。	
10.30	学校共済組合員の被害者 7 8件精算払いを行う。( 書類審査中	厚生課(公立共済)
	のもの84件)	
11.2	高校生の授業料免除143名決定(申請者全員許可)	総務課
11.9	県指定史跡について和泊町教育委員会に対して、被害状況報告	文化課
	書提出を指示。	
	(昭和58年度事業として補修工事を検討)	

### (2) 現地派 遺調 查団·派遺職員活動調

ſ	日 時	調查団名等	構成員職名	行動内容・日程	調査結果
	5 2.9.1 0		県文化財保護指	管内文化財被害状況調査	和泊町の世之主の墓扉全
			導員 高野東風盛	9/10 大島支庁事務局	<b>婆石垣一部損墩被害額約</b>
				へ緊急電話報告	30万円
					他は彼害なし
	9.1 2	,	振興課技術主幹	県立徳之島高,徳之島農高	国庫負担事業計画書を作
	~13		山下益夫	の災害復旧工事の現地調査	成し,復旧するに当って
l			振興課技術主査	県立沖永良部高, 与論高の	国の補助金を受ける手続
l			上大田成隆	災害復旧工事の現地調査	きをとった。
	9.18		振興課技術主査	和泊・知名町立小中学校の	災害復旧費国庫負担法の

日時	調査団 名等	構成 員職名	行動内容・日程	調査結果
+-t H()	in Free - m 47.	橋口明	災害復旧について現地調査	適用を受ける学校につい
		11.0	をすると共に復旧について	ては、国庫負担事築計画
		***************************************	の技術指導および災害復旧	書を国に進達し、国の負
			<b>費国庫負担法による書類の</b>	担金を受ける手続きをと
			作成などについて指導をし	った。
			た。	
9.15		   教育次長		・施設・設備の被害状況
~16		内山博允	和泊,知名両町の町長訪問	·授築実施状況
		総務課広報係長	// 両町の町教委訪問	  ・教科書被災状況
	W-100-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00	田中一成	問	など報告を受けた。
				関係各課へ連絡
10.12	2	振興課 技術主幹	和泊中屋内運動場の災害現	和泊中屋内運動場,屋根
~18	3	田之脇光雄	地調査および屋根復旧工事	補修工事について設計事
		振興課建築技師	についての技術指導をした。	務所と打合せのうえ、町
	:	不 笠信一	また,町立国民体育館,知	当局に屋根葺材料につい
			名町立知名小, 住吉小, 田	て指導した。
			皆小について現地調査をし	
			た。	
5 2.9.1 2	2 台風 9 号に	教育庁厚生課給	和泊町内公立学校共済組合	全 坡6戸 )
~1 5	3 よる公立学	付係	員住居個別被害調査	半 壊10戸 計44戸
	校共済 組合	主事 四元後次	(9/12~9/13)	一部破損 2 9 戸 )
	員住居被害	主事補		
	調査団	竹之内誠		
		•		
9.1 4	. "	"	知名町内公立学校共済組合	全 壞 4戸 ) 戸
			員住居個別被害調査	半 堰11戸 計59
			(9/14~9/16)	一部破損 3 4 戸 丿
9.1 8	5 "	"	"	
	"	教育庁厚生課給	与論町内公立学校共済組合 B 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	一部 破損 8 戸
		付係長	<b>員住居個別被害調査</b>	
		<b>堀之内</b> 俁雄	(9/15~9/16)	
9.16		# ====================================	工品班 用加尔内及专业协	- 97 AT HB 9 FF
~17	"	教育庁厚生課給	天城町,伊仙町内公立学校	一部破損 3 戸
	***	付係主事 四元義次	共済組合員住居個別被害調	
		主事補 竹之内誠	査(9/16~9/17)	

### 10 公安対策部の活動

災害対策措置概要

災害業	<b>计策措置嘅要</b>		
日 時	対 策	備	考
	( 県警警備本部の設置 と活動状況 )		
5 2.9.9	奄美地方の「波浪警報」「大雨洪水 強風注意報」発令に伴い,県警本部に		
	災害警備準備本部(準備本部長は警備部長)を設置,奄美地方の4か署に対		
	し警戒体制を発令,4 か署 (沖永良部・徳之島・瀬戸内,名顧の各署 )は響		
	<b>戒体制に入る。</b>		
22:00	台風9号の沖永良部島接近の時点で準備本部から, 県警本部長を長とす		
	る「県警災害警備本部」に切りかえ、さらに県下28か所の全警察署に対		
	し警戒体制を発令して順次警備本部を設置するよう指示した。		
	以後,県災対本部,気象台,その他関係機関と緊密な 連絡交換を行うほ		
	か,県下全警察署には「事前広報と早期自主避難の徹底 その他」につい		
	ていっせい指令(電送)により指示を行った。		
	( 警察署の活動 状況 )		
5 2, 9. 9	1. 9号台風接近により奄美地方の警察署を中心に県下の合計 1 4 署 ( 沖永	Anna de la constanta de la con	
	良部, 徳之島, 瀬戸内, 名瀬, 屋久島, 種子島, 大根占, 高山, 枕崎, 指		
	宿,加世田,川内,阿久根,出水)では署警備本部を設置し,「避難,救		
	助,防犯,警戒,被害調査,その他」の災害警備活動を行った。		
	2. 避難活動(歓告,誘導)の状況		
	○和泊町 9 / 9 (夜 )町内小中学校,公民館など 2 8 か所		
:	1,281世帶 3,609人		
	o知名町 9/9(夜) 町内小中学校, 公民館など16か所		
	2,188世帯 6,547人		
	o 与論町 9 / 9 ( 夜 ) 町内小中学校など2 か所		
	85世带 146人		
	o天城町 9/9(夜) 町内小中学校,公民館など4か所		
	82世帯 119人		
	○伊仙町 9 / 9 ( 夜 ) 町役場,小学校など 3 か所		
	4 6 世帯 1 4 5 人		
	合計 5 5 か所, 3,4 3 2 世帯 10,5 6 6 人の避難活動をそれぞれ町当局と		
	協力し、実施した。	*	
	(警察官出動数)		
	1. 警備本部要員 32名		
	2. 各警察署員現場出動 237名		
	合計 269名		
	( 沖永良部警察署の災害後の特別警戒実施 )		
	7.0	ļ	

日 時		対	策	備	考
5 2.9.1 2	1.	期 間 9/12~9/2	0日まで 9日間		
~9.20	2.	体 制 署長以下 營察職	員 3 0 名		
	3.	<b>警戒要領</b>			
		災害後の治安維持強化をねら	いとして,夜間勤務体制,機動警ら,広		
		報活動、その他防犯活動、生活	侵害事犯の取締り を強化し、民心安定を		
		図ることとする。			

# 11 県災害対策本部大島支部の活動

### (1) 災害対策措置概要

日 時	対策		備	考
5 2.9.9.1 6 : 3 0	管内市町村の風雨の状況につき調査			
16:40	上記につき消妨防災課へ報告,災害対策本部支部	設置につき		
	検討			
17:00	県災害対 策本部大島支部設置			
21:00	管内市町村の災害対策本部設置状況を調査		21:00	~2 i : g 0
21:15	上記につき消防防災課へ報告		朝戸中組	場局系防災行
21:55	和泊町防災行政無線不通となる(強風により無線	鉄塔破損)	政無線不	「通箇所発生
22:45	瀬戸内・宇検・住用の各町村停電状況調査		22:15	冲水良部地
23:15	消防防災課へ知名・和泊両町の防災行政無線が不済	通となった	区の一般	別加入電話に
<u> </u>	旨連絡し,加入電話による連絡を試みる。		不通箇別	であり。
	負傷者が発生しているとの連絡がはいる。			
23:30	管内町村避難状況調査(知名町役場に,30人ほ	ど避難した		
	が窓の破損により、5~6人の負傷者が発生し、	他へ移動す		
	るとの連絡がはいる。)			
9.10.01:30	沖永良部土木出張所より被害状況報告(9日22	: 15頃,		
	風速計が65m/sec以上をさし、破損)			
02:00	情報収集続行			
06:00	和泊町より応急仮設住宅及び災害救助法の適用に	ついて要望		
	あり			
08:00	建築資材の手配開始			
11:20	管内町村の被害状況を取りまとめ、県災害対策本			
13:00	大島支庁長米丸操、名瀬海上保安部巡視船「あまみ	」に食料を		
	<b>樹んで現地救援にむかう。</b>			
14:00	災害速報を県災害対策本部へ報告			
16:20	"			

日 時	対策	備考	
9.10.22:00	災害速報を県災害対策本部へ報告		
9.11.06:00	巡視船「あまみ」,時化のため古仁屋港に避難していたが,		
	再び沖永良部島へ向け出発。		
10.:30	大島支庁長一行・和泊到着。上陸後・直ちに被害状況視察		
	知事視察に同行		
22:00	管内各市町村の被害速報取りまとめ		
23:00	県災害対策本部へ被害速報報告		
9.1 2.0 8 : 3 0	現地沖永良部土木出張所内に現地連絡所設置	9月12日~	
	大島支庁長が陣頭指揮をとる。	支庁各課・各出   事務所から現地	
	徳之島保健所長高井鐐二外 1 名 , 現地防疫 指導に出発	職員派遣	
17:00	管内各市町村の彼害速報取りまとめ		
17:20	県災害対策本 部へ被害速報報告		
9.13 1 9 : 0 0	管内各市町村の被害速報取りまとめ		
19:10	県災害対策本部へ被害速報報告		
9.14 07:30	現地連絡所より復旧情況報告		
08:00	現地連絡所より県災害対策本部に対し、復旧用車両の空輸を		
	依順	٠	
11:00	「クインコーラル1号」の運搬してきた復旧用車両15両を		
	名類市に陸揚げした旨連絡あり。		
11:25	現地連絡所の大島支庁長より,空輸計画につき再度県災害対		
	策本部に要請		
13:09	空輪の際の空港での作業につき調整		
16:00	Cーモジェット輸送機により電々公社工作車1台,九電工作		
(~17:30)	車3台空輸		
16:00	被害速報報告		
9.15 09:35	09時13分発のC-1輸送機隊1便にて車両2台, 衣料品		
	2 箱を空輸		
	また,同時に,名蘭商店街寄付の衣料品2箱も輸送		
18:15	県災害対策本部に対し空輸作業状況等を説明		
	大工職のあっせんにつき連絡		
9.16 11:50	沖永良部土木出張所より港の風波の状況につき連絡		
13:30	県災害対策本部に,大工職のあっせん並びに応急仮設住宅の		
	建設用地を町が処理する旨、連絡		
14:00	大島支庁長帰 庁		
9.18 17:00	県災害対策本部に対し被害速報報告		
9.19 17:00	u		

E	時	対策	備考
9.20	17:00	県災害対策本部に対し被害速報報告	
9.24	11:00	ル 最終確定報告	
9.30	12:00	県災害対策本部大島支部,同現地連絡所解故	

### (2) 現地派 遊調查団·派 遺職員活動

日 時	調査団名等	構成員職名	行 助 内 容
9.10~16	大島支庁救	大島支庁長	9/10 13:00 巡視船「あまみ」(名額海上保安
	援隊	米丸操	部所属)にて名瀬港を出発。野菜及びインスタン
		ほか3名	ト食品25tを積載。
			9/11 06:00 時化のため古仁屋港に避難していた
			が,再び出発する。
			9/11 10:30 沖永良部島上陸。直ちに情報収集
	-		のために現地を調査。
1			9/12 08:30 沖永良部土木出張所に現地連絡所
			を設置し、対策を指揮。
9.1 2~14	現地派遣	林務課	被害調查実施
		技術補佐	
		元井政太郎	
		外1名	
9.1 2~27	"	建築課	現地被災住宅修復, 建築及び応急仮設住宅建築指導
		技術補佐	並びに住宅相談所にて住宅相談指導
		山下茂昭	
		外 1 名	
9.13~16	"	商工水 確課	被害調査
		主事	
		時田光一	
9.14~16	"	大島支庁次長	被害調查,災害対策指導
		池田悠久	
9.16~18	"	農務課	制度金融事務農協指導
		技術主査	
		作元昭文	
9.16~21	"	厚生課	災害救助法に関する事務等
		課長補佐	
		岩下辰男 外 2 名	

日時	調査団名等	構成員職名	行 動 内 容
9.20~22	現地派遣	農務課	被害調查
		盃菜技師	
		上原平一	
1 0.1 4~16	"	厚生課長 松崎 磐	"
		外1名	
1 0.1 7 ~2 0	"	建築課	台風に強い建築方法について指導,説明
		技術主任	
		守島守国	

# 第4 町災害対策本部の活動

### 1 概 況

今回の災害に備え県内各市町村では警戒を強めたが、直撃を受けた奄美大島地方をはじめ熊 毛地方さらに県本土の一部でも,各市町村は災害対策本部を設置した。

県内で災害対策本部を設置した市町村は, 8市-14町・6村にのぼった。 なかでも沖永良部島の和泊・知名両町は災害対策本部の総力を結集し応急復旧に努めた。

### 2 町災害対策本部の活動

### (1) 和泊町災害対策本部措置概要

E	時	対 策 状 況
5 2.9.9.	14:0,0	10日子定の定例区長会を繰り上げ緊急招集し、防災対策並びに被害報告要
		領を協議
	18:00	災害対策本部を設置し,第1配備20名が部署につく。
		第1次公報 車出動 し注意呼びかけ。
	19:30	広報車帰庁
	20:00	突風混 じりの風激化に伴い,第 2次広報車出動し,注意呼びかけ。
	20:30	庁舎内外の再点検と警備対策協議
	21:00	沖永良部測候所より「気圧が異常に下がってきたので、住民に注意を呼びか
		けられたい。」との電話があり、第8次広報車出動。シープと消防車2台を
		東部と西部に出動させ,広報。
	21:15	東部地区へ出動した消防車は,突風と雨のため前進不能となり,後退し役場
		へ引き返す。西部地区へ出動したシープは最初追い風であったが、間もなく 突風のため前進が危険となり引き返そうとする。しかし、和字のゆり集荷倉

В	時	対 策 状 況
	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	庫の屋根が路上に飛び通行不能のため、近くのブロック塀の陰に避難し、
		22時20分頃まで30分間動けず。
5 2. 9. 9	21:45	各 地の住民から救援を求める電話があり 職員は出動を準備したが、外の状況
		は飛散物多く出動命令を取り消す。
		家を捨て、フトン等をかぶり自衛するよう指示をくり返す。
	21:55	庁舎屋上の防災行政無線塔がごう音 とともに 倒壊し、鉄筋コンクリート2階
		建ての庁舎が音をたてて揺れるため、別棟に本部を移動する。
	22:15	電話不通
	22:25	台風の目にはいり、風雨が止む。庁庭に続々避難する人々を収容するが、
		20分程で吹き返しがはじまり,避難途中の住民は身近な物陰に隠れる。
	22:30	第 3 次広報に出動したシープが, 障害物を除去しつつ, 帰庁。
9.10	00:00	風が弱まり歩けるようになったため、負傷者の搬入を予想し大野医院に応急
		診療所の設置を依頼する。(午前5時までに40人を治療)
	02:00	電話不通のため、大島支庁への連絡を沖永良部警察署の直通電話によりおこ
		なう。
	04:00	公民館の電話は生き残っているとの連絡を受け、鹿児島市に入院中の町長に
		状況を報告し,以後大島支庁, 県庁への連絡に利用する。
	06:00	情報収集を開始するが道路が不通で困難を極める。
	10:00	
	11:00	電々公社に対し電話の早期復旧につき要請。
	14:30	第 1 次陸上自衛隊災害派遣隊到着し,直ちに活動開始。
	17:00	県災害調査団ヘリコプターで到着。直ちに調査開始。
	19:00	町議会沖議長一行沖繩県視察から自衛隊ヘリコプターにて帰島し, 災害対策
		全員協議会開催。
		老人憩の家に避難所設置し、45人収容。
9.11	08:30	大型ゴミ収集開始。(自衞隊員50人・ダンプカー12台,ショベルカー2
		台)
	10:30	米丸大島支庁長一行到着し、報道関係者も来島
	11:00	
	16:00	知事及び郡選出県議会議員団来島し、名瀬出張中の町助役も帰庁する。
		電々公社の作業により電話3回線が開通するが、島外からの安否の照会が殺
		倒し、公用に使用できないため無料特設公衆電話の設置を要請 し、直ちに設
		置される。
		町内を4地区に分けて4時間毎給水を実施、高台については消防車2台に
		て給水。
		町商工会は理事会において、便乗値上げをせぬ旨決議する。

E	時	対 策 伏 況
5 2.9. 1 2	09:00	町長は全職員を招集し「禍を転じて福とし,一致協力し万全を期する」旨,
		訓辞。
	12:00	陸上自衛隊災害派遣隊敬収。
	17:00	国頭果部地区に給水車2台出動する(15日まで)。
9. 1 3	09:00	町執行部と議会委員長以上の災害対策協議会を開催し、島外大工の受け入
		れ、物資の調達等について協議する。
	13:00	電々公社及び鹿児島銀行の自家発電機過熱のため冷却水を消防車で補給し
		公共施設の機能低下を防止する。
9.14	15:50	国土政務次官一行災害調査のため来島。
		県に大工の派遣につき要請する。
	18:00	電気復旧工事照明のため消防車出動
9.15	10:00	各字区長,民生委員合同の配分委員会開催
		被災者用救援物資を鹿児島市山形屋に発注
		復旧作業は本格化したが、大型定期船は接岸が波のため困難となり、乗客
		と生鮮食品の荷揚げにとどまる。
9.16		県議会調査団来島
		県建築課長, 住宅の調 査に来島
	14:00	航空自衛隊の災害派遣隊徹収につき県へ要請
9.17	11:30	航空自 衛隊災 害派 遺隊 徹収
		水道完全復旧
		職菜訓練生の受入れ準備打ち合せ
		鹿児島市山形屋と寝具類及び学用品の購入契約締結
9.18		応急仮設住宅資材第二晴見丸で入荷
		知名町白浜港に救援物資が大量に入荷したため、重機運搬車を出動させる
9.19		教援物資配布準備のため各課より職員を増員する。
		被災住宅応急修理工事請負契約締結
		山形屋より被服寝具生活用品入荷
9.20		鹿屋・宮之城職業訓練校生来町
		応急仮設住宅建設工事請負契約締結
		<b>参議院災害対策特別委員会来</b> 島
		建設省住 宅災害查定 官来島
		全職員が救援物資配布のため出動する。
9.2 1		職業訓練校生により,公共建物及び老人母子家庭を中心に10月4日まで
		復旧作業を開始する。
		応急仮設住宅建設工事着工
<u></u>		12日振りに大型旅客船が接岸し大型機材の荷おろしが始まる。

El	時	対 策 状 況
5 2.9.2 2		山形屋から被服寝具その他生活必需品及び学用品が入荷する。
9.24		救援物資を各字へ配布する。
9.25		自民党災害対策特別委員会来島
9.29	09:30	第3回定例議会、会期は10月8日まで。
9.3 0		町議会全員による沖永良部台風災害対策特別委員会を設置し, 対策を検討
		する。
1 0.1		第1回災害対策特別委員会を開催し、災害援護資金の申込制度の緩和と早
		期支給,住宅金融公庫の災害資金、国民金融公庫の災害資金申し込みに必要
		な収入証明書発行者の明確化と簡素化、救援物資や見舞金の配分等について
		審議
		建設大学校生来町(11月10日まで復旧作業に従事)
1 0.4	17:00	災害対策本部を解散

### (2) 知名町災害対策本部措置概要

E	時	対 策 状 況	備	考
5 2.9.9	16:55	知名町災害対策本部設置,本部要員7人を増員し宿泊態勢をとる。		
		知名町消防団(13分団164名)警戒体制にはいる。		
	18:00	各部幣区長に厳重注意を呼びかける。		
	20:30	風次第に強くなる。		
	21:40	停電,自家発電に切りかえ		
	21:50	風猛烈となり、庁舎 1階~3階まで窓ガラスが割れはじめる。		
	22:25	突然無風となり星空が見える。町内各所に電話を試みるが、いずれ		
		も不通,附近住民80人が避難場所を求めて役場に殺到する。		
	23:00	避難住民を紬養成所に誘導中吹き返しが始まり,約30人が逃げ遅		
		れて役場内にとどまる。		
		屋外歩行不能		
9.10	00:00	奇跡的に難を逃れた電話8112番で、県庁、県大島支庁など島外		
		と連絡をとり続ける。不眠不休で庁内の応急修理にあたる。		
	06:00	夜明けと同時に情報収集に奔走するも、町内全城電話不通,道路は		
		飛び散ったトタンや木材、折れた電柱、引きちぎられた電線などで		
		<b>通行不能であり、収集活動は困難を極める。</b>		
	09:20	自衛隊の災害派遣を要請(県大島支庁経由)		
	10:00	災害救助法適用決定		
	11:00	西部断水地区への給水車運転開始		
	14:30	災害派遣隊第1陣沖永良部空港着陸,直ちに活動開始		

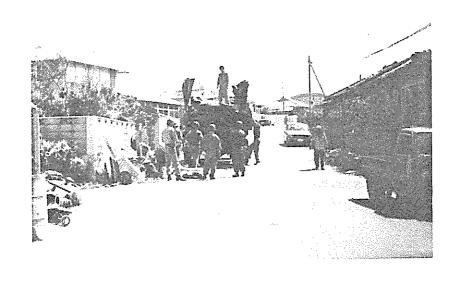
El .	時	対 策 状 況	備	考
	17:00	県災害 調査団来島		
0 2.2.2	23:00	自衛隊災害派遣隊初日作業終了		
9.1 1		県災害調査団活動開始		
	09:00	大型ごみ収集開始		
	10:40	巡視船 「あまみ」で米丸大島支庁長一行来島,同便にて救援物資第		
		1 便到着		
	13:00	緊急町議会を召集・対策を協議		
	16:00	鹿児島出張中の町長、知事・県議団とともに帰町		
	17:00	知事・大島支庁長,町内を視察し被災者を激励		
	19:00	九電・ミチユイ水源池に送電開始		
9.1 2	10:00	緊急区長会を召集し災害対策や予定していた各種行事の延期など協		
		镃		
		電々公社、九州電力の災害復旧隊、船便で大挙来島		
		中部地区水道給水開始	İ	
		陸上自衛隊災害派遣隊、CI輸送機で撤収し、航空自衛隊増員派遣		
9.13	09:00	吉松・本部医院被災のため医療処置に支障あり、町職員により応急		
		対策		
		神戸神州会長ら災害見舞のため来町		
		救援物資シケのため接岸できず徳之島等から、航空自衛隊C 1 輸送		
		機の空輸作戦を開始。		
9.14	06:00	西部地区水道復旧。		
		新名神戸沖州会長,篠田尼崎市長ら災害見舞に来町		
	11:30	叮議会正副委員長会議		
ļ	13:3,0	緊急区長会・救援物資・トタン配付など協議		
	15:30			
		日赤枚援物資配布		
		防疫対策開始		
9.15		応急 復旧作業継続		
9.16		小米駐車場に仮債みの大型ごみなどの処理のため、ダンプトラック		
		13台・ショベルカー2台・ブルド ―ザー2 台を投入し、大がかり		
		な処理作業実施		
		バス路線復旧再開		
9.17		航空自衛隊作業終了		
		生長の家作業奉仕隊来町		
		北部地区水道復旧		
		仮設住宅の建設開始	<u></u>	

E	附	対 策 状 況	備	考
5 2.9.1 8		生長の家奉仕隊小米地区の不燃物の処理作業実施		
9. 1 9		接護資金・応急修理・見舞金の受け付けなど災害事務の円滑化のた		
		め職員の配置を増強する。		
9.21		<b>参議院災害対策特別委員会来町</b>		
		生長の家奉仕活動終了		
	15:00	破害状況の確定報告を,大島支庁を経由し県災害対策本部へ連絡		
9.24		町議会,破害調査及び復旧状況の視察		
		徳之島町の建築業者山口組の奉仕で法務局知名出張所の補修工事開		
		始		
9.26	09:00	自民党災害調查団来町		
		都城東髙校奉仕団20人来町し,公営住宅の補修にあたる(10月		
		1日まで)		
9.29	10:00	第3回定例叮議会開会,台風関係一般質問		
9.30		仮設住宅工事急ピッチで継続,本日中73戸建設予定		
		救援物資配布継続(日赤・町単分は配布終了)		
ι 0.8	12:00	町災対本部開散・通常業務の中で復旧作業		

# 部外機関の活



救援活動に活躍する自衛隊



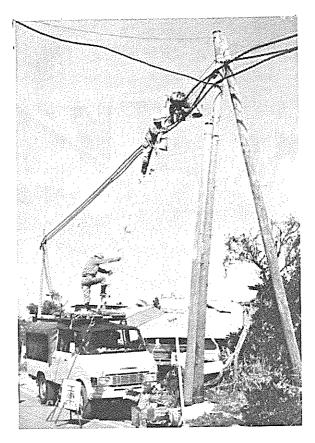
# 動状況写真



復旧資材を満載し続々と着陸するC-1



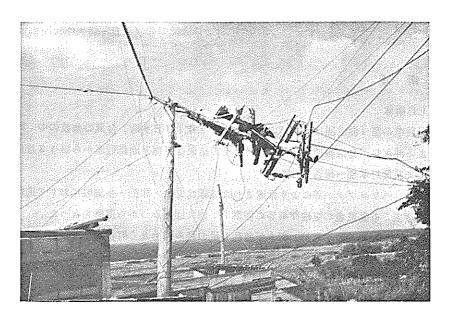
荷降ろしを終えたC-1



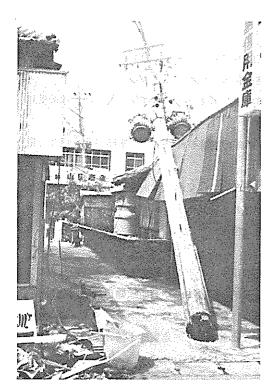
厳しい条件のもと作業に専念する電々公社の職員



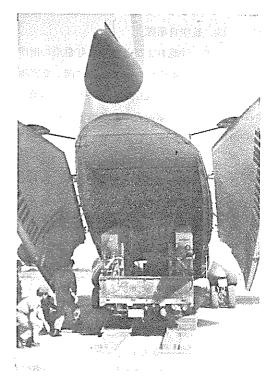
C-1の運んだ工作車が活躍する



**島内の電柱はほとんど折れてしまった** 



根元から折れた電柱



九電工作車を降ろす C-1

## 第5 部外機関の活動

### 1 自衛隊

### (1) 陸上自衛隊

沖繩駐屯の第1混成団は、知事の要請により9月10日9時、台風の余波の中、同団所属 機による沖永良部島情報偵察を行なった。その結果は西部方面総監部から第12普通科連隊 を通じて県災対本部へ報告された。

さらに、ヘリコプター等により派遣された本隊は知名・和泊・与論町において道路啓開、 障害物除去、重傷患者の空輸作業等に従事し、徳久団長みづから指揮をとった。

現地は倒壊した家屋や電柱,樹木が散乱し足の踏み場もなく町役場や主要道路の整理啓開作業を手はじめに各所の破片等の除去を行った。

### (2) 海上自衛隊

鹿屋市駐屯の鹿屋教育航空群は、県知事の要請により県災害対策本部現地調査団員をHSS-2型へリコプター2機により空輸した。

鹿児島県鴨池教難用へり広場から飛び立った2機のヘリコプターは、台風の余波の残る海面すれすれに飛行しつつ、沖永良部空港へ輸送した。これにより県は、迅速な調査を実施することができた。

### (3) 航空自衛隊

ア 沖繩および現地知名町駐屯の南西航空混成団所属の各部隊は、知事の要請により、知名 ・和泊町において道路啓開、障害物除去作業に従事した。

知名町大山レーダーサイトの第55警戒群は地元部隊として他部隊の災害派遣隊の受け 入れや車両の手配等精力的に活動した。

また陸上自衛隊第1混成団隊員の輸送や資機材の空輸も行い、その機動力を遺憾なく発揮した。

イ 沖永良部島は離島であり、かねてから天候不良時には交通運輸が途絶えがちであった。 今回の台風は特に強力であったため通過したあとも余波により船舶の接岸が困難となり港 も被災し、資材を満載しつつも沖待ちする船が相次いだ。(電々公社、九州電力の記事を 参照のこと。)

このため特に電々公社・九州電力の大型工事用車両の不足を解決し復旧物資のすみやかな輸送を確保するため知事の要請により、埼玉県入間市の航空自衛隊輸送航空団入間航空隊のジェット輸送機C-1は9月13日午前9時日赤救援物資(ミネラルウオーター)を空輸し、後続機とともに、工事用車両を積んでは奄美・徳之島空港と沖永良部空港間のピストン輸送を行った。

次々と飛来するジェット機の姿は、 現地住民や復旧工事担当者を勇気付け、特に 1 番機, 2 番機の着陸の時には、万才の声や拍手がおこった。

※ 各部隊の派遣人員、資機材等は別表のとおりである。

(別表-1) 台風第9号の災害のため派遣要請等を行った自衛隊の部隊関係調べ

部 嫁 名	指輝官職	階級	氏名 所 在 地	
<ul><li>◎ 陸 上 自 衛 裝</li><li>第12普通科運隊</li><li>○ 第1混成団</li></ul>	連隊長団 長	1 陸佐	山本英一 国分市福島 2 3 6 1 - 1 〒899 徳久宗治 那 期市 鏡 水 6 7 9 〒900	

### ◎施上自衛隊

o 鹿屋教育航空群 群司令 1 海佐 清水俊彦 鹿屋市西原	<b>7</b> 893	i
-------------------------------	--------------	---

### ◎ 航空自衛隊

司令官	空 将	小松 利光	£ 入間市大字黒須 8 7 〒3 5 8
司令	空 将	中島泉二郎	隊 境港市小篠津町 2 2 5 8 〒6 8 4
"	1 空佐	林 昭男	入間市大字黒領87 〒358
"	空 将	吉崎	遊 那獨市鏡水 6 7 9 〒900
"	1 空佐	橋本 音	77) Y
"	2 空佐	佐藤 武元	
"	2 空佐	古井 徳邦	公 大島郡知名町上平川 2081-1
"	1 空佐	波辺 利納	推 糸満市糸満字与座 1,7 80
"	2 空佐	庄子 四郎	那 那 那 節 競 水 6 7 9 〒900
"	1 空佐	田中 政	<u>ਓ</u> ″
"	1 空佐	横田	博 //
	司 令	司 令 空 将	司 令 空 将 中島泉二郎 W 1 空佐 林 昭野 W 1 空佐 枯

5 2. 9. 1 6 調べ

STO:	24	人 員, 歲 材 等											派遣内容等参考事項					
電	話	実	実 員 数 延 員 数 资 機 材 数					MOTTIVE 4.50.2 4.34										
09954-6-08	350												派遣要請経由機関					
0988-57-11	155		1 2	6人		3 3	2人						情報偵察, 道路啓開, 障害物除去					
				5機		1	3歲		V-	-10	1B	1 3 1	5 2.9.10 0 9:00~5 2.9.12 13:00 5 2.9.10 12:30~5 2.9.12 13:00					
				6台	***************************************			車両	í	1/4	t							

09944-3-3111	9人 乗務員のみ 9人	HSS-2 2機	県災害調査団の現地への輸送 5 2.9.1 0 1 4:5 0~2 0:2 0
--------------	----------------	----------	--

0429-53-6181	5 4人	165人		災害派遣命令権者 県の災害派遣要請の 提出先で調整窓口
08594-5-0211				
0429-53-6181	(54)人	(165)人	航空機 { C-1 5機 (延 13機)	Cー1輸送機による空輸
0988-57-1191	248人	595人	航 C-1 3機延16機  車両 トラック他 9台	1混団の隊員緊急派遣空輸
"	(整備隊)人	[ 1人	(延4 6台)	52.9.10 12:30~52.9.17 12:00
"	2 2人	107人	車両 1台	道路啓開,障害物除去
099793-2169	170人	298人	車両 ジープ 1 大型トラック 3	"
	2 1人	85人	小型トラック3	5 2.9.1 3 0 9 : 0 0 ~ 1 3 : 3 0 5 2.9.1 3 1 3 : 0 0 ~ 5 2.9.1 5 1 8 : 0 0
0988-57-1191	1 3人	46人		
"	1 3人	3 9人	(46.00)	
"	8.8	19人		

(別表一2) 台風界 9 号	による自衛的	なの火 吾山 9	3)从底两个						0 2. 5.	- 0 11.19
部	9/10	9/11	9/12	9/13	9/14	9/15	9/16	9/17	人 実員数	負 延 員 数
◎ 陸上自衛隊 ○第 1 混成団	8 1人	· 125人 3台	126人	0	0	0	0	0	1 2 6人 (5 機) 3 台	3 3 2人 ( <sup>1 3</sup> 機) ( 6台)
<ul><li>○ 海 上 自 衛 隊</li><li>○ 鹿 屋 教 育 航 空 群</li></ul>	9人	0	0	0	0	0	0	0	9人 (2機)	9人(2機)
<ul><li>◎ 航空 自衛隊</li><li>○ 輸送航空団入間航空隊</li></ul>	0	0	0	{ <sup>6</sup> 9 人 6 人 8 機	{ <sup>2 2</sup> 人 6人 3 機	{ 3.6人 6人 5 機	{14人6人2機	0	7 5 人 ( 5 <u>機</u> )	165人(13機)
o 南西航空施設隊	0	0	0	20人	21人	2 2人	22人	2 2人	22人	107人
o 第 5 高 射 群	0	0	0	0	0	13人	13人	13人	13人	3 9 人
0 那 覇 基 地 隊	0	0	0	2人	4人	8人	5人	0	8人	19人
o 南西航空警戒管制隊			•						1人	1人
• 第 5 5 警 段 群	20人	3 1人	36人	5 3 人	3 5 人	43人	40人	40人	170人	298人
- 第 5 6 //	0	0	0	11人	11人	21人	21人	21人	21人	85人
· 南西 防 空管制群	0	1 1人	11人	11人	13人	0	0	0	13人	46人
車 両	1台(9台)	7台 (23台)	7台 (16台)	7台 (15台)	7台 (13台)	6台 (5台)	5台 (13台)	6台 (12台)	9 台	46台 (106台)
計	110人	.67人	173人	172人	1 1 2人	149人	121人	96人	458人	1,101人
,		<u> </u>	L		<u> </u>					

### 2 日本電信電話公社鹿児島電気通信部

### (1) 被害状況

大型で非常に強い沖永良部台風の直螺を受けた沖永良部島では島内の加入電話の90%にあたる4,100加入がり障し、通信設備も大きな被害を受けた。その状況は下表のとおりである。

局所別	n þ	章 数	ح جا
施設別	沖永良部局	知名局	合 計
一般加入電話	1,539	1,547	3,086加入
地集加入電話	461	5 5 3	1,014加入
小 計	2,000	2,100	4,100加入
加入電話	7	2	9 台
模 写 機	1		1台
構內交換設備	2	2	4台

しかし悪条件下にもかかわらず、職員および請負業者は復旧に全力を尽くした。 以下、復旧作業の概要を紹介する。

### (2) 被害の原因

神永良部島は離島という条件下、交通機関の途絶頻繁で電気通信への依存度が高い。公社の通信施設は神永良部報話局(C1局),徳之島報話局、神永良部施設駐在(C460×2, AR3×6)及び名瀬統制無線中継所知名分室があり、これらによって電気通信サービスを提供している。

今回の神永良部台風では屋根のトタン板がはがれ、それがケーブルを損傷しケーブルに引っかかり電柱の折損、倒壊傾斜をおこし、屋外ゴム線を切断した。また家屋の倒壊による、屋外、屋内ゴム線切断、電話機の冠水等で局外設備の90%以上が被害を受けた。

以下特異なものを例記する。

- (1) 現地職員の家屋等の被害がひどく、また交通もしゃ断されていたため初期の稼動が充分でなく設備被害の状況把握は困難をきわめた。
- (2) 家屋の飛来物の飛びやすい場所や道路沿いに電柱の倒壊傾斜が多く発生した。
- (3) 家屋の密集地帯においてトタン等によるケーブルの損傷が多かった。
- (4) 架空スタルペスケーブルは紙絶縁のため外被の損傷により全心線が障害となった。
- (5) 接続端子函の蓋が飛散し絶縁不良の障害が多発し、また塩水により心線が腐蝕し再発障害 の原因となった。
- (6) 長期間断水(6日間)したため予備エンシンの冷却用地下水槽の温度が上昇し冷却水確保 に苦慮した。
- (7) 天候不良のため船が接岸できず復旧資材及び工事用車輛の荷揚げに長期間を要した。
- (8) 停電や断水が1週間近くも続いたため飲料水、食事の確保等に苦慮した。

### (3) 熱帯性低気圧との戦い

沖永良部台風通過後も次々に発生した熱帯性低気圧のため、9月10日から荷積みされた 定期船は沖永良部島の和泊・知名・伊延各港に人と軽い荷物だけは荷揚げできたが、車輛、 資材等は荷揚げできず沖繩へ行き、帰路又荷揚げができず素通りという有様で鹿児島で他の 貨物船に積み替えて送り込んだ。

しかしそれも成功せず途中の名瀬港で漁船に積み替えるなどいろいろな輸送方法を試みたが荷揚げができず3日後にようやく航空自衛隊の協力を得て輸送機により工事用車輛10台を送り込むことができた。このようにして9月20日になってようやく当初予定の40台を送り込むことができた。

### (4) 汗とほこりにまみれて足で稼ぐ

9月10日の夜明けと共に鹿児島通信部、徳之島報話局、沖永良部報話局に対策本部が設置された。

応援者は航空便の第1次調査隊を皮切りに、海、空から続々と駆けつけ現地対策本部長の 指揮で調査班をはじめ工事班、広報班、設営班、資材班、運用班、またこれら広援者の食事 を確保するための共通班がそれぞれ指示された持場へ向かった。

9月とは言え南の島は、30°の暑さの中、時折来襲するスコールに悩まされながら車輛も 少なく足のみを頼りに汗とほこりにまみれながらも、屋外ゴム線、市販の復旧資材等を使用 し、9月14日まで特設公衆電話21個を開通した。

また重要加入者77加入も9月16日までに回復させた。

車輛、資材等の完全荷上げが終った9月20日から本格的な復旧作業が開始された。

停電、断水が続くなかで災害復旧要員のため沖永良部島報話局職員の家族を含めた共通班による水の確保・炊き出し、洗濯等献身的な働きは復旧要員の志気を大いに高揚した。

### (5) これからの台風との戦い

80年ぶりの沖永良部台風被害を経験してこれらの離島における台風対策について下記の 検討事項及び対策が考えられる。

- (1) 直線路は殆んど倒壊傾斜がひどかったので、支線、支柱の取付けなどの補強を行う。
- (2) 架空ケーブルの条数統合を行う。
- (3) 市内CCP-СSケーブル化の検討を行う。
- (4) 架空のスタルペスケーブル (き線ケーブル)区間の地下化を推進する。
- (5) 接続端子函にはCCP続接端子函用バンド(強風によるCCP接続端子函のふた飛び防止のため九州にて仕様化したもの)を取付ける。
- (6) エンシン冷却方法の改善又は自家用水道(井戸)の設備を行う。
- (7) 可搬形交換局についても携帯発々の固定配備と格納庫を設置する必要がある。
- (8) 緊急派遣の場合定期航空便の利用は困難であり、チャーター機等の利用が必要である。
- (9) 資材輸送は大型貨客船よりも小型貨物船が接岸できる可能性が高いので輸送方法の検討を行う。
- (10) 災害用予備資材の見直しを行う。

応急復旧は 10月13日に完了したが被害の実態が予想以上に大きく塩水による腐蝕断線障害 発生の恐れもあり早急に本復旧に取り組むことにした。

線路設備については52年10月31日から53年8月31日の工期で着工した。

また宅内設備,構内交換設備については52年12月9日から53年7月8日までの工期で 着工した。

### (6) おわりに

電気通信設備の被害に対しては九州電気通信局をはじめとして各級機関における防災演習の成果と各部門が一致協力して復旧活動を行った結果、停電、断水、更に離島という悪条件を克服して短期間に応急復旧工事を完了することができた。

### 3 日本專売公社鹿児島地方局

大島 営業所 を通じて 9 月 1 2 日、沖永良部島等の被災者及び救援活動従事者に対してたばこと 塩を贈呈した。

数量等については次表のとおり。

被災者等への贈呈数量

I.	たば、	こ ( ヺ	ニュリー	- )			•				Ć	昭和	I 5 2	· 年	9 )	] 1 2 日午前	ij 8 ₽	寺現	在)			
X			分	和	泊	训	知	名	IJ	乒	論	HJ	天	城	MŢ	徳之島町	伊	仙	町	ű	ŀ	
(被) 全	災世帯	)	廮		4 6	個 9		3 7	個 2		2	個 2		1	個 2	個 4		1	個 2	1, 1	9	個 1
半			壞	,	7 2	9	(	3 9	3		8	2		4	6	3 4		1	8	1, 6	0	2
(救 營	優活動? 察	従事者 関	6等 ) 係		2	8			0			5			4	_			4			l
消	防	í	团		7	0	2	2 2	0			3		3	0	0		2	0	3	4	3
自	御	Ī	隊		7	0		7	0			0			0	. 0			0	l	4	0
HJ	役	ų.	場		2 (	0 (		1 7	5		2	7	ı	l	0	2 0		l 3	0	6	6	2
Œ	力	숲	社			0		1 3	7		l	8			0	2 2			0	l	7	7
報	道	関	係		1	0			0			0			0	0			0		1	0
	F-1	†		1,	5 7	6	1, 1	9 6	7		1 5	5 7	2	2 0	2	8 0		1 8	4	4, 1	6	6

### 2. 食塩(1Kg入)

区	分	和泊町	知名町	与 論 町	天城町	徳之島町	伊仙町	計
全	櫰	個 469	個 672	個 2 2	個 1 2	個 4	個 1 2	個 1,191
半	瓌	729	693	8 2	4 6	3 4	18	1,602
āt		1,198	1, 3 6 5	104	5 8	3 8	3 0	2,7 9 3

### 4 九州電力株式会社鹿児島支店

### (1) 被害状况

9月9日夕方から台風の影響を受け始め、与論島が送電不能となったのが21時15分、 その後、次第に風が強くなり、奄美大島本島を除く大島地方全島が停電した。

奄美本島においても、9月10日午前5時には約45%の配電率となった。

で美営業所管内約58,700戸の中で、47,400戸が停電し、配電率20%に低下した。 なかでも、沖永良部島の被害が最も大きく強風により電柱は倒壊傾斜し、電線は各所で寸 断された。

これにより、当社の業務用社宅、配電、内燃力送電などの各設備はかなりの被害を受け、 その額は配電の1億4千万円をはじめ総額2億2千万円にものぼった。

鹿児島支店奄美営業所管内の設備諸元は別表 -1のとおりである。

また、各設備の被害は次のとおりである。

植類	TL		柱	変圧器	開閉器	断·混線	引込線
島名	折 損	転 倒	傾斜	发生品	96 37 fat	101	71 22 44
L 28 C	本	本	本	台	台	か所	か所
与 論 岛	1 5	15	125	0	0	150	1,000
沖永良部島	2 2 2	6 1	3 3 5	5.5	3	986	4,610
徳之品	1 1	2 5	7 6	3	0	250	400
与 路 岛	0	0	0	0	0	6	0
うけ島	0	0	0	0	0	3	0
古仁屋	0	10	2 5	2	0	5 0	320
奄美本島	5	12	2 0	. 5	0	150	700
喜 界 島	0	0	2	2	0	1 0	100
計	253	123	583	6 7	3	1,605	7.180

### (2) 復旧状況

鹿児島支店では、9月10日8時40分に台風第9号奄美営業所復旧工事対策本部(本部長は奄美営業所長)を設置し、被災状況の把握と応急復旧活動を開始したが、9月11日17時にはこれを解散した。11日になって、神永良部営業所管内以外の全地域の復旧は完了した。

12日以降は、沖永良部営業所復旧工事対策本部を設置し、全力を投入して沖永良部島・ 与論島の復旧に努めた。

特に被害の大きかった配電線の復旧作業は、各支店協力のもとに11日に第1陣(15組76名)、12日に第2陣(10組51名)の応援作業班を現地に送り込んだが、時化のため作業員のみの上陸となり、作業用車輛の債降ろしが困難となった。

このため、現地対策本部・鹿児島支店・県災害対策本部の懸命な打ち合せの末、今回は異

例の空輸手段をとり、航空自衛隊機により輸送した。

輸送は、C-1ジェット輸送機により、9月13日16時徳之島~沖永良部間を皮切りに延 へ10回にわたり車輛16台を輸送し現地復旧作業もいっそうピッチを増した。

昼夜にわたる復旧作業は、現地営業所員家族の献身的な支援を受け着々と進行、13日には 与論島が、また19日には沖永良部島が全線送電され島民待望の灯がもどった。沖永良部島民 への供給水はほとんどがポンプアップ水道に頼っているため、沖永良部島については、まず水 源地への送電を14日に確保し、知名・和泊地区から逐次復旧に取り組んだ。

なお、今回特に問題となった輸送に関するフロー図(別表-2). 奄美地方の停電及び復旧 状況(別表-3),対策要員・使用車両数(別表-4)は次表のとおりである。

# (別表一1) 奄美営業所 諸元

島	区分	営業所管轄	要 負	発電所 (可能出力)	52/3 需要口数		52/ <sub>8</sub> 支 持 物 (基)		52/8 高 E 回線数	島 価 程 (Km²)	行政区域
本	島	直 辖	2 5	名韻PS 15.000kW 名顏第2 8.000kW	27,802	25.271	9,835	1,8 5 6	12	377.23	名大住竜笠和州郷利町町
		古 仁 屋(営)	5	名音川 P S 6 5 kW 古仁屋 P S 4,6 0 0 kW 新住用川 P S 2,5 0 0 kW	6,343 (加) 1,278	7,960	2,6 1 9 (加) 1,1 2 6	3 6 0 6 5	3	3 4 1.5 2 (加) 77.1 5	瀬戸内町 宇 検 村
Æ	之 島	徳之島 (営)	7	平土舒PS 2,00 0kW 龟津PS 7.50 0kW	1 3,3 9 2	1 2,5 3 3	7,057	920	6	2 48.1 1	天 城 町 徳之島町 伊 伯 町
神	永良 郡 島	沖永良部 (営)	5	知名PS 4.10 0kW 新知名PS 1,10 0kW	6.602	6.123	4,0 5 1	477	7 3	9 4.5 4	和泊町知名町
喜	界品	奄 美 直 轄	発電所員 ( 2	喜界PS 2,2 8 0 kW 新喜界PS 1,1 0 0 kW	4,590	4,3 5 7	1,7 1 8	295	4	5 5.7 1	喜界町

与	論	島	沖永良部(営)	(発電所員 ( 2	与論 P S 新与論	1,9 8 0 KW.	2,2 9 4	2,1 2 0	1,8 7 9	2 20	2	2 0.8 2	与 論 町
in the state of th		島	古仁屋(営)	委 託 (NDS) 2	池地PS	8 OKW.	195	194	8 7	9	1	1 3.7 0	朝戸内町 の一部
与	路	島	古仁屋(営)	委 託 (NDS) 2	与路P S	5 4 KW	144	142	40	6	1	9.4 3	意戸内町 の一部
	計			5 0	可能出力 水力 内燃力 計	2, 6 8 5 KW 4 8,8 4 4 KW 5 1,5 2 9 KW	6 2,6 4 0	5 8,7 0 0	2 8,4 1 2	3,9 3 8	3 2	1,238.21	與児島県 大 島 郡

区分	車	M		要	<b></b>
日時	海 上 輸	送	空輸	船	飛行機
2:00 4:00 6:00 8:00 10:00 14:00 14:00 16:00 18:00 20:00	・ 鹿児島 (工作車12) イ			76人 鹿児島 ク イ 1	1人 鹿児 名類 1人 2人 沖永
2:00 4:00 6:00 8:00 10:00 12:00 14:00 16:00 18:00 20:00 22:00	ン l			ン 1 61人下船 15人下船 5 15人下船 41人 2 41人 2 41人 2 41人 2 41人 2 41 41 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	
2:00 4:00 6:00 8:00 10:00 12:00 14:00 16:00 18:00 20:00 22:00	本組 (強性率1)	作車2)積込み 柱車1)積込み 之島 作車7台	【C−1輸送 ↓ C−1輸送 ↓ 16:30着 (工作車2台) 沖永良部	ドあまみ 12人 名瀬 乗船	4人鹿男
2:00 4:00 6:00 8:00 10:00 14:00 14:00 16:00 18:00 20:00	建柱 年 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	第1隆山丸(佐々木海運一〇〇〇t)	【 C─1輸送機 (工作車3台) 沖永良部		
2:00 4:00 6:00 8:00 10:00 12:00 14:00 16:00 18:00 20:00	•	沖永良部 建柱車1 工作車7 第11 ミカサ丸	C-1輸送機 工作車9台 ジープ1台 軽 四1台 神永良部		42000AFF TO THE TOTAL THE TOTAL TO THE TOTAL

(別表 - 3 ) 台風 9 号 奄美群島停電 · 被害状況

	区分	需要家数	回線	初停	促	段	悪 畴		完全	送 電
品名		(戸)	数		戸 数	時 刻	停電戸数	配電率	月 日	時 剡
	- 奄美	25.271		9/9 24 H00 M	10,000	9/10 5H00 ( 8H00	14,000	4 4.6 (%)	9/11	11H
本島	古仁屋	7,9 6 0	3	9/9 24H00M	8,0 0 0	9/9 24H00 5 9/10 5H00	7,960	0 (%)	9/11	17H
徳	之 品	1 2,5 3 3	6	9/9 21H35M		9/9 21H35M 5/10 5H00M	12,533	0	9/11	17H
沖永.	良部島	6,123	3	9/9 21H45M	1	9/9 21H45M 5 9/12 20H00M	6,123	0	9/19	20H
咨!	界島	4,357	4	9/9 24H00M	1,000	9/10 5H00M	4,3 5 7	0	9/10	14 H
与《	論 島	2,1 2 0	2	9/9 21H15M	i	9/9 21H15M 5 9/11 8H00M		0	9/13	20 H
ři.	£;	194	1	9/10 0H10M	194	9/10 0H10M 5/10 5H00M	194	0	9/10	7 H
5	路 島	142	1	9/9 22H45M	142(全 停)	9/9 22H45M 5 9/10 8H00M	142	0	9/10	10H
合	計	5 8,7 0 0	3 2				47,429	19.2%	9/19 20	H00M

(別表-4) 台風9号災害対策要員・車輛稼動表

ſ	所別				要 員				( )	)						車	輛		(台)	
	\	יניע וי	沖永	身部	———— 与			奄美その他		計		神永良部		与 論		奄美その他			計	
	月(	=	W 🗖		.V	延要員	٧/ C	延要員	м п		1//	-	延台数	当台	日数	延台 数	当 日	延台数	当 日 数	延台数
ŀ	9/10	<u>(</u> 土)	安 貝 20	2 0	文 月 16	16	92	9 2	128	128	14	8	8		8	8	2 2	2 2	38	3 8
	11	(日)	23	4 3	16	3 2	8 6	178	125	253		10	18		8	16	19	41	3 7	7 5
	. 12	(月)	89	132	33	6.5	8 6	264	208	461	2	24	42		8	2 4	19	60	51	126
	13	(火)	147	279	2 5	9 0	_	264	172	633	,	3 2	74		5	2 9		6.0	37	163
	14	(水)	147	426	27	117	, _	264	174	807		38	112		6	3 5	_	60	44	207
	15	(木)	146	572	20	137	<u></u>	264	166	973		5 4	166		4	3 9		60	58	265
	16	(金)	148	720	21	158		2 6 4	169	1,1 4 2		5 4	220		4	43	_	60	5 8	323
	17	(土)	163	883	21	179	_	264	184	1,326		53	273		l	44		60	54	377
	18	(日)	163	1,046	_	179		264	163	1,4 8 9		32	305		-	44		6 0	3 2	
	19	(月)	157	1,2 0 3	-	179		264	157	1,646		4 2	347			44	_	60	4 2	
	20	(火)	157	1,3 6 0		179	_	264	157	1,803		42	389		-	44		60	4 2	
	21	(水)	122	1,482		179		264	122	1,925	ľ	29	418			44	_	60	2 9	
	22	(木)	117	1,5 9 9	-	179	_	264	117	2,042		29	447		_	44	_	6 0	2 9	551
	23	(金)			_	-			_			_			_	_				

(注) 9月20日以降分は,災害復旧工事の残整理に要する稼動予定数

### 第6 県からの要望

### 1 概 要

県では、台風通過後の9月12日08:30からの庁議の決定に基づき同日19:30まで に要望をとりまとめ直ちに徹夜で印刷した。

翌13日には災対本部長(知事)自ら上京し関係各省庁に対して要望を行なった。

また、台風情報の遅れが被害を大きくする一因となったことから、観測網の充実についての要望も行なった。特に名頗測候所の気象台昇格についての要望、陳情は地元町村議会をはじめ として各方面からはたらきかけがあった。

### 2 要望の内容

(1) 昭和52年9月上旬台風第9号による被害に関する要望(各省庁あて)

本県, 奄美群島地方は, 9月9日, 大型の強い台風第9号のため, 大きな被害を受け, なかでも沖永良部島・与論島・徳之島の三島については激甚な災害を被りました。

今回の台風は、昨年9月中旬の台風第17号の規模をはるかに上回る強烈なものであり、 最大瞬間風速も沖永良部測候所で東北東の風60.4メートルを記録し、さらに鹿児島県大島 支庁沖永良部土木出張所では65メートルを記録したうえ、風速計の針が振り切れるなど猛 烈な風が吹き荒れました。

このため、奄美群島では、暴風雨や激浪のため、住家 4,6 0 0戸、非住家 1,2 0 0戸が全 半壊したのをはじめ、農作物・公共施設等に基大な災害が発生しました。

特に、住家に対する被害は大きく、沖永良部島においては全島 5.3 10 世帯の約7 5 パーセントにあたる約4.0 00 戸が破壊される等壊滅的な大災害をうけており、住民生活に極めて深刻な影響をもたらしております。

また、この地方の特産物であるさとうきびが昨年に引き続ききわめて大きな打撃を受けております。県といたしましても、関係各機関の御協力を得て復旧に最善の努力を傾注しておりますが、国におかれましてもこの実情を十分御賢察いただき、次の諸事項につきまして格別の御配慮を賜りますよう要望申し上げます。

各省共通関係

### ア 激基法の適用について

台風第9号により、住宅をはじめ農作物・公共土木施設等の災害は極めて甚大であるので、この災害について「激甚災害に対処するための特別の財政援助等に関する法律」を適用されるよう特別の御配慮をお願いする。

### イ 災害復旧に係る事務の促進について

今回の災害に係る公共土木施設等の災害査定,被災者に対する各種貸付金の融資決定等についてすみやかに対応されるようお願いする。

厚生省関係

- ア 災害救助法による救助の特別基準の承認について
  - ① 台風第9号による被災地は,低所得世帯が多く,応急仮設住宅の設置,住宅の応急修理の対象戸数について一般基準では対応できないので,特別基準の承認について御配慮をお願いする。
  - ② 被災地が離島であり、応急仮設住宅の資材等の輸送費についての特別基準の承認について御配慮をお願いする。
- 1 世帯更生資金及び母子福祉資金の貸付原資の増額について

台風第9号による被災者のうち、低所得世帯等に対し、世帯更生資金及び母子福祉資金の 貸付けを必要とするので、これに要する貸付原資の増額措置について御配慮をお願いする。

農林省関係

ア 自作農維持資金の災害枠の確保及び貸付限度引き上げについて

被害農家の経営維持安定に必要な災害資金枠の確保をはかることとともに,現行の貸付限 野額を大幅に引き上げることをお願いする。

- イ 主務大臣指定施設災害復旧資金の融資枠の確保及び貸付限度額の引き上げについて 農舎・畜舎・農作物育成管理施設等の施設災害が甚大であるので、主務大臣指定災害復旧 資金の資金枠を確保するとともに、現行貸付限度額を大幅に引き上げることをお願いする。
- ウ 葉たばこ災害補償金の早期支払い(専売公社への要望)について

現在貯蔵中の葉たばこの被害が甚大であるので、災害補償金の早期支払いをお顧いする。

エ さとうきび共済制度の早期実施について

さとうきび共済事業については、現在、試験実施中であるが、この制度化をすみやかには かられることをお願いする。

オ 災害査定の早期実施と災害復旧工事の促進について

農地及び農業施設の被害が大きいので、早急に災害査定を実施して、早期完成がはかられるよう、工事進ちょくの一層の促進をはかることをお願いする。

カ 公共土木施設(漁港)災害査定の早期実施について

漁港は、島民生活の安定上速やかに施設の復旧を図る必要があるので、国の災害査定の早期実施をお願いする。

キ 現年発生災害復旧事業予算枠の拡大について

災害復旧については、初年度において特段の事業進捗を確保できるようお願いする。

通商産業省関係

ア 激基法の適用について

設備近代化資金等の償還期限の延長,政府関係中小企業金融8機関の低利災害融資等の特別措置を早急に適用されるようお願いする。

イ 政府系資金災害融資特別枠の確保について

破災中小企業者の早期復旧を図るため、政府関係中小企業金融3機関の低利災害融資の枠 を確保されるようお願いする。 ゥ 融資手続きの商素化について

政府系 金融代理店の窓口において,迅速に対応できるようお願いする。

建設省関係

ア 激基法の適用について

災害公営住宅建設事業及び住宅金融公庫災害復興住宅貸付け事業について,激甚法を適 用されるようお願いする。

イ・住宅金融公庫災害復興住宅貸付けについて

標準建設費等の基準の弾力的な運用を図られるようお願いする。

自治省関係

### ア 財政措置について

- ① 被災地方公共団体が負担する応急災害対策費,災害復旧事業費その他に対する地方債の許可及び特別交付税の配分について特別の御配慮をお願いする。
- ② 上記災害対策等に要する資金需要が多額にのぼるので、普通交付税の繰り上げ交付について特別の御配慮をお願いする。
- (2) 要望書 (福岡管区気象台長あて)

本県における気象の予響報の通報及び気象観測結果に基づく資料の提供等につきましては、 かねてから格別の御髙配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、今回本県沖永良部島を襲った台風第9号(沖永良部台風)は、台風観測史上において 最低の気圧を記録し、また最大瞬間風速も60メートルを越え観測機器の破壊のため測定も不 能になるなど猛烈を極めたものでありました。

このため住民は住家をはじめ農作物に甚大な被害を受け、また公共施設等にも大きな損害を 彼り、今更ながら台風の脅威と威力を痛感させられたところであります。

台風の観測とこれに基づく進路予測の情報は、災害を未然に防止するためには欠くことので きないものであり、それだけに住民の関心も高いことは御賢察いただけることと存じます。

今回の台風第9号の場合発表された情報と現地の気象状況とにかなりの差異があり、地元では予想外の急速な接近にとまどった旨強く訴えて参っております。

また、このことにつきましては本県9月定例県議会におきましても同趣旨の論議があり、9月22日づけで気象情報の的確なは握等について意見書の提出がなされたところであります。 つきましては、このような事態が再度発生しないようにするため、下記の諸点につきまして早急に実現していただきますようお願い申し上げます。

記

- 1 本県離島 (特に名瀬,沖永良部)における観測網の整備充実をすみやかに図ること。
- 2 視測の精度向上並びに台風情報の回数の増加と迅速な発表に努めること。
- 8 台風情報の内容,表現についてはそれぞれの離島で的確に台風の実情が受けとめられるよう格別の配慮を行うこと。

昭和52年9月80日

鹿児島県知事 鎌田 要人

### (3) 上水道施設の緊急時自家発電施設の整備について

環 第 348 号 昭和52年10月3日

厚生大臣 渡 辺 美智雄 殿 国土庁長官 田 沢 吉 郎 殿

鹿児島県知事

鎌田要人

去る9月9日第9号台風(沖永良部台風)により甚大な被害を受けた沖永良部地域の災害復旧対策について、さきに鹿児島県知事から「昭和52年9月上旬台風第9号による被害に関する要望」として要望いたしたところでありますが、さらに緊急時における自家発電機の設置について追加要望申し上げます。

申すまでもなく、水道施設は給水の万全を期すため、不測の事態に対処して主要施設には予備施設を設置することは当然の措置でありますが、当地区の水道施設はいずれも奄美群島振興 事業の中で設置した簡易水道を統合した施設であり、離島という特殊性による財政事情等から 一部を除き自家発電機を設置していなかったのであります。

しかしながら、今般の台風は風速 6 5 メートル以上と想像に絶する大型のものであり、島内の送電施設は壊滅的な被害を受け、離島のためその復旧工事に時日を要し、その間断水のやむなきに至ったのであります。

両町においては、今後の対策として掲水施設の予備動力として、水源地にそれぞれ自家発電 機を設置する計画でありますが、両町の弱体な財政事情に加え、今般の台風による公共施設の 復旧に莫大な経費を必要としていること等の事情を御賢察され、この設置についてとくに簡易 水道施設の新設事業に準じた財政措置を講じていただきますようお願いします。

なお、併せて両町の水道施設と同様な条件で設置された与論町上水道につきましてもよろし く御配慮願います。

(4) 名瀬測候所の「地方気象台昇格」に関する意見書

奄美群島は台風常襲地帯であり、毎年台風災害の危険にさらされ、島民は迅速、的確な気象情報の提供を熱望しているところであるが、現在の名瀬測候所の観測体制では的確な気象情報の把握及びその伝達が困難な状況である。特に、本年9月9日襲来した台風第9号(神永良部台風)は未曾有の強烈な台風であり、沖永良部島周辺地域に 壊滅的な 災害をもたらしたが、気象情報の的確な把握と伝達が遅れたことも被害を大きくした原因となっている。

よって、国におかれては名瀬測候所を「地方気象合」に昇格のうえ、気象観測体制を早急に 充実されるよう強く要望する。

以上、地方自治法第99条第2項の規定により意見書を提出する。

昭和52年12月17日

鹿児島県議会議長 小里貞利

 内閣総里大臣

 大歳
 大臣

 避輸大臣

上記のとおり発議する。

昭和52年12月17日

鹿児島県議会議員	坂	下		厳
"	[1]	元	丈	久
"	泉		傗	裔
"	厚	地		墾
"	Ш	上	哲	夫
"	瓜	窪	和	志
"	福	刣	亦二	一夫
"	Æ		隆	男
"	坂	井	迅	绀
"	彻	蔨	徳	Ξ
"	米	丸 .	芳	男

# 第七 冲永良部台風作文集砂

戦った。 永良 一部島 内の児童 生徒達は父や母とともに自分達の家を守り、 命を守るために台風と

これは、 ら見た台風災害とそ 知 名 • 和泊 この教訓が綴ら... ō の児童・生徒達の作文集の中か ħ τ 63 る。 ら選 W だもの であ ŋ 逩

# 沖永良部台風

和泊町立内城小学校六年 久 保 真由美

んの なうちに来る 家に行った。 月 う」と言っ 日 て行くようだ。母が「きょうは電気が、消えるかも知れないので早く、ごはん 夜七時ごろわたしたちは、 ように」と呼びに来た。わ た。夕食の途中でとなりのおばさんが来て「今度の台風は歯 家でテレビを見て たしたちは夕食をすませると、すぐとなりの い た。 外では、 風の音が そうだ。み だんだん お ば W E đ

た消 テレビを見ている Â. た。 そのうちに、 Ě わ 急に電気 たしはねむくなったので、おもてでふとんをしいてねた。 が消え た。 まっ暗で す。何分か して うい た と思っ た 5

ったが、 ている。 しょ などが げん関前の自転車やオートバイは、たおれていた。テラスのトタンもみんなはがれ、木の枝にげられるように準備していた。そのうちに、急に風も雨もやんだので、みんな外に出た。 こわくてたまらない。自分の家のことも心配だった。もうふやふとんをかぶって、い になってしまうので、みんなでぬれない所に運んだ。 され、そこに **車を照らして** という音と同時に、家がギシギシゆれる。今にも家もろとも吹きさらわれるのではな 何時間かして起こされた。回りは水びたしだった。風もゴーゴーと、すごい音 とばさ 今度は、みんよト れにな たくさんちらばって めち た。わたし 雨が、ザーザ てい 2 φ あったはた織機とベットは、位置が変わり、やがて織りじまいのつむぎも いたが、そこらはもうさんたんたる状態である。二階の屋根 てい めちゃ . な た。 は かった。よかっ になっ ーグラに行った。あいかわらず風も雨もすごく吹き荒れている。 <u>ک</u> ا 風の力はすごいなあと思った。おじさんは、車のライ 自分の家が心配だったので、電燈をつけて家に行っ ķ١ って雨も てい た。 倉庫にビニールカバー た。そのため、箱づめの百合の種はそこら たなあ。と思った。 りがひどい。そのままでは、たたみもふと ŀ をかけ 1 · グラは、 て、ド 雨もりし ラムか は、 していなか た。 ķ١ W っ ん ۲ でおさえ をつ たい g \$ 幸 で ずぶ ķ. 7 吹き に散ら つでも が飛 į, 屋 けて っ かと びっ てあ 荒 根 た ば 0)

急に、 たしは、すごくこわかった。「屋 して グラ っ いるう ー ガ*ッ* ちに、 シャ きな音を立てて を聞いてい 急に返しの風が強くなって来たので、 ソーとい いた。お う大 た。風は、ものすごいうな きな音がした 根が吹き飛ばされたらどうなるんだろう」と思った。 じさんが、「もう屋根も飛ばされるぞ」と言っ の で、 みんなすぐ走って、 みりないているかなあわて た。 て家の 屋根 おもて の方 ò

ちぢこまっ が弱まった頃、わたしは、 ていた。風はますます強くなって、家のふるえ さんの へやが雨もりが もうねていた。 少な かったので、 क्र じい が大 さん きくな のへやでふとんを つ た。 何 時 閰 かぶっ か た っ ττ

ねえさ けら うが で急い さんの家は、屋根はだいじょうぶだったけど、 起きて見ると、 食器のかけらですごかっ あ わ んと、他の家を見て回っ で家に行ってみると、 Ź たし達の島は ちこちにころがってい の台風のこと をして お か もう風は静まっていた。 なく は決して忘れな よく台風が来 τ は た。 た。部落で被害を受けなか た。そこらへんは、 ならない 家の半分ぐらい屋根 ゆ 6, **小るか** かは水びたしで、 と考えたo そしてこれ 今度の 母が「屋根 台所 ト タ よう **の**ト から ノンや木の な台風 カュ ø のガラスまどがわれて、 0) ンが った家は、 たづけるのはた は、 ŀ 7 は生まれて初めてだ。 な 台風が来る 枝で通る道さえなか か つ た。 たった二、三け W で < 前 いへんだ。 Ę -5 ばこも しっ ガラスのか 花代美 んぐら った。 わたし なくて ŋ

## 台風九号について

和泊町立大城小学校 六年 伊地知 芳 弘

るほ 2 じどだっ 月九 りで、 台風九号、 空も真青、 風 命名沖永良部台風が沖永良部島を直撃 -) 無 < Ļ١ つ ŧ の真夏 の天 気で、 道 を歩いて した。 その目 Ļ١ る だけで は、 朝 Ð から 开 η, カ 出

被害が大きかったのはそれらのせいもあると思う。 な準備をしてなかった。それに、天気予報でもあまりはっきりしたことが のせいか、 して台 風 は沖永良部をそれるだろうと、 台 風にた わから L) し なて かか つ ん た。 3

天気がくずれ始めたのは、午後五時ごろだった。 六時半ごろには、 とうとう電気まで消えてしまった。 ものすごい豪雨になった。 今まで真青だった空が急にどん そして雨はだんだんひどくなり ょ Ł りく 時

こされた。 い光燈がゆかに落ち ることがないのでねむっていた。ところが十時半ごろ、ガチャンと言う音とともにたたき起 は、電気が消え (なんだろう今の音は)そう思いながら飛び起きると、 τ われた音だった。 τ р 1 ソクの光で家の中を照らし、 ラジオを聞 家がものすごくゆ いて Ļ١ たが 何 れ ŧ

危険だ、 かない。 風がだんだん強く 一階へひ 危険だ 'n なん Þ £. なって来て、 をえ しよう」といった。 ず父のさしずにし またどこかのけい光燈がガチャンとわ しかし、 たが かい、一人ずつこし、一階へ行くには外の Ó お りた。 階段を使っ れた。 父が それこそ て行く

は背すじ ばくが をお 前を飛 り続け がひやっとし 'n か た。 2 Ź たかと思うと、となりの家の雨戸に 5 τ, れながら階段をおりているときト そ の ままそこにう ず < ま ŋ た < 「ドカン」とぶつかった。そのとき タンの なっ たが、勇気 ような物 がぼくの二、 を 出 し ζ 三メー ま た、

えて くが一階につい た。 そ の日 たときには、 はそ の まま、 家族五人で家の から下 までび っ す し £ J, にか り ぬ たまり れ てい あって、 τ こわさの — 夜 をあ ために か 足が した。

板朗 れ ス ばされたとないている。 D 破片 くが などが道いっぱいに広 ۲ 出て見ると、 電柱が何本もたおれ、 ħ. ŋ 軭 の よう な重い 電線がた ŧ 0 も飛 れ下が ば され ŋ τ ŀ い た。 2

それに家が飛 が た < **₹**  $\bar{k}$ ŀ١ た。

ぼくは、この台風九号の体験や復旧作業の苦しみに教科書やノートが飛ばされて、ないと言っている人 しいことにもたえ、 台風にまけ な 65 強い 子になろうと思い たえたことを、こ ます。 か 6 J) 自 信 に L ₹

#### 台 九

泊 屼 ₩. 和 泊 小 学 校 六 Æ Ш 万

ようとして ĸ 父も母も鹿児島に行っていてい 永良部に来ることは、テレビを見 な 41 て知っ τ ķ١ た。 こう いう 台岛 が

とうとう台風が来た。その夜、ゴ ーゴーとものすごい音 ロの風が S ٧١

た。 まもなく早く兄達のいる部屋に行った。行く時また板ぎれが飛んできて弟の頭のそ とわれたから、私は、びっくりして飛び起きた。ガラスが飛んでくるので私 ないうちに、 あるのでシャ のうしろについて行った。 ッ つとむおじさんやあや子おばさん壼は、こわくてねむれないといっ 弟は、飛び起きフトンを頭にかぶって私 の上にすわっていた。私と姉と弟は、 (時ごろ、急に風が強くなった。二階には、雨戸が お 私達三人がねていた所に、棒が飛んできた。急に窓ガラスが「ピシ ばあさんが「もっと下に下がってねなさい」といって、 ッター をしめて、家の窓という窓は、 ねむくなったので私達三人がねて何分た の所へき みんなカギをし た。 姉は、 ない。 払の £. 私が下がっ は て、 前に めた。足や フ シ 起き は、 ť てい ンを ッ 弟を起こす ピシパリン」 て五分も ばあ Ţ τ 2 ばに落ち た 私 か τ Ż ->

勉強部屋に行きなさい」といったので、私達は、いそいで勉強部屋に行った。すると、ふろ場 ラ つとむおじさんは、顔は、 1 スを外に飛ばす 何 かがあ たってわれた。店のシャッ 、ようにした。おばあさんが「この部屋にいるとガラスをふい、顔は、まっかになりながら窓ガラスがわれた方の反対側 タ | のついて な かっ た窓は、 Ľ I ル箱があ んだりするから の窓を たっ あけ τ τ

τ

た。

ぐら わるいといったので、 私達 一時間ぐらいして、 は、足をけがしていた。 はみん たって、ふき返しがきた。 の金庫 おばあさんと兄は、四じょう半の部屋でねた。私達は、金庫 台風の目にはいった。おちついてみると、弟は手、私とあや子おば に行ってそこで風 台風 の目にはいっ ₹ \$> たときに手あて ts のをまっ τ た。 をした。 そしたら、 するとまた、 兄が i はい 分 っが

ちゃ は、 早く台風は、通り過ぎな ない ちゃ ように、 もいればいい 二階でくぎをうっている。 のにな ٧¥ 0 か あ」といった。 なあと思っ た。 すると弟が、 つとむおじさんは、 「こんなときに、 ķ١ つ しょ う とう けん

り過ぎてから、 てふきとって、ガラス で にふ 台所などを見たら、あまもりで水 きと 2 た。 かけらなどは弟が もう 'n うと ひろった。 てい たら、 びたしだ。 ねるところは、 治井先生や と姉と兄 清仁君 ほうきでは は たたち

部 たお ぎて、 されていた。 虚ふいた。そ か 家の様子などをおしえてもらった。 つ れか け į١ 6 さつ となりの家を見ると、木が根っこからたおされ、そ の 所 は、 台風が 今日は、 くる前まで立っ 私達の家にとまるとい τ ķ١ たとう が , , た たの お れが家 ځ であ れ ٠ ر 0 65 ع 方に て見 もう

### 沖之永良郡台風

和泊町立和泊小学校 六年 山 ロ ひさ子

てやっ れた のだなとおも 団 ガ た。 そう をか 父母 だ、 ぶっ の足は血だらけだ。 ガ てい ラスで足を切る」 たが、 いそいで部屋へいこうとしたが の シすごい 父が おうせつ間の戸をは 音が ときずく した。うっ È す ス らと、父 リッ ずしてもっ リッパをはいていてなにかにすべって の声を聞 τ ķ١ いった。 くのを見て、ガラス 43 た。 てしまった。 わた 父母にも し は、 それ は血 が わ

いっしょに三十分ぐらいおさえていただろうか。

てい う一枚おうせつ間の戸をとってきた。 は「お父さん 「ガッシャ たが おさえ 、もうにげよう」といっている。しかし、父は、そんなことは耳にも入れ 1 **ン」また、** きらず **,になん** ガラスが べんか わ れた。 父は、もう顔がまっ とばされた。 私の 部屋である。 父の所 かだ。 からは、 母と私は、 わたしと母は二人で 声 がきこえ 気が ない で Ø な で έţ さえ ず ĚC.

弟もおきてき かれておさえた。 た。 ます ます 風 は つ よまってくる。 五寸くぎでもとまらなくて二人ずつ

もとめたo だ。母に「丸 だんだん まるおじちゃ 風がおさまっ おじちゃ てき んが外 戸戸 た。 をうちつけてもらった。 ķ١ る か Ĭ らガ 」というと、母 ヤガヤ と人の声 は が聞こえてくる。 Į, s そいで戸を お しあ 丸おじちゃ け、 たす け W を 0

てきた。これは、 台風の目に入って三十分 後に聞 いたが ぐら いたっただろうか。その 車庫にも人がひなん してい 渹 Æ たそうだ。 四家族もわ た 0 E O な  $\lambda$ 

今度は、大人がたく また、風がふきはじめた。 さん いる わた から大じょうぶと信じた。 **にしは、か** えしでやられやし ないかとし W ぱ ķ ŧΞ *ኒ*. っ た

急に手足がズキンズキンいたみだした。

思うまに、すごい んして きた人 とお みると、 そして、 った。手あてが いっぱいガ 母と雨 1 酒 をの もりの おわってほっとしてい もりだ。もうせんめん フラスが んだりしている。 しないろうかに ささったり、 きっ 布団 きではうけきれない。 しきぶとん ると、上か たりし をかぶ てい つ らピチョンとしず τ . る。 より んそっ € ね τ きでガラ ķ١ くが た。 おち を重ねて下 ス た を τ ع きた。 は りくす 7 ٢ 紡

いなびかり、 バリンノズン しかし、とば やしな か ڔ ガリ ヵ リ」まるで地しんのようにゆれ され 9 ع た Ф の n は 雨戸だけだ。 動く 户、 ふわふわうく ガラスが た。 まさか、 われたのではな ような天井 と外 をみ ž ķ١ τ J, た。 *†*12 ķ١ と思っ る ځ Ŀ° カ で ッ 心 / ッ 主

W です ガ ラ ス Ø 中 で ñ れ だけ台風 と戦 63 た Â. b ٧Ŋ た

がふいてはい から」そう思 るが いな 風がおさまっ がら、みんな **、てきた。** の無事 **ずをいのっ** わたしは、もう心配はないと思ってねむっ た。 三時ごろだっただろう。 ع きどき強 61 風

ک ک 次の目、 ガラス、 ねむっていたらどうなっていたかと思うと今でもゾッとする。 おきてみてびっくりした。 くぎ、 板ぎれ、 いっぱいささっている。いつもは六じょう間でねむるわたし わたしの部屋ともう一つの六じょう間のふすま、 か は

る 人 が み ん た Ō な外へはこんだ。 か大きな柱が入っ 出る 「この家の人はよか りの家 τ ķ のほ たが、うちだけがどうもないと っ ٤ たね」といっていた。 しんどが 屋根を ことばされ その日は、 τ ķ, る。 ķ١ っ てよい うち とんできた板ぎれ、 Ó ほどだった。 池 にもどこか ť 5 ばを通 Ŗ å ン ŤΞ ž

月曜日、 ささか安心した。 学校へ行っ た。 払 一服の 人が めだっ た。 し 加 Ļ そ Ó X たち も元気そう だ つ た 0) で

わたしは、こんどのような台風は、生まれてはじめてだった。

るか 4 ら「自然の力は、こん ら、自然の力をバカにしては たいな大きな台風 は、 なに大きくて人 二度とこ いけな な ķ١ でほ 間 ķ١ ことい の力ではどうに ķ١ われたり と思う。 L もならな た。 わ *1*\_ ŧ١ しは、 ような台風 0) を作 永 ŋ

## 地上最高の台風九号

和泊町立国頭小学校 六年 長 田 留美子

九日の夕方、痴は、ものすごくあれて髝が吹き上げていた。

わたしの家から海がよく見えるのです。

母に

Ġ か 5 ١ は、 ボ 1 n 箱に -) めて、 仏だん の前 £ 饠 きなさ ķ١

と言われて、もっていった。

ゆか下の柱としばっ をくぎ付けして、トタン屋根が、 だった。 ちょうどそのころ、 てあるので、 前のひい ば 飛ばされないように、 あちゃ わたしの家で終りょう祝いをして、 W の家では、 電柱二本 ッ シや内そう で 左右 をして ℧ Ų١ から太 ばあち 終っ たか、 Þ ķ١ んは 大喜 プで 声

父は、 日 中雨 |戸にくぎ付けをしていま し た Ø で わ *f*c U も手伝 ķ١ をし 宝 た。

風は、おそろしく強く雨も降って来た。

終って家に入り、 ってもらっ ふとん にもぐっ たが、 カ タカタとあみ Ħ 'n ガ ラ ス ź 打っ て ٧N る Ţ

そして、父が入って来た時、九時四十五分ぐらいだった。

ガチャンとものすごい大きな音といっしょに風が入って来た。

ふすまやしょうじが、紙のようにヒラヒラと飛んだ。

わたしは、大声で弟やひいばあちゃんを起した。

お . さ ん は けができた。 押し入れの戸を取って始 ķ١ 風に向 *ከ* っ τ 何 回 回 rξ n

父とおじい さんの後で、 電燈で照らしながら、 母に大声 . で

. 角材もって来て。」

「くぎをもって来て。

と父の言葉を母に伝えた。

風と潮水に体を打たれて

「痛い。」

と泣きたかった。

でも、ここで負てはいられないと思 V いっ ょう け W め Ļ١ が W ば つ

しかし、次の部屋も応接間もやられてしまっ た。

もう、これでおしまいだと思った。

こんどは、 おばあさんと隆一とわたしは、 フ ス -7 で風 を妨 Ļ١ だ。 ガ ラ ス をふんだり

押さえて いる手の 力が ぬけて 41 っ た。

邸か

「みんなしっ かりが んばっ てよ。

と言った。

剪二は、 フィ マを押 してい たが、 自分が飛ばされると心配のあまり Ų3 そい

浩紀とひいばあちゃ んは、 仏だんの前で泣きながら丸くうずくまっ τ Ļ١ た。

父とおじいさんが、 くぎ付けが終わったと思ったら、 曵がやんだ。

その時、 前の人が、

「屋根が飛ばされた。

飛んで来た。

わたしの家も、 木造だったら、 今ごろと思うとこ わ か つ

二階もだめだった。

仏だんの前で、 前の家の 人も 皆い つ しょ に ねた。

でも、愚がぬれていて、なかなか皆ねつか れなかっ た。

起きて見たら、庭の木の大きな枝も折 れて、 牛小屋の屋根が飛ばされ C わと

板におさえられていた。

いばあちゃ んの家は、 柱だけ残 っ τ 61 た。 昨 À (J) きれ 41 な家は ゆ め の ようだっ

ひいばあちゃんは、泣いていた。

お正月には、九十七才のお祝を、 ž れ t i な家ですると喜こんで Ļ١ たの Ę٥

かわいそうでたまらなか つ た。

でも、おじさんが

「みんなけががなくて £ か

と言った。

ほとんどの家が 飛 ば さ n てい る とひ Ç١ ばあち Þ W £ 教 えると気がやすらい だ の か

の人皆車で来た。 水道と電気がな ķ١ の で洗 たく、 そうじが たい んで海の ゎ き水を飲み水や洗 たくに、 部落

私も母と毎日、 どろ水でよごれた、 洗 たく物を一週 訚 ぐらい ķ١ け

手から、血が出た。

足は、ガラスをふんだので傷だらけで痛い。

台風がなければこんなことには、ならなかっ これから、 どんなことが あっ ても、 台風のことを思い た の にと台風が 出すと、 £ 勇気が < < Ċ たま わ Ļ١ 、てくる。 5 なか っ

### 台風の中の私

和伯町立和泊中三年 国頭 国 村 暉 美

れて と思っている。 初 和 のめてとい 五十二年 九月 う天災が あっ 九日 この日を私は一生忘 た。私が生きている間、 れ ない だろう。 これ以上 九 一の恐ろし 十歳 ŧΞ なる老 さに会うことはない 人でも、

にあった 誰もが、 セメントが 予想しな 波で流されるのを見て喜ん かった事がおこった。午後の授業が だ。 終わっ tċ, 校 庭に 出 τ 港 を見る

に小さな台風が来そうだなあ 大瞬間風速が を押さえなが そのうち、風も出 四十五 :四十五メートルになった」とニュースが庞された。このニュースを聞いて、ら下校した。何となくラジオをつけてみると「台風九号は、次第に衰えて、風も出て来た。校庭にいると、スカートが上がるほどの風だ。片手でスカー と、その時は思った。 i 最 島

母は、 くと、横から兄が 洗濯をしていた。その母に「風 「しなくても大丈夫だよ」 が出てきたよ、 戸や窓を釘 づ け L な Ļ١ で 63 4.

「でも、ひょっとしたら・・・・・」

「大丈夫」と兄が自信たっぷりに言うの で、私は返すこと ばがな か つ た。

て来たので、 た。 も電灯も身の回りにはおいてなかった。それからが大変で、 でいる途中、電気が消えた。 夕販を食べている時、 やっと五分たった時、兄が電灯を見つけ出した。 一人ではいられなかったそうだ。夕飯すむと、私は雜誌 祖母が米た。 くなかった。それからが大変で、みんなでローソクと雷こんなに早く消えるとは誰も思っていなかったので、 母方の祖母で六十四歳の一人暮 を読んだ。雑誌 しをしてい クと電灯 た。 ㅁ を読 凰 ソ が W

朩 ッと一息ついた時に、種子島で警察官 1をして いる上の兄 7)2 5 電話 が あ つ た。

「テレビで沖繩が風 が強くなって来てるっ て言っ ているけどそっ ちはどう な

「うん、少しずつ風も出て来たみたい」

「心配ないか」

心配はしないけど、電気がつかなくて不便でね」

そ れぐら いどうも ない よ。 又あと で電話 をするから」と言って切れ た。

左右 ちに に大きく揺 タッガ から、三十 人の チャ ゴ n だした。 ⊒ 1 · 分も うに思えた。 と外で物がぶつかる音が - とうなり声をあげるような風の音、家は嵐の海にいる小舟 たつと兄と電話したのが夢のようだっ 茶り んが ゎ n る音、 聞こえだした。まるで、地嶽にいるみ テ ・レビが 倒 れる音。 た。気味が悪い も う、 そ ほどの Ø 辟 た は いな 屰 う Ų١ 気持

は、 本物の 私 で な < Ō 中 12 43 る 私 か考 Ť. 6 n な か た

今まで静かな島が、 こ ん なになるは ずが な *ډ* ۲ 静けさを保っ て来た島が、 一度に爆発した

私たちは台所に小さくうずくまっていた。 思った。 出て来た。 一つの壁が取 恐ろしかっ れる ٤ た。 兄 ただ早く朝が来てほしかった。 んがもの すごい風 Ø) 一言も誰もしゃ 中を外 に出て そしたら、 4 べ らなか か ら壁を っ た。 悪い夢がさめるかもと 打ち続けた。 私は、 自然に涙が の間、

「もうだめだ」と外にいる兄の声が聞こえた。

「外に出ろ、中にいると危い」

私たちは、カギをはずして裸足で外に出た。

てくれた。 でもいいけど、まだ若いあんたは、ばあちゃんが命をかけて守ろうと思っ から私を守るように立っていた。後で祖母に聞い 兄と母は、倒れた戸を打ち続けた。 祖母と私は、 てみたら「ばあちゃ 強い風の中を立っ てい W ΙÌ た。 たんだよ」と言っ 年寄りだからどう 祖母は、

にトタンなどのあたった跡があった。三十分近く、私を守ってくれてアリガトウ。 その時、 私は祖母にとても感謝した。祖母が守ってくれたので傷一つ な か つ た。

三日前、家の前の土地に赤土が運ばれた。 その間、兄と母は強い風の中を家を守ろうという一心で打ち続けた。 運悪く台風の来る二、

なっ そのため雨は赤土を巻き散らし、私の着けてい た。雨に は 海水が混合していた。顔がヒリ ヒリ痛くなり、 た白い上着は、 目を開くことができな 五分もたたないうちに赤く 办 っ

夫だったので、近所の人たちはそこに避難した。 のうち に風が弱く な り、私 たちは避難し た。 前 の おじさん の 7 1 7 IJ ۲ 扉が 大丈

て信じられないよ」 はいなかった。そのうち一人が 暗いのに、みんなが震えているのがわかった。 「こんな台風がくるなんて・・・・・」と、 み んな無言で、 **誰一人口** つぶやく を開こうとする人 と「今だっ

「ラジオでは、次第に衰えてきたというから安心していたのに」

**「もう**" 家は・・・・・」と、 61 つも は UP んとし たロ 潤 で話す おじさん が 生気 Ø な Ų١ 声 Ċ

濡れたままなので、母は着がえを取りに家に帰った。

また、風が強くなってきた。

「もう、 この風で家がどうもない家は、 部落に一つ二つあるか な

「明日の朝、家を見るのが恐いな」と家の心配をしていた。

消防団員の人たちが、もう大丈夫と知らせたので安心して祖母の家に行っ た。

寝た。 回りの大きな木が倒 れ かかっていた。 ガラスも敵らばっていた。 奥の部屋 で四 Ý 朝まで

てみると、後ろに傾いて 水も出な 起きて 45 みる 電気も使えな ٤ 庭に近所のトタ いた。 い生活はとても不自由だ 太陽が出た。昨夜のことが ソや板切れが っ たくさん敵らばっていた。 た。 のよう Ę 青空が 広が 私の家に行 た。

「ガラスは一番危いのよ、小さいかけらでもからだに入ると大変なことになる ガラス の破片を集めるのに、 四人で半日以上もかかった。 それでもまだ残っ のよ た。 母が

「本当に」

てみたら、うまい具合いに小さい破片も取れた。 「そうよ、 だから小さいのは脱脂綿を水に濡らして やっ たら取れ る から やっ てみて」や 5

かった。 程は、水分を含んで いて重たかった。兄は汗を流し ながら庭に運んだ。 三分の一 は 使え 1

水は、近所の親類の家のタンクから運んだ。

私と母が、水くみをすることになった。二、三回運ぶと、 手に ~7 X が で きて Ú が ĸ じ

母が「もう、疲かれたの、だらしないのね」と笑った。

「こんな仕事したことないもん」

「昔は、十五歳になったら一人前の仕事をしていたのよ」

った。 と苦笑しながら言っ た。どうして、 私がこんなことをするの かと思うと台風が l く に さわ

島の人々は、皆この電話で都会にいる人に連絡を取っ島外へ連絡できるのは無料電話だけしかなかった。 列をつくって並ん へ連絡できる んでいた。 られた。私たちは島の中心の和泊に 私たちも夜十二時過ぎま に、三つ設置され でた。

自衛隊等が来て復旧作業をしたが、まだ不便な日が続いた。

では兄がとても心配しているのがわかった。 く、ラーメン・ソバなどをたくさんもってきた。 二、三目して、 上の兄が連絡なしに帰ってきた。 。私たちは、それを見てびっく・ 1~袋がない。 く り と放送した Ļ 又反面 らし

この恐ろしい台風で、島の人たちは苦しんだ。 明日へ の希望を忘れないで行こう。 でも、 いつまでも苦し んで ば かり 4 は Ç N ff

昭和五十三年三月二十五日 和泊町企画課編集

「広報わどまり(台風九号特集」より

## 世界最大の冲永良部島台風

知名町立下平川小六年 大村 幸 ※

家を守る工夫は、ただ家の回りにカバーを張りめぐらしただけだった。 九月九日、 ぼくの家の父母は台風の心配はしないのか、 夕方おそく畑から帰って来た。 ぼくは不安だっ t.

みは、含むりここは、あまり気こけることもないので部屋の中のものを全部外へ出しておいた。

母は、台風のことは、あまり気にすることもなく

**\_\_** 

「婦人会に行かねば・・・・・。

とまで言っている。

ったのである。 になっていたせいでもあろう。 家族の人たちほとんどが、 このような調子であった。毎年やってくる台風には、 この台風九号が、 史上最大の台風とは、 夢にも思っ τ 慣 ķ١ れ · つ な *†*>

の机や、本だななどは、 になっていたo 十時近くになって、 本は外に出しておいたので、 とつ然、 めちゃ かろうじてよかったものの、 くちゃになっていた。急なできごとに、 たたき起こされた。 飛び起きて見ると、 絵やプリント類 信じられな 屋根が飛 はビショ ば い気持 ż 'n Ĕ シ

しばらくして台風の目にはいった。

家の回りに、 いう間に、 これはしめたと思い、ぼくと父はガラスがわれた所を外側から雨戸を打ち付けた。ア またたく間にバリバリと玄関がこわされ、 今度は反対から吹き返しが始まった。二・三○分もたたないうちにやって来たの 板をくぎづけし続けた。 また、 屋根が飛ばされ た。父と、 それでも、 ッと

寝たのが、午前一時前だった。

はがれ、ただ柱だけ立っているという家がたくさん目にとまった。 朝起きておどろいた。ほとんどの家が、こわされていたからだ。 屋根は飛 ばさ η· べ は

ごさということを知らなかったのではないだろうか。ここに大きな問題があると思う。 今度の台風で、これだけの被害を受けた大きな原因は、 だれもが台風のこわさ、 い力、 す

大事だと思われた。 ないようにしたり、 家をしばり上げたりしておけば、これだけのひ害にならなかっただろう。また、 石垣をこわ したりし ない で 自然を人間の手で大切に育てていくことが 木を切ら

「自然に逆らっては、いけない。

このことは、忘れてはならないのだ。

だった。 その日から復旧作業 小が始ま っ た。 Œ < は学校を休ん で 家の手伝い を し た。 自衛隊も 必死

けを続けた。 人間が自然を開発して いこうとするから、 このようなことになる。 そう思い ながら後片付

二度と、このような台風は、来てほしくない

#### 台 の 対

#### 知 名 一面立下平川 小六 年

る様子もない。これでい どうするの かお だろうか。 そっ に友だちと、 てきそうだ。帰りがけにまわりの家々を見ても、あまり台風の対策をしていてきそうだ。帰りがけにまわりの家々を見ても、あまり台風の対策をしていたちと、台崖のことでじょうだんをしながら歩いていく。空はどす黒く今に Ų١ のだろうかとちょっと心配になってきた。 今すぐおそっ てきたら

夕方ごろ、 父母が畑 から帰っ てき た。

「のんきだな、もっと早く帰っ てく ħ ば ķ٦ ķ١ の الا 0

と思った。

κ

はいり、すい 兄と姉は早く じ 7)3 ばの ら帰っ サッ τ シにつっ ķ١ τ, 台 1風に備 かえ棒をした。 え ķ١ Ł 'nź し しそうだっ た。 そ ħ が t ع み ts

(これだけでも つ か な、これで 41 ķ١ の か な。  $\overline{\phantom{a}}$ 

不安である。

子だ。 るのでは....。 たて出した。となりの家 九時ごろから、 母はそうでもない。 不安になり父を見ると、 ٤ ٦. の屋根が飛ばされたんじゃないかな。ぼくの家ももうすぐ飛ばされーヒューガタガタ、ヒューガッチャン、ゴロゴロ。」とすごい音を サ ッシをじっ g. とながめていた。 (がんじょうだからだいじょうぶ)と言う ا ع ガッチャン、 កំព<sub>ំ</sub> 」とすご よう ţ١ な様 音

そいで、父がかすがいをうちつけた。そして屋根を指さして、 「ヒュ!ヒューブオンヒュルルルル。 」すごい音を立て、 す 1.1 じ ば Ð 屋根が う ŧ あ が つ た。

「もうこの屋根飛ぶかもわからないな。」

ッシに当てると同時に、 「あぶないあぶない、たたみを持ってこい。」と大声をはり上げた。 と心配そうに言った。 そのしゅん間「ピキッピキピキ。 サッシが音をたてて割れた。その時間 <u>ト</u> と サ はとてもとても長く感じられ ッ シ ĸ 父がたたみを取り、 Ţ び が は 6 っ た。

かえ棒をはめこんだり、 つの間に い、父は ガラスで足を切ってあっ お ぜんを寄せたりでつかれ果て たので、ぼくたち た。 で、 たた みを運んだり、 ر-

急に回りが静かになった。

「台風の目だ。

ははしごを出し、 みんなに言っ た。

早く早く、 肥料を持ってこい。 ----

と屋根に立って言う。 今はこの方法しかな Ç١ と思い、 体が いまにもつぶれそうに 15. ŋ なが

「肥料ほい。

台所の屋根が浮きあが と兄にわたす。 兄は父 ~ ° っ ていたので、 もう屋根の 兄や姉といっしょに台所の屋根にも乗せた。 上には、 2 0 丰 p グラム の肥料が五つ六つ乗 せ 5 れ た。

の目にはいり急い で やっ た。これだけの仕事 で、 そ の後の ふき風 しの風には、 あまり

で

な

っ

## 台風九号沖永良部台風となる

# 知名町立下平川小六年 甲 斐 久 美

下がっていた。 なか寝むれなかった。 七時四○分ぐらいになって電気が消えたので、 う夜になり七時三○分ごろから、電気がついたり消えたりしたので、 友人と去年 夕方になるにつれて風が強くなった。夕方の台風情報を聞いたが、 ・の台風の話などをした。そして学校から帰ってからハト小屋にロープをまいた。 このまま接近すれば、わたしたちの沖永良部に上陸するようになる。とうと の台風情報は、風速五十五メートルだった。昨年の十七号と同じだ。学校で 雨戸を閉めた。 そして、とこにつ ローソクを用意した。 風速四十五メートルに いたが なか

腔していたのである。ドドドとゆれたので、ふろ場に、 の中の窓ガラスが割れた。 そのうちに、風は強くなってきたので、この島に近づいていると感じた。 ひ難した。 しばらくすると、ふろ場 す でに台風は上

部屋のガラスがみんな割れていた。おまけに、教科書はびしょぬれになっていた。それでみ かえしがはじまった。 んなとり出して、おし入れに入れた。 それから三〇分ぐらいしてから台風の眼に入った。さっそく二階へ行ってみたら、ぼ ハトもひ難させて、ふろ場にもどった。 すると、 ふき くの

ュマ はがれていた。 台風は、通り過ぎたが、風はまだ歯かった。 ルの木が、大きい枝のまま折れていた。となりの家の台所の屋根もなく、 今度は外に出て余多の家々の様子を見に行った。 自分の家はどうも なかったが、 表のトタンが家の前のガジ 表 の

うことであった。 なかったのが原因で、 商店は屋根全部飛ばされていた。 それに、 少々ふるくなっても、 今度の台風で思ったことは、「サッシ 雨戸 の準備はして おく。 にたより、雨 ــ ع

したり、昔のように地面をほり下げて作らなかったりしなかったので、 の台風では、 たと思う。 多くの家が、風当たりのひどい所に家を建てたり、じゃまな木などを切 このような被

から家を作るなら、 台風などに強いじょうぶな家を作らねばと思う。

交通機関や工業などの技術だけでなく、 地しん、 台風などの技術にも、 もっ と力 を入 τ

### 沖永良部台風

知名町立下平川小六年 小 倉 まゆみ

暴風対策も終わって、夕食を済ませ、 , D W び りとくつろい でいた。 急に母が、

「へんな音がするよ。」

倉庫にかえて、わたしたちは、 いたので、戸を打ちつけ、 と心配そうな顔で言ったので、みんな東側の部屋に行ってみた。 もうふをかかえて、牛小屋にひなんした。 そこで、寝ることにした。 そこは、 け れども、 かべが弱くなっ 危険を感じ、

朝起きて、家の中を見ると、 っ たに違い な 41 めちゃめちゃだった。 初めに破れたのはきっ Ł あの東側の

東側 ĸ ^ ţ١ さえあ れば、 こ ん なに大きな被害を受けなくて済んだのにと、 思 7

安心して、ゆだん· 思えば、わたし れば・・・・・。それから、ゆだんしていなけれ の真中にかためておいたそうだ。 たりもした。 わたしは、 かと、今度の台風から反省させられ教えられた。 家の回りには、必ず木か、へいがあり、家はぼろでもいい、じょうぶでさえあ してい の家 の たからだろう。 か べ板は、 わたしたちは、台風のこわさを知らずに、 んな弱いものだっ 父の幼い頃は、台風にそなえ、家具類はみんな部屋 ば、こんな、 たのかもしれない。 破害が おこらなくて ゆだんしていた。 そ 3n 'n 红 だんじ

この教訓をいつまでもかみしめていこう。

# 九〇七ミリバールの沖永良部台風

の九号台風で、 ほとんどの家がやられたが、家の構造に問題があるように思われる。 知名町立下平川小六年

割れたので、 たことばを思い出した。その後、ねてから、しばらくして十時 ねる前に父が、「この家がたおれたら、 すごい風だ。 風速六十メートルはあるのではないかと想像した。 ら、しばらくして十時ぐらいのこと、パほとんどの家がないくらいだろう。」 ハリンと窓がと言ってい

れていたので、びっくりした。 その後少したってから、無風情態に なり、外に出てみると、 一、二軒の家が、 す でにこわ

のことを心配しながら、 する時、ぼくを育ててくれた、 三〇分ぐらいたったろうか。 今までの状況を話している。 おばあさんもそこにやってきた。ふろ場の中で今度は、ふき返しがきたので、ふろ場にひなん した。 は、七人で家 Q, なん

がくずれ まいわれていたので、父が雨戸でふさいだ。それからはみんな、 翌朝、近所をまわってみたら、ほとんどの家がやられていたのでびっくりした。それに家 風が少し弱まった後、三十分くらいしてから、兄と父を先頭に家の中 ている所もありましたので、 台風のこわさ、 おそろしさが初 家の中の二部屋で寝た。 めて に入ってみる わかっ た よう

「こんなにひどく、家がやられたのは、家の中にいても、 直そうとして、大きなけがをするからではないだろうか。 旧作業には、 いない方が安全だ。 ぼくも手伝った。その作業をしている時、 ٤ どうしてだろうと思い、ひとり考えをして いなくても同じこと。 耳 に入ってきたことば みた。 いっそうの 家が があ < つ

などと、うで組みしながら言っている。その姿は、真剣なものであっ 父が、そばで不安そうに、「ぼろでもいいから、 がんじょうな家を置らん とい かゝ なあ。

ちろん、屋根までも吹きはがされ、家は全蔵してしまうと、 今度の台風 シの窓だけにたよっていては、物切れが飛んできて、ガラスを割ってしまえば、 で、教えられたことは、家の周囲には、 動かぬように、 ささえをし、 くぎ付けをすることの大切さを教えられ 防風対策をすることで いうことだ。サッシの外からも あ 9 天井はも た、サ た

州電工や自衛隊 百名近く の人たちが 1/F 薬を なさ つ τ お ح τ ф あり が た

## 史上最大の沖永良部台風

# 知名町立下平川小六年 東 公 .

電気の調子がおかしくなり、 雨戸をしめるようにとのことだったので、すぐしまし っ てきた。 消えたり、 その時 ついたりし出 は風がもう強く吹いていた。 た。し 「した。 りめた後、 テレビを見てい 父はすぐ、ぼくに たら、

間に 安全な場所に整理した。家族は、 し整理をし始め、ぼくは学用品類を全部、雨にぬれたり、吹き飛ばされたりしないように、 そのうちに、 風がぴたりと止まった。台風の目にはいったのである。 風ははげしくなり、 不安な気持ちで、みんな目まぐるしく動いている。いつの あちこちから雨もりがしてきたので、 母は、 ふとん を出

家の戸は、雨もりがしただけだったが、 タンや板ぎれなどでい っぱいだった。 庭を のぞいてみると、 どこ か ら飛 W C 来た の か

風が、 三〇分ほど過ぎたとき、また風が強く吹き出した。 父はすぐ庭に回り雨戸を打ちつけた。 もうれつに吹き出した。するとアッと言う間に、 ふき返しだ。 玄関のサッシ 今度は、反対側 がグラグラとゆ か らの強 ħ

打ちつけが終わるまでは、気が気ではない。

家の中にはいる父の姿を見ると、ほっとした。

たのに、 ことを思い 風のことが頭に浮かんできた。このテラスも昨年の台風には、びくともせず、じょうぶだっ ぼくは、なかなか寝つかれず、 今度の台風 出している はすごいなと、 うちに、 起きて外を見たら、テラスが破れている。ふと、 そのは げしさ Ę ただ、 おそれるばかりである。 昨 そんな 年の台

かかえて来て、すぐくぎづけをし、雉をしのいだ。 に行って見ると、上の方のガラスが落ちて割れていた。 ショパ リンパ リン。 」を言うすさまじい音が 父も、その音でかけ し た。 その音のするとぐち つつけて、 (台所) 板を

ラス戸でも、 ぼくは思った。どんな台風でも、 朝起きて見ると、 板でくぎづけをし、 かべやガラス戸があちこち、破れたりはずされた 少しでも防風の対策をしなければならないということを知 気をゆるすことなく、雨戸をとりつけ、 りしていた。 たとえ 小さな

に小さな台風であってもゆだんしてはいけ には慣れっ子になっていたぼくだが、 史上最大のこの沖永良部台風を体験してから、 ないということを今後も心得ておこう。

知名町立下平川小六年生文集

「沖永良部台風」より